

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第10集

ICHII

# 市 位 遺 跡

希望ヶ丘西区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)

1998年

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第10集

ICHII

# 市 位 遺 跡

希望ヶ丘西区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)

1998年

宮崎県埋蔵文化財センター



市位遺跡遠景（北東から）

# 序

埋蔵文化財の保護・活用に対しまして、日頃より深い御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

このたび宮崎県教育委員会では、希望ヶ丘西区画整理事業に伴い市位遺跡の発掘調査を行いました。本書はその報告書です。

今回の調査では、縄文時代の集石遺構や弥生時代の竪穴住居が検出され、大量の弥生土器や古代の土器が出土しました。これらの中には北部九州地域との交流を物語る土器も含まれていました。先人の歩みを振り返り、郷土の歴史を解明する貴重な資料を得られたことは大きな成果と言えるでしょう。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、並びに地元の方々から心からの謝意を表します。

平成10年3月

宮崎県埋蔵文化財センター  
所長 藤本健一

# 例 言

- 1 本書は、希望ヶ丘西区画整理事業に伴い宮崎県教育委員会が行った市位遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 市位遺跡は、調査当初から郡司分地区遺跡と呼称し関連諸文書でもそのように取扱ってきたが、字名の再確認により「大字本郷南方字市位」と確定したため、今後は市位遺跡と統一して呼称する。
- 3 発掘調査は、3次に分けて実施し、それぞれ次の期間で行った。  
第1次調査 平成7年1月18日～同3月31日（A区、担当：橋本英俊）  
第2次調査 平成7年5月8日～同6月21日（A区・B1区、担当：東憲章）  
第3次調査 平成7年8月1日～同9月19日（B1区・B2区、担当：久木田浩子）
- 4 現地での実測・写真撮影等の記録は橋本、東、久木田が行い、空中写真については業者に委託した。
- 5 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行った。図面の作成、実測、トレースは主として橋本、東、久木田が行い、一部を整理補助員の協力を得た。
- 6 本書で使用した位置図は国土地理院発行の5万分の1図を基に作成し、調査範囲図は宮崎県住宅供給公社作成の千分の1図を基に作成した。
- 7 土層断面および土器の色調は『新版標準土色粘』に拠った。
- 8 本書で使用した方位は、全体図が座標北、個別遺構図は磁北である。磁北は、座標北から約6.2°西へ振れる。座標は国土座標第Ⅱ系に拠る。レベルは海拔絶対高である。
- 9 本書で使用した遺構略号は次の通りである。  
SA・・・竪穴住居跡      SC・・・土坑      SI・・・集石遺構
- 10 本書の執筆は橋本、東、久木田が分担し、文責は日次に示した。編集は東が行った。
- 11 出土遺物・その他諸記録は宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

# 本文目次

第I章	はじめに	
第1節	調査に至る経緯	(東) 1
第2節	調査の組織	(東) 1
第II章	遺跡の位置と環境	(橋本) 2
第III章	調査の概要	
第1節	調査の経緯	(東) 4
第2節	遺跡の基本構造	(東) 4
第IV章	調査の記録	
第1節	A区の調査	(橋本・東) 6
第2節	B区の調査	(東・久木田) 54
第V章	自然科学分析の結果	(株式会社 古環境研究所) 94
第VI章	まとめ	
	・縄文時代の市位遺構	(久木田) 106
	・市位遺跡の弥生土器	(橋本) 106
	・古代の市位遺跡	(東) 108
	・総括	(東) 110

# 挿図目次

第1図	遺跡位置図	3
第2図	市位遺跡周辺地形図	5
第3図	市位遺跡A区全体図、谷部土層断面図	7~8
第4図	A区出土弥生土器実測図 壺1	10
第5図	A区出土弥生土器実測図 壺2	11
第6図	A区出土弥生土器実測図 壺3	12
第7図	A区出土弥生土器実測図 壺4	13
第8図	A区出土弥生土器実測図 壺5	16
第9図	A区出土弥生土器実測図 壺6	17
第10図	A区出土弥生土器実測図 壺7	18
第11図	A区出土弥生土器実測図 壺8	19
第12図	A区出土弥生土器実測図 壺1	23
第13図	A区出土弥生土器実測図 壺2	24

第14图	A区出土弥生土器实测图	壶3	25
第15图	A区出土弥生土器实测图	壶4	26
第16图	A区出土弥生土器实测图	壶5	27
第17图	A区出土弥生土器实测图	壶6	28
第18图	A区出土弥生土器(高坏·甕·壶·鉢)、土師器(甕·碗)实测图		29
第19图	A区出土須惠器实测图	坏·壶	34
第20图	A区出土須惠器实测图	壶·甕	35
第21图	A区出土須惠器实测图	甕	36
第22图	A区出土土師器实测图	甕1	39
第23图	A区出土土師器实测图	甕·瓶·壶·碗	40
第24图	A区出土布纹土器·黑色土器实测图		41
第25图	A区出土土師器实测图	坏1	42
第26图	A区出土土師器实测图	坏2	43
第27图	A区出土土師器(坏3·碗)、陶磁器实测图		44
第28图	A区出土遺物实测图		45
第29图	A区出土石器实测图(1)		53
第30图	A区出土石器实测图(2)		54
第31图	市位遺跡B区全体图		57~58
第32图	SA1实测图		59
第33图	SA1出土遺物实测图		60
第34图	SA2实测图		61
第35图	SA2出土遺物实测图(1)		62
第36图	SA2出土遺物实测图(2)		63
第37图	SA3实测图		64
第38图	SA3·SA4出土遺物实测图		65
第39图	SA4实测图		66
第40图	SC1实测图		66
第41图	B1区遺構外出土遺物实测图(1)		67
第42图	B1区遺構外出土遺物实测图(2)		68
第43图	B2区基本土層图		71
第44图	SA5实测图		74
第45图	SA5出土遺物实测图(1)		75
第46图	SA5出土遺物实测图(2)		76
第47图	SA6实测图		77
第48图	SA6出土遺物实测图		78

第49図	SA7実測図	79
第50図	SA7出土遺物実測図	80
第51図	SA8実測図	81
第52図	SA8カマド実測図	81
第53図	SA8出土遺物実測図	82
第54図	SC2・3、SC4・5実測図	83
第55図	SC2出土遺物実測図	83
第56図	SC3出土遺物実測図	84
第57図	SI1~8実測図	86
第58図	集石遺構出土遺物実測図	87
第59図	B2区遺構外出土遺物実測図(1)	88
第60図	B2区遺構外出土遺物実測図(2)	89

## 表 目 次

第1表	A区出土土器観察表(1)	14
第2表	A区出土土器観察表(2)	15
第3表	A区出土土器観察表(3)	20
第4表	A区出土土器観察表(4)	21
第5表	A区出土土器観察表(5)	30
第6表	A区出土土器観察表(6)	31
第7表	A区出土土器観察表(7)	37
第8表	A区出土土器観察表(8)	46
第9表	A区出土土器観察表(9)	47
第10表	A区出土土器観察表(10)	48
第11表	A区出土土器観察表(11)	49
第12表	A区出土土器観察表(12)	50
第13表	A区出土土錘・石器計測表	51
第14表	B区出土土器観察表(1)	69
第15表	B区出土土器観察表(2)	70
第16表	B区出土土器観察表(3)	90
第17表	B区出土土器観察表(4)	91
第18表	B区出土土器観察表(5)	92
第19表	B区出土土器観察表(6)	93

## 图 版 目 次

卷頭图版 市位遺跡遠景

图版 1 市位遺跡A区遺構

图版 2 市位遺跡A区出土遺物(1)

图版 3 市位遺跡A区出土遺物(2)

图版 4 市位遺跡A区出土遺物(3)

图版 5 市位遺跡A区出土遺物(4)

图版 6 市位遺跡A区出土遺物(5)

图版 7 市位遺跡A区出土遺物(6)

图版 8 市位遺跡A区出土遺物(7)

图版 9 市位遺跡A区出土遺物(8)

图版10 市位遺跡A区出土遺物(9)

图版11 市位遺跡A区出土遺物(10)

图版12 市位遺跡B区遺構(1)

图版13 市位遺跡B区遺構(2)

图版14 市位遺跡B区出土遺物(1)

图版15 市位遺跡B区出土遺物(2)

图版16 市位遺跡B区出土遺物(3)

图版17 市位遺跡B区出土遺物(4)

图版18 市位遺跡B区出土遺物(5)

图版19 市位遺跡B区出土遺物(6)

图版20 市位遺跡B区出土遺物(7)

图版21 市位遺跡B区出土遺物(8)

图版22 市位遺跡B区出土遺物(9)

图版23 市位遺跡B区出土遺物(10)

图版24 市位遺跡B区出土遺物(11)

图版25 市位遺跡B区出土遺物(12)

图版26 市位遺跡B区出土遺物(13)

图版27 市位遺跡B区出土遺物(14)

图版28 市位遺跡B区出土遺物(15)

图版29 市位遺跡B区出土遺物(16)

# 第I章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

宮崎県住宅供給公社では、希望ヶ丘西土地区画整理事業に伴って宅地造成を行うことを計画し、平成5年5月、計画地内の文化財の有無について照会があった。県文化課による現地踏査の結果、2ヵ所で文化財の所在が確認された（A地区＝市位遺跡、B地区＝枯木ヶ迫遺跡）。協議の結果、市位遺跡については平成6年度内に発掘調査を行うこと、枯木ヶ迫遺跡については平成10年度以降に調査を行うこととなった。また、市位遺跡（丘陵裾部）の上方、丘陵斜面およびテラス面についても遺跡の所在が予想されたことから、B区とし平成7年度に確認調査を行うこととした。平成6年11月、市位遺跡の調査依頼が住宅供給公社から文化課へ提出され、平成7年1月に調査に着手した。調査は、3月31日までを第1次調査とし、5月8日から第2次調査を再開した。2次調査に合わせてB区の確認調査を行い、丘陵上の斜面地で整穴住居跡2基を検出し、丘陵中腹のテラス面でも遺物の出土が確認された。協議の結果、第3次調査として平成7年8月1日から9月19日の期間でB区の調査を行うこととなった。

## 第2節 調査の組織

市位遺跡の調査の組織は次の通りである。

調査主体 宮崎県教育委員会

（平成6・7年度：発掘調査）

教 育 長	田原 直廣
教 育 次 長	八木 洋・中田 忠
文 化 課 長	江崎 富治
課 長 補 佐	田中 雅文
主幹兼庶務係長	高山 恵元
主幹兼埋蔵文化財第一係長	岩永 哲夫（平成6年度、平成7年度 主幹兼埋蔵文化財第二係長）
主事（調査担当）	橋本 英俊（第1次調査）
同	東 憲章（第2次調査）
同	久木田浩子（第3次調査）

（平成8・9年度：整理作業）

宮崎県埋蔵文化財センター

所 長	藤本 健一
副 所 長	岩永 哲夫
庶 務 係 長	三石 泰博
調査第一係長	岩永 哲夫（平成8年度 兼務）
同	面高 哲郎（平成9年度）
調査第二係長	北郷 泰道（平成8年度）
同	岩永 哲夫（平成9年度 兼務）

## 第二章 遺跡の位置と環境

市位遺跡は、宮崎市大字本郷南方市位に所在する。

本遺跡は宮崎市の南部、日向灘の海岸線から西へ約3kmに位置し、平野部に向かい西から東へと舌状に延びる低位丘陵の先端部に立地する。丘陵は谷により開析され、細い尾根状をなしている。調査地の標高は、A区丘陵裾部が約8m、弥生時代中期の住居跡を検出したC区丘陵上で約30mである。

本遺跡の東南の丘陵上には、弥生時代から古墳時代の遺物が散布する西田第一・第二遺跡、奈良時代の須恵器を生産したとされる松ヶ追窯跡、溝状遺構や平安時代の土師器を出土した榎木田遺跡・平田遺跡がある。谷を挟んだ南西側の丘陵には、辻遺跡・須田木遺跡・若宮田遺跡が立地している。辻遺跡からは、前平式・吉田式・塞ノ神式といった縄文早期の上器群が、須田木遺跡では、下剝峰式・塞ノ神式土器が出土し、縄文時代早期の集石遺構172基やカマドを持つ平安時代の住居跡などが検出されている。

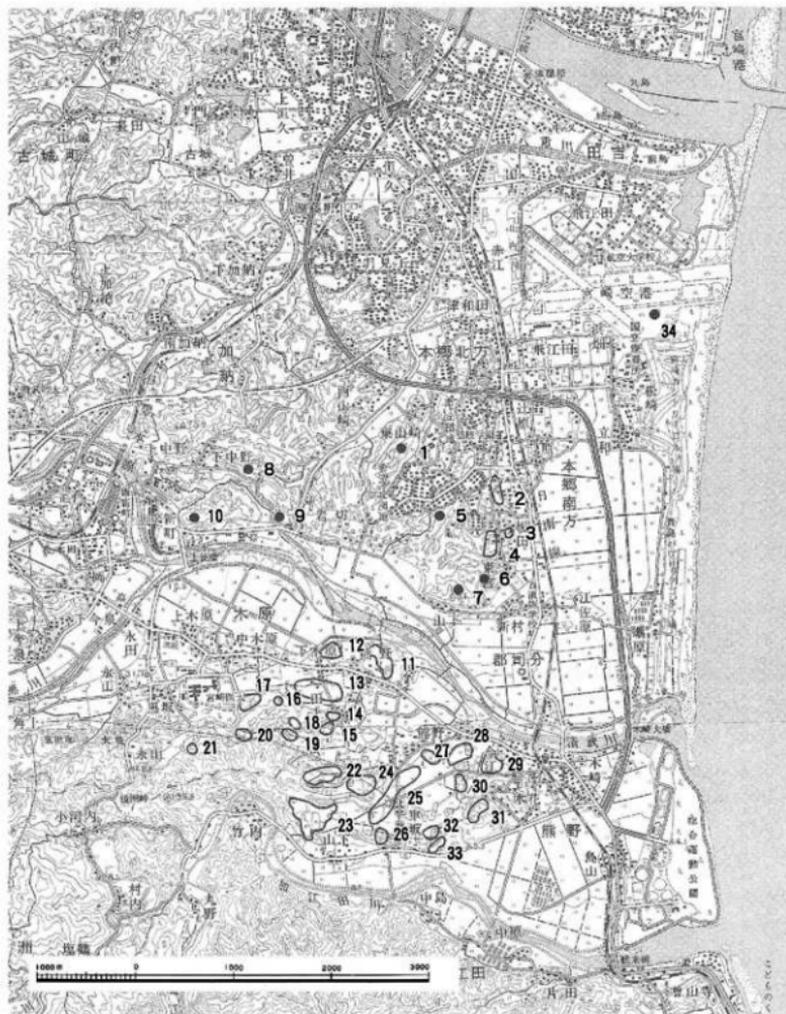
これまで付近で確認された弥生時代の遺跡は、海岸線にほど近い砂丘上と比較的広い台地上に確認されていた。砂丘上の代表的な遺跡に、後期の壺形土器や鉢形土器などが出土した赤江遺跡がある。台地上では、清武川を挟んで南側に位置する宮崎学園都市遺跡群内に、今回の調査で出土した夜戸式系の土器や弥生時代中期後半から後期前半の土器を出土した前原北遺跡をはじめ堂地東遺跡・陣ノ内遺跡・浦田遺跡など弥生時代の遺構・遺物を検出した多数の遺跡が所在する。しかし、本遺跡のようにやせた尾根上にも住居跡を確認できたことは、今後弥生時代の住居のあり方を考える上で貴重な成果だと言える。またA区で検出された谷地形の中に大量の弥生中期から後期の土器が流れこんでいることから周囲に継続的に集落が形成されていた可能性も考えられる。

古代では、市位遺跡がのる低位丘陵の南辺に、平安時代末期のものとして推定される銅製積上式経筒が発見されている。経筒は、相輪形つまみのある笠蓋に、4段積積の筒身と2段台底からなる重厚なものである。また、平安時代には、律令制の有名無実化が進み日向のほとんどが荘園化してしまっている。

中世に入ると、建久8年(1197)の「建久図田帳」に市位遺跡を含む本郷南方・郡司分一帯は、「田代千五百二町」を占める国富荘八条院女領の一円荘として登場する。本遺跡は、国富荘の中心「国富本郷二百四十町」にあたると思われる。

### 〈参考文献〉

- |          |      |                                  |
|----------|------|----------------------------------|
| 茂山 護     | 1972 | 『宮崎県の経塚地名録』「研究紀要」第三輯 宮崎県総合博物館    |
| 日高次吉     | 1979 | 『宮崎県の歴史』 山川出版                    |
| 宮崎県      | 1989 | 『宮崎県史』資料編 考古1                    |
| 宮崎県教育委員会 | 1971 | 『九州縦貫自動車道(宮崎線)関係遺跡分布調査報告書』       |
|          | 1985 | 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集             |
|          | 1988 | 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第4集             |
| 宮崎市教育委員会 | 1990 | 『宮崎市遺跡詳細分布調査報告書II』(リゾート地区を中心として) |



- 1 市位遺跡 2 西田第二遺跡 3 櫻田遺跡 4 西田第一遺跡 5 松ノ迫窯跡 6 平田遺跡 7 経筒出土地点  
 8 須田木遺跡 9 若宮田遺跡 10 辻遺跡 11 木花古墳群 12 北ノ原遺跡 13 下原遺跡 14 小山尻東遺跡  
 15 田上遺跡 16 小山尻西石塔群 17 下田畑遺跡 18 蒲田遺跡 19 入料遺跡 20 赤坂遺跡 21 山内石塔群  
 22 堂地西遺跡 23 平畑遺跡 24 堂地東遺跡 25 熊野原遺跡 26 犬馬場遺跡 27 前原西遺跡 28 前原北遺跡  
 29 今江城跡 30 前原南遺跡 31 木花遺跡 32 陣ノ内遺跡 33 東坂城西ノ城跡 34 赤江遺跡

第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

## 第三章 調査の概要

### 第1節 調査の経過

市位遺跡の調査対象地は、丘陵上の斜面（B1区）、中段のテラス面（B2区）および裾部微高地（A区）である。各調査区の位置関係を把握し測量実測の基準とするため、国土地理院に合わせた10mのグリッドを設定した。

A区は調査対象面積950㎡である。重機にて表土を除去すると、3ヶ所で土器の集中が見られた。トレンチにより土層の観察を行った結果、埋没した谷地形であることが確認された。弥生時代を中心とした大量の土器群が含まれており、付近に営まれた集落からの廃棄や転落の可能性が指摘された。土器群には、在地系のものに加えて北部九州系のものも含まれていた。土器の取り上げは、谷地形への流れ込み（廃棄？）という状況を考慮し、埋土層毎に一括して行った。調査区の南端ではビッド、土坑、溝等が検出されたが、掘立柱建物の認定は困難であり、出土遺物も僅少であったため詳細な時期や性格付けは留保された。A区出土遺物には、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器等がある。灰釉陶器・緑釉陶器も僅かながら出土している。

A区での土器の大量出土を受けて、丘陵斜面および中段テラス面での遺構・遺物の存在が推定されることとなり、トレンチを設定し確認を行った。いずれの地点においても竪穴住居跡が検出されたため、B1区、B2区として本調査を行った。

B1区は調査面積580㎡である。東西20mの調査区幅で比高差4mと急な斜面である。竪穴住居跡4基、土坑1基を検出した。他に円形竪穴状の落ち込み2基（1基は円形配置のビッドを伴う）を検出したが、トタン板等が検出されたため、昭和期のものと判断した。竪穴住居は、弥生時代3基（中期～後期）、古墳時代1基（後期）である。

B2区は調査面積630㎡である。2段のテラス状地形で、集石遺構8基、竪穴住居跡4基、土坑2基を検出した。竪穴住居は、弥生時代2基（中期～後期）、古墳時代1基（後期）、平安時代1基である。平安時代のものには、カマドが造り付けてあった。溝状遺構が1条検出されているが、周辺に遺物の散布が見られ、傾斜のために床面が検出出来なかった住居跡の可能性も指摘された。B1区、B2区出土遺物には、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器等がある。

### 第2節 遺跡の基本構造

市位遺跡は、平野部に張り出した丘陵上に営まれた弥生時代から平安時代にかけての集落遺跡である。検出された住居跡は、弥生時代5基、古墳時代2基、平安時代1基である。集落規模は小さいものの、斜面地に占地する住居群として注目される。丘陵裾部微高地との比高差は、B1区で約20m、B2区で約13mである。B区は周辺地形の中で最高標高を有する丘陵に立地しており、B1区からは周囲数kmの眺望を持つ。南へ約3kmの宮崎学園都市遺跡群までも望むことが可能である。

5基検出された弥生時代の竪穴住居は、B2区のSA6・7が切り合いを見せている。SA7が先行し、竪穴の大部分が埋没した段階でSA6が営まれている。これを裏付けるものとして、SA6出土土器とSA7上面で検出された土器溜まり出土のものの一部に接合関係が確認されている。他の3基は同時存在を否定する要素は見られず、最大で4基の同時存在が想定される。

丘陵裾部に見られた谷地形には大量の土器が流入しており、人為的な廃棄の可能性も指摘される。



第2図 市位遺跡周辺地形図 (1/2,000)

## 第IV章 調査の結果

### 第1節 A区の調査

重機による表土除去を行った結果、比較的浅い部分から遺物の混入が認められたため、うすく剥ぐにとどめた。調査区の西端には、二次アカホヤの堆積が認められたものの、調査区の大部分は、丘陵上からの流土によって埋没したとみられる3ヶ所の小規模な谷地形に占められていた。北側から谷1、谷2、谷3とした。遺物の出土状況を見ると、谷1は、第3層の極暗褐色土から、谷2は第6層の黒褐色土、谷3は第3層の極暗褐色土を中心とするが、上層から下層にわたってほぼまんべんなく出土がみられた。遺物は、中期を主体とする大量の弥生土器と須恵器・土師器・布痕土器であった。谷1～谷3間では弥生土器・須恵器について接合関係が認められるものもあった。調査区の南西において幅約30cm、深さ15cmを計り、南北方向に延びる溝が確認された。溝によって区画された範囲には、柱穴と思われるビットが検出され、埋土内から平安時代後期の土器片が出土した。屛敷地の1区画ではないかと考えたが、獨立柱建物としては認定し得なかった。

以下、谷の埋土中から出土した遺物の記述を行う。埋土の上層と下層での遺物の出土状況は時期差を反映するものではなかったため一括して取り扱う。

#### ・弥生中期の土器

##### 壘

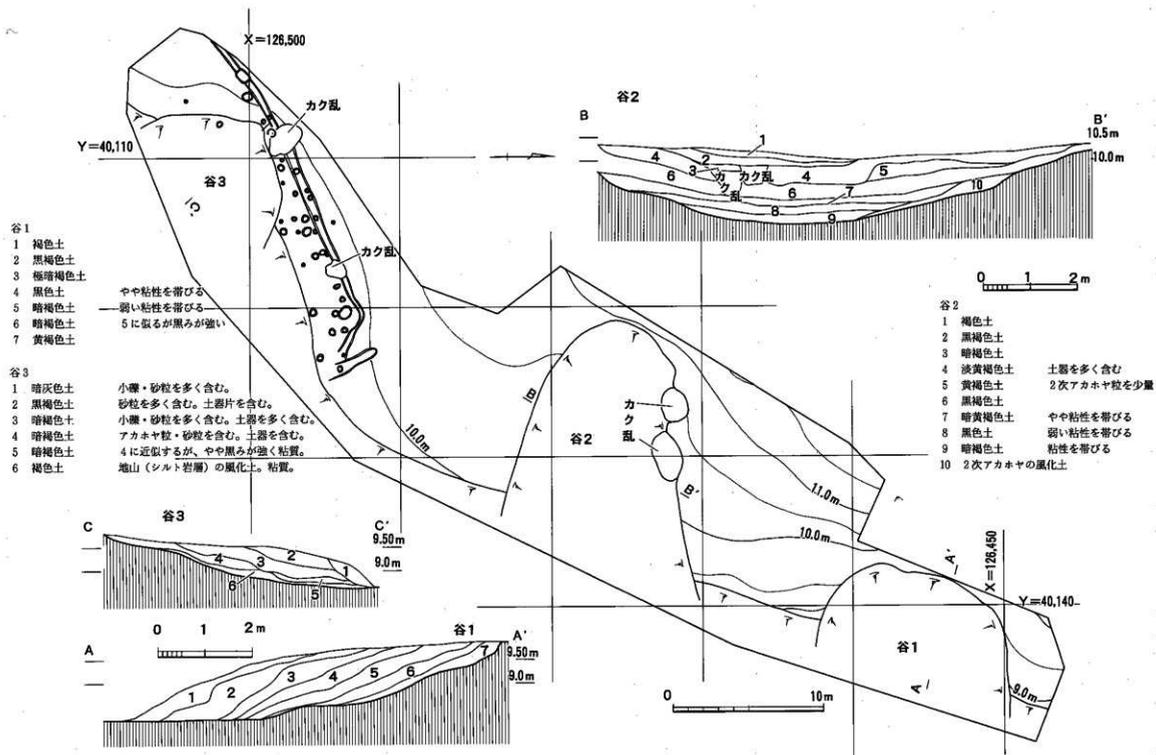
壘は口縁から胴部を7類に底部を5類に分類し、完形に近い土器についてはその複合とした。

##### 口縁1類

いわゆる下城式系の壘である。口縁部の形態と突帯の位置によりA～Fに分類した。

- A 内湾する口縁をもち一条の突帯をもつ (1～3)
- B 直立またはやや外反する口縁をもち、口縁端部より1cm程度に1条の突帯をもつ
  - 1 突帯上のみに刻目を施す (7・8)
  - 2 突帯と口唇部に刻みをもつ (9・14)
  - 3 突帯と口唇部に上下同時に施された刻目をもつ (5・16)
- C 直立する口縁部をもち二条の突帯をもつ
  - 1 上下同時に刻目を施す (12)
- D 直立またはやや外反する口縁をもち、口縁端部より2～3cmに1条の突帯をもつ
  - 1 突帯上のみに刻目を施す (17・18)
  - 2 突帯と口唇部に刻みをもつ (6・10・13)
  - 3 突帯と口唇部に上下同時に施された刻目をもつ (4・11・15・19・20)
- E 直立する口縁をもち、突帯が高く深い刻みをもつ (21・22)
- F 外反する口縁をもち、口縁端部より2～3cmに1条の突帯をもつ
  - 1 突帯と口唇部に刻みをもつ (23)

その他特徴のあるものとしては24がある。底部がやや上げ底を呈し、口縁部が大きく外反し、端部は面取りされる。分類上はF類に近くここでは壘として扱ったが、形態的には鉢的な要素を持つ。



第3図 市位遺跡A区全体図(1/250)、谷部土層断面図(1/80)

## 口縁2類

口縁が明確な貼り付けによって構成されるもので、断面の形状によってA、Bに分類する。

B類については、断面形が長方形、台形を呈するものがあるが突帯の大きさを基準とした。

A 口縁の断面が三角形を呈するもの (25~27・48)

- 1 口径が10cm程度のもの (26・27)
- 2 胸部に突帯をもつ (25・48)

B 口縁の断面が台形もしくは長方形を呈し内面が凹むもの (29~47・49~56)

- 1 小さな台形状を呈する (29・32・33・35・46・49)  
33、35は胸部に細い1条の沈線をもつ
- 2 不整な長方形を呈し長くのびる (30・31・34・37・39・40・43・53)  
37は櫛描波状文をもち、39は胸部に細い1条の沈線をもつ。
- 3 上面が丸く外傾する (36・38・41・42・44・45・47・50・54)
- 4 口縁下に刻目突帯をもつ (62)
- 5 口唇部に突帯ないし沈線をもつ (51・52・55・56)

## 口縁3類

L字もしくはL字に近い口縁をもつものを3類とした。

A 端部が丸いもの (64~66・69)

64の壺は内面に丁寧なミガキ調整が施されている。

B 端部がはね上げ状になる (67・68・70~72)

## 口縁4類

くの字口縁をもつものを4類とした。

A 端部がはね上がるもの (83~94)

- 1 刷毛目原体による横方向の刺突文をもつ (84・89~94)
- 2 刺突文をもたない (83・85~88)

83はやや胴中央部がはり、口径28.4cm、器高35cmで、やや上げ底状になる充実高台がつく。

B 口縁部がやや外反気味で胸部があまり張らない (73~77・95~97)

C 頸部下に突帯をもつ (78~82)

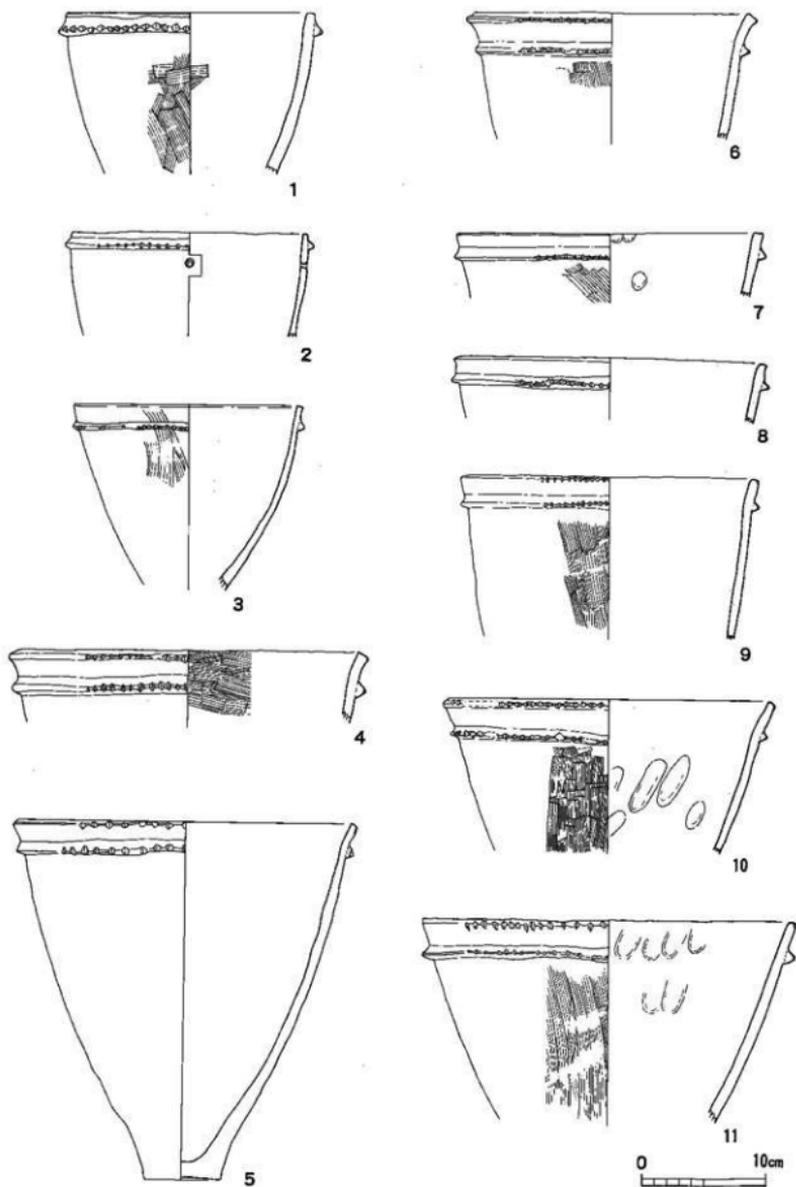
口縁5類 口唇部に刻みをもつ。(98)

口縁6類 頸部に太めの押圧刻みによる1条の突帯をもつ。(99・100)

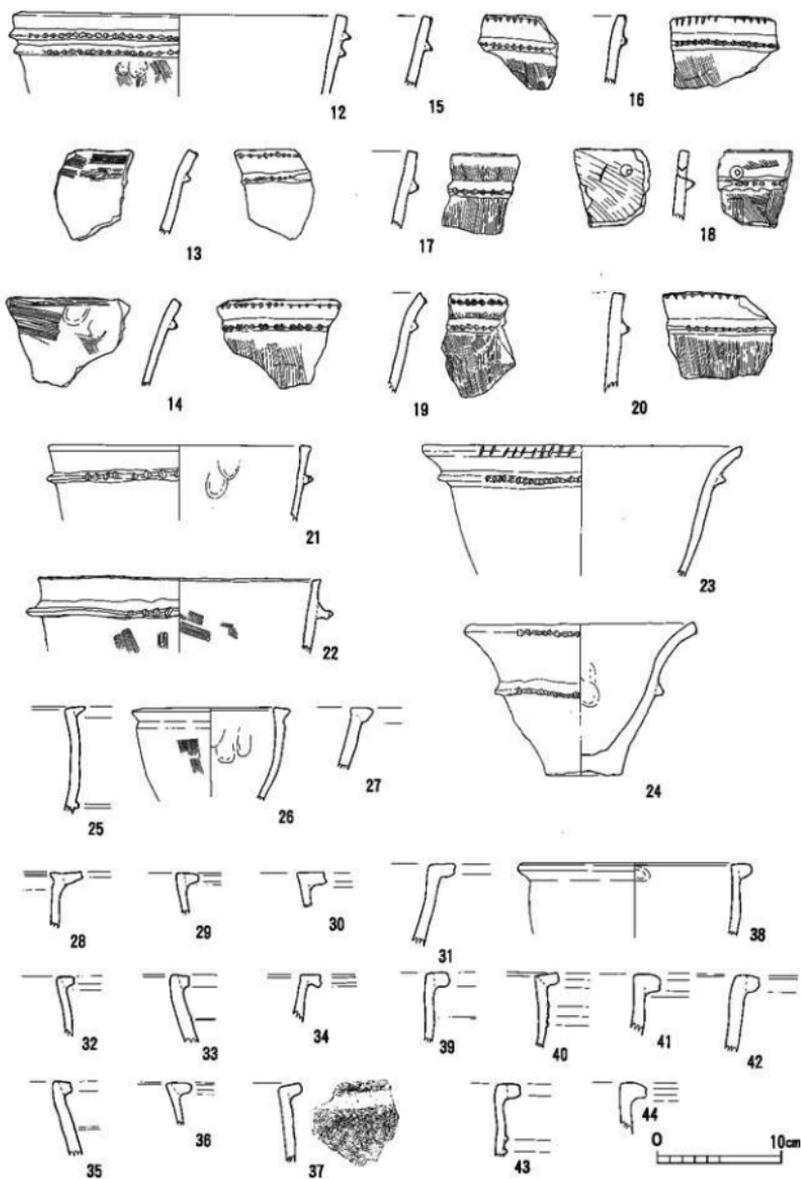
## 口縁7類

大體を7類とする。

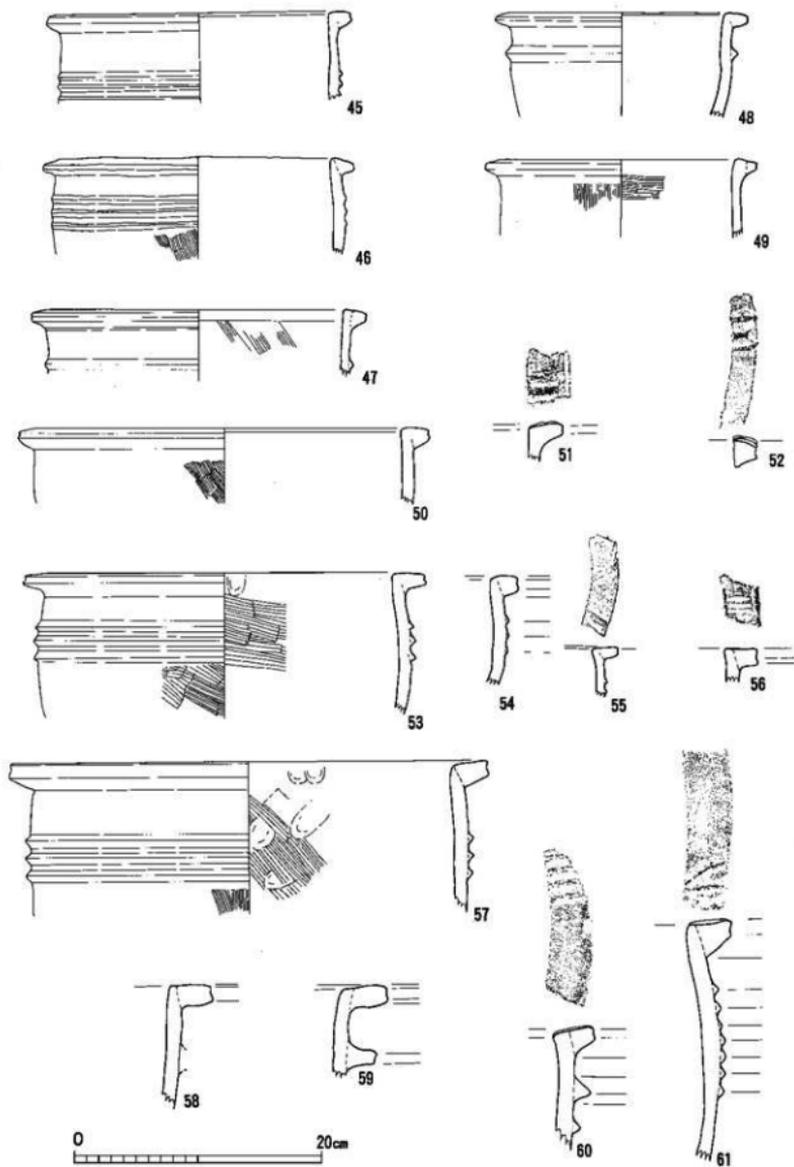
A L字口縁を呈し口縁下に1条の突帯をもち、口唇部に3本1組の楕円形の突帯を5カ所もつ



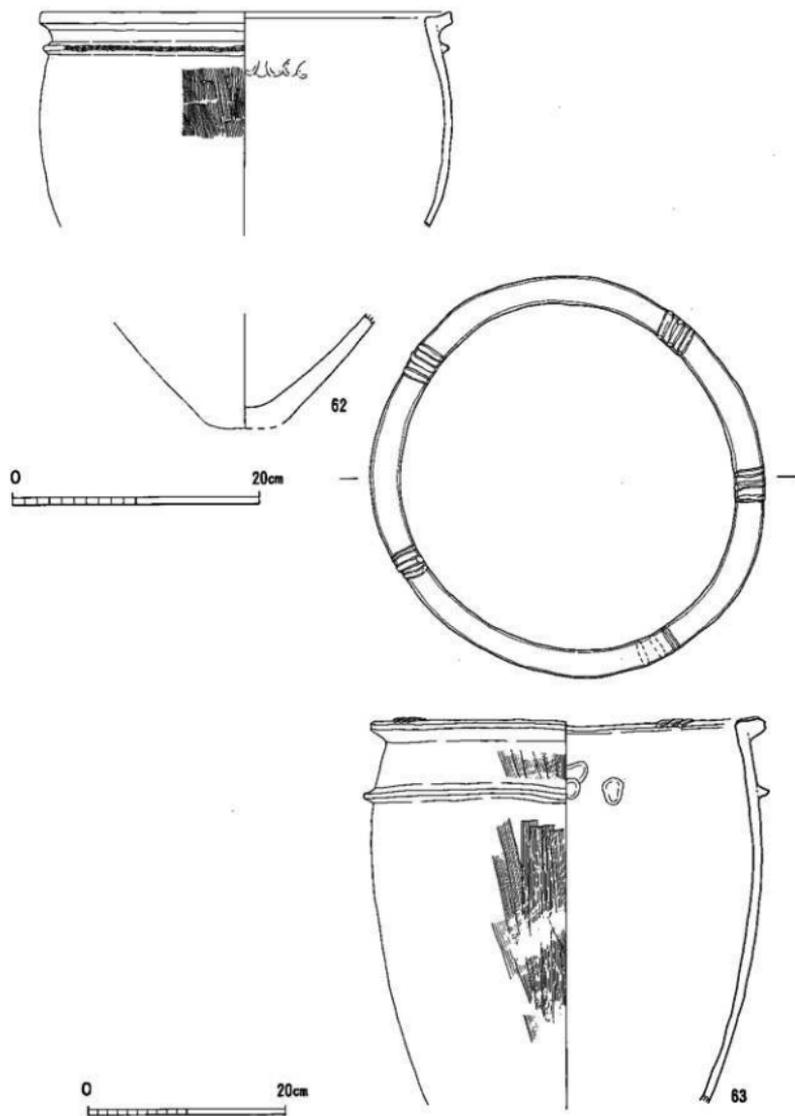
第4图 A区出土弥生土器实测图(整1)(1/4)



第5图 A区出土弥生土器实测图(卷2)(1/4)



第6图 A区出土弥生土器实测图(壺3)(1/4)



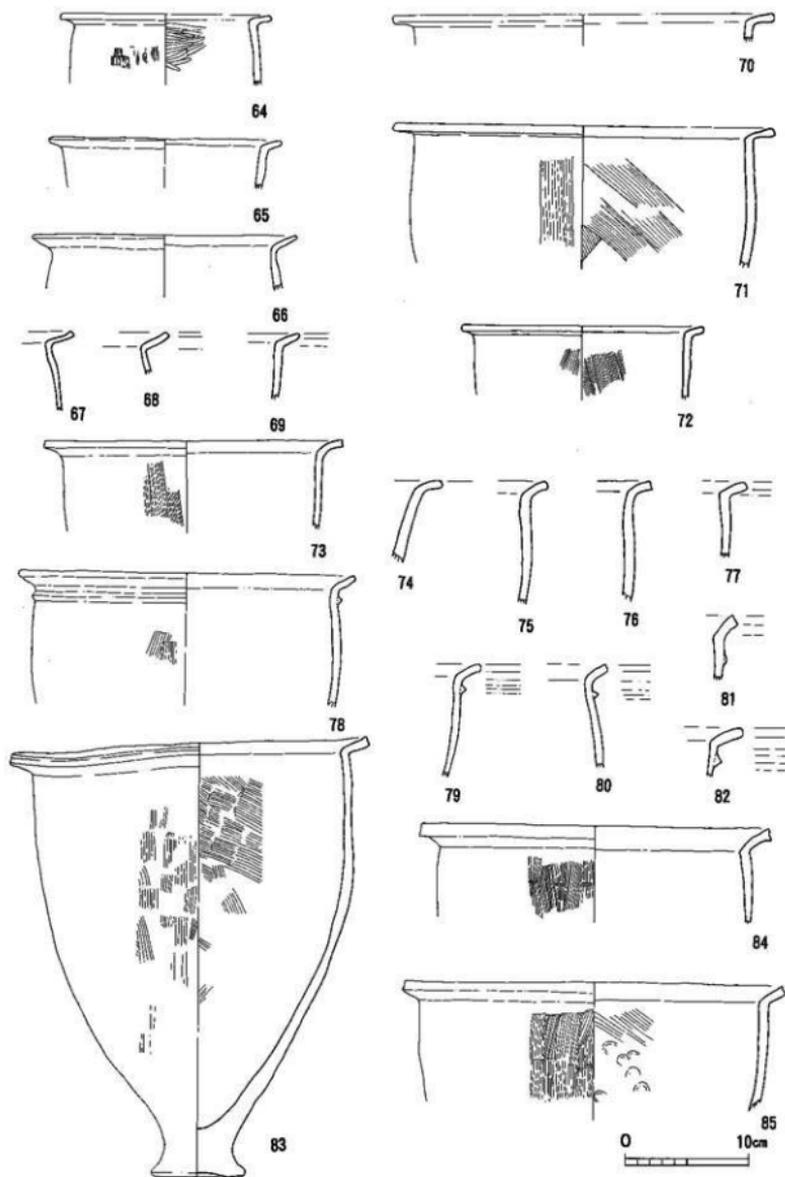
第7図 A区出土弥生土器実測図(雙4)(62は1/4、63は1/5)

第1表 A区出土土器観表(1)

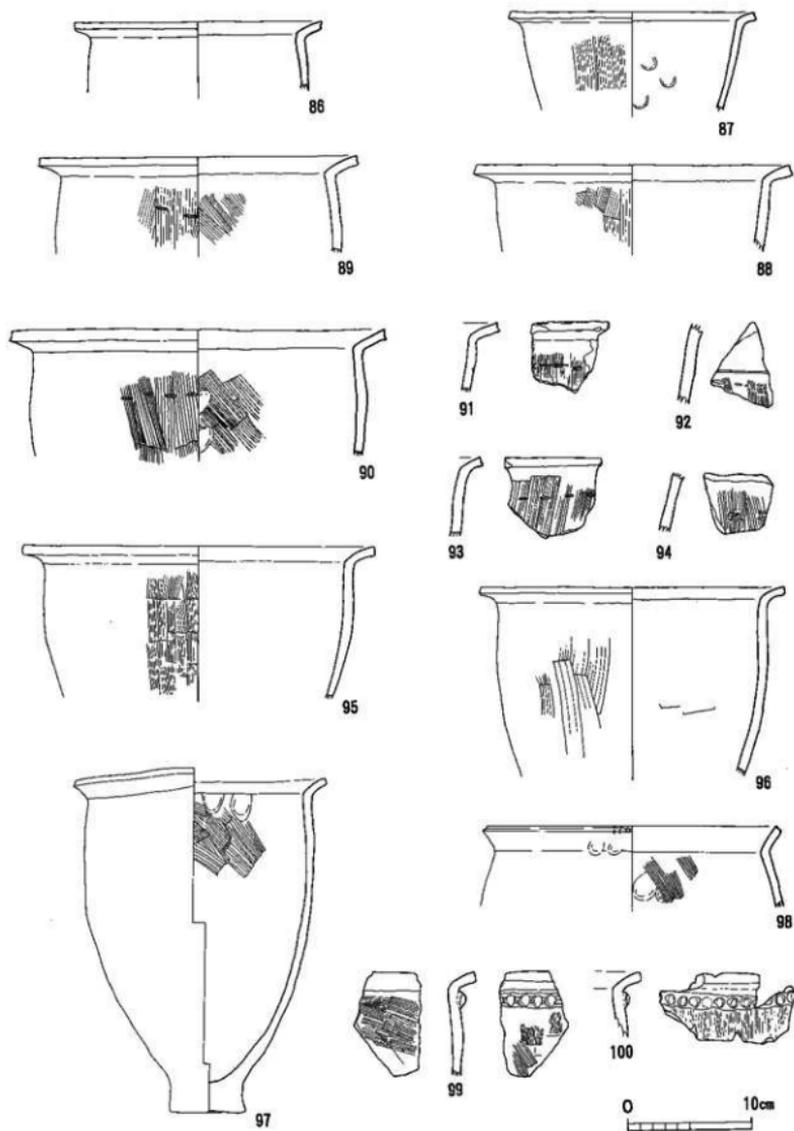
遺物番号	種別	器種・部分	出土地点	法量 (cm)			手法・製法・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口徑	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1	赤土器	壺	庭前	19.3			ナデ・ハケ目、割み目突帯、スス付帯	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	2mm以下の褐色の砂粒	下城系
2	赤土器	壺	A区谷1	18.6			ナデ、割み目突帯、スス付帯、穿孔	コソナデ・工具ナデ		黄	2mm以下の褐・黒・赤、白色の砂粒	下城系
3	赤土器	壺	A区谷2	18.4			ナデ・ハケ目、割み目突帯、スス付帯	ナデ	黄	黄	3mm以下の灰白・灰褐色の砂粒	下城系
4	赤土器	壺	A区谷3	27.2			割み目・ナデ・割み目突帯、ハケ目の後ナデ	ハケ目	にぶい黄褐色	暗黄褐色	4mm以下のにぶい黄褐色・灰白・褐色の砂粒	下城系
5	赤土器	壺	A区谷1	26.7	6.1	28.9	割み目・ハケ目の後ナデ、割み目突帯、ハケ目、スス付帯	コソナデ・ナデ・スス付	黒褐色	暗褐色	1~3mmの乳白・褐色の砂粒 2mm以下の透明な光沢粒	下城系
6	赤土器	壺	A区	22.1			ナデ・スス付帯	ナデ	にぶい黄褐色	暗褐色	2~8mmの乳白色の塵・2mm以下の乳白・褐色の砂粒、透明・茶色の光沢粒	下城系
7	赤土器	壺	A区谷1	24.8			ナデ・割み目突帯、ハケ目	コソナデ・指線痕	浅黄褐色	暗黄褐色	1.5mm以下の赤褐・褐・黒・灰白色の砂粒、透明な光沢粒	下城系
8	赤土器	壺	A区谷2	25.2			ナデ・割み目突帯	コソナデ・ナデ	黄褐色	明赤褐色	1mm以下の乳白色の砂粒	下城系
9	赤土器	壺	A区谷3	23.4			割み目突帯、ハケ目、ハケ目の後ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	3.5mm以下の乳白色の砂粒 1mm以下の透明な光沢粒	下城系
10	赤土器	壺	A区谷2	26.0			割み目・ナデ、割み目突帯、ハケ目・スス付帯	コソナデ・指線痕	にぶい黄褐色	黄	7mm以下の赤褐色 3mm以下の透明・灰白・灰黄色の砂粒	下城系
11	赤土器	壺	A区谷1	30.6			割み目・ナデ・ハケ目、割み目突帯、スス付帯	ナデ・指線痕	にぶい黄褐色	黄	4mm~6mmの乳白色の塵 2mm以下の白色の砂粒	下城系
12	赤土器	壺	A区	25.5			ナデ、割み目突帯、ハケ目	ナデ・コソナデ	にぶい黄褐色	黄	6mmの灰白色の塵 2mm以下の赤褐色・茶褐色の砂粒、透明な光沢粒	下城系
13	赤土器	壺	A区				割み目・ハケ目の後ナデ、割み目突帯	ナデ・ハケ目	暗黄褐色	暗黄褐色	2mm以下の灰白・灰白・茶色の砂粒	下城系
14	赤土器	壺	A区谷1				割み目・ナデ、割み目突帯、ハケ目	ナデ・指線痕・ハケ目の後ナデ	灰	にぶい黄褐色	2mmの乳白・灰褐・灰白の砂粒	下城系
15	赤土器	壺	A区谷1				割み目・ハケ目の後コソナデ・割み目突帯、ハケ目、スス付帯	ナデ・ハケ目の後ナデ	黄褐色	黄褐色	3mm以下の白色砂粒 1mm以下の浅黄色の砂粒	下城系
16	赤土器	壺	A区谷2				割み目・ナデ、割み目突帯、ハケ目	ナデ	にぶい黄褐色	黄	0.5mm程度の褐色の塵 1mm以下の灰褐色の砂粒	下城系
17	赤土器	壺	A区				ナデ・ハケ目の後ナデ、割み目突帯、ハケ目	ナデ・指線痕	にぶい黄褐色	黄	4~5mmの乳白色の塵 2mm以下の赤・灰・茶色の砂粒、透明な光沢粒	下城系
18	赤土器	壺	A区谷2				ナデ・ハケ目・穿孔、割み目突帯、ハケ目の後ナデ	ハケ目の後ナデ	にぶい赤褐色	暗黄褐色	3mm以下の乳白・にぶい赤褐色の砂粒	下城系
19	赤土器	壺	A区				割み目・割み目突帯、ハケ目・スス付帯	ナデ	にぶい黄褐色	黄	2mm以下の赤・灰白・褐色の砂粒 0.5mm以下の金色光沢粒	下城系
20	赤土器	壺	A区谷3				割み目・ナデ・ハケ目、ハケ目の後コソナデ、割み目突帯	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	4~7mmの褐色・灰白の塵 2mm以下のにぶい黄褐色の砂粒	下城系
21	赤土器	壺	A区谷1	19.6			ナデ・割み目突帯、スス付帯	ナデ・指線痕 スス付帯	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	3mm以下の赤褐・灰白の砂粒 灰白色の光沢粒	下城系
22	赤土器	壺	A区谷1	22.6			ハケ目の後ナデ、割み目突帯、スス付帯	ハケ目の後ナデ スス付帯	黄	黄褐色	2mm以下の暗褐色の砂粒 透明な光沢粒、茶色光沢粒	下城系
23	赤土器	壺	A区谷2	25.6			割み目・ナデ、割み目突帯	ナデ	黄	黄	1mm以下の透明な光沢粒 茶色光沢粒	下城系
24	赤土器	壺・鉢	A区谷1	18.1	8.2	12.2	ナデ・指線痕 割み目突帯・スス付帯	ナデ・指線痕 スス付帯	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1~4mmの褐色の塵 3mm以下の乳白・白色の砂粒	下城系
25	赤土器	壺	A区谷2				貼付突帯、ナデ、割み目突帯	ナデ・指線痕	にぶい黄褐色	黄褐色	7mmの乳白色 3mm以下の赤褐色・透明な光沢粒	
26	赤土器	壺	A区谷1	10.6			ナデ ハケ目の後ナデ・スス付帯	コソナデ・指線痕 スス付帯	黒褐色	黒褐色	2.5mm以下の金色光沢粒	
27	赤土器	壺	A区谷2				ナデ スス付帯	コソナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	1mm以下の浅黄色の砂粒 透明な光沢粒	
28	赤土器	壺	A区				胴縁の凸線部不明	胴縁の高線部不明	浅黄褐色	浅黄褐色	3mm以下の赤褐・黄・灰・茶色の砂粒、透明な光沢粒	
29	赤土器	壺	A区谷2				ナデ スス付帯	ナデ	暗黄褐色	黄褐色	2mm以下の黄・褐色の砂粒 灰白の光沢粒	
30	赤土器	壺	A区				ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	3mm以下の褐・灰色の砂粒	
31	赤土器	壺	A区谷3				ナデ ハケ目、スス付帯	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	3mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の光沢粒	
32	赤土器	壺	A区谷2				ハケ目	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	3mm以下の褐・暗褐色の砂粒	
33	赤土器	壺	A区谷1				貼付突帯、浅い凸線 ナデ・スス付帯	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の赤褐・灰白・黒の砂粒 透明な光沢粒	
34	赤土器	壺	A区谷1				ナデ・スス付帯	ナデ・スス付帯	黒褐色	黄褐色	2mm以下の褐色の砂粒 1.5mm以下の乳白色の砂粒	
35	赤土器	壺	A区谷1				ナデ・凸線	ナデ・黒底	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の灰・灰・黄・白の砂粒、透明な光沢粒	
36	赤土器	壺	A区谷3				ナデ	ハケ目の後ナデ	にぶい黄褐色	黄褐色	2.5mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明な光沢粒	
37	赤土器	壺	A区谷2				ナデ・ハケ目 指線痕状文、スス付帯	ナデ	黄	黄	2mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明な光沢粒	
38	赤土器	壺	A区	16.9			ナデ ハケ目、スス付帯	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の褐色の砂粒 透明、茶色光沢粒	
39	赤土器	壺	A区谷2				ナデ、浅い凸線	指線痕、ハケ目 ナデ	黄褐色	黄褐色	3mm以下の茶色の砂粒 2mm以下の灰・にぶい褐色・暗褐色・透明な光沢粒、茶色光沢粒	
40	赤土器	壺	A区				ナデ、貼付突帯、ハケ目の後ナデ、スス付帯	ナデ スス付帯	灰黄色	にぶい黄褐色	3mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明な光沢粒	
41	赤土器	壺	A区谷3				ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい黄褐色	3mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明な光沢粒	

第2表 A区出土土器観察表(2)

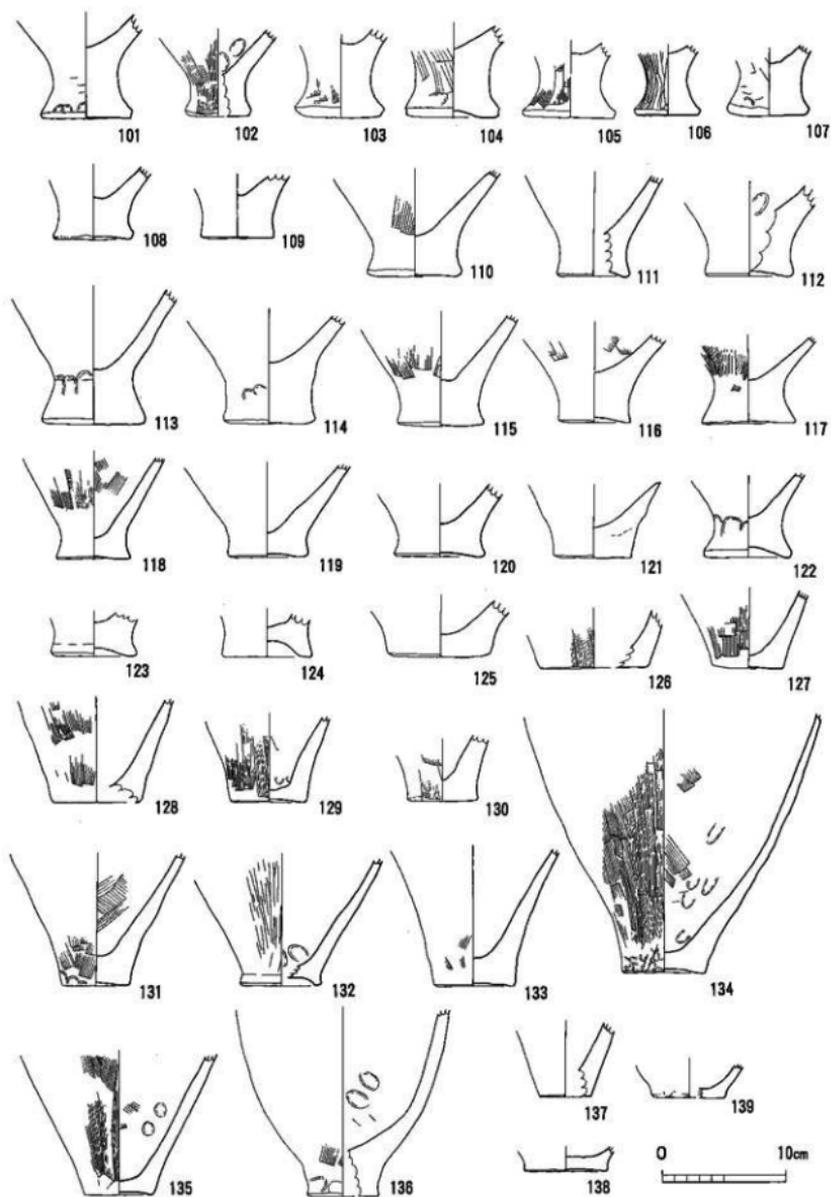
通物番号	類別	器種・部位	出土地点	塗量 (mm)	手法・調査・文様ほか			色調		胎土の特徴	備考	
					口縁	底縁	器高	外面	内面			外面
42	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ ハケ目の後ナデ、スス付着	ナデ、ハケ目の後ナデ 指痕	黄灰	灰黄	2mm以下の黒・残黄褐色 1mm以下の透明光沢粒	
43	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ、貼付突帯	ナデ	黄	黄	3mm以下の褐色の砂粒	
44	弥生土器	甕 口縁	A区				ハケ目、ナデ スス付着	ナデ	灰黄褐色	黄	2mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
45	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	22.2			ナデ 貼付突帯	ナデ	黄	黄	1mm以下の灰・灰白色の砂粒	
46	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	21.8			ナデ、貼付突帯	ナデ	黄褐色	黄	2mm以下の赤褐色・灰色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
47	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	23.5			ナデ 貼付突帯、スス付着	ナデ ハケ目の後ナデ	黄	黄	5mm程度の黒 1mm以下の黒・赤褐色、灰白、黒粘土	
48	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	18.3			ナデ、貼付突帯 スス付着	ナデ	黄褐色	黄	1.5mm以下の乳白・褐色の砂粒 1mm以下の金色光沢粒	
49	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	19.4			ナデ ハケ目	ナデ、ハケ目	黄	黄	2mm以下の茶褐色の砂粒	
50	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	30.0			ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	黄	黄	3mm程度の褐色の砂粒 1.5mm以下の暗褐色・透明光沢粒	
51	弥生土器	甕 口縁	A区				口縁上面に突帯、ナデ スス付着	ナデ	灰黄褐色	黄	2.5mm以下の褐色の砂粒	
52	弥生土器	甕 口縁	A区				口縁上面に突帯、ナデ	ナデ	黄	黄	1mm以下の黒・乳白色の砂粒 透明光沢粒	
53	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	26.7			ナデ、貼付突帯 ハケ目、スス付着	ハケ目、ナデ	黄	黄	2～3mmの黒・灰白の砂粒 透明光沢粒	
54	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ、貼付突帯 ハケ目、スス付着	ナデ、指痕 スス付着	黄	黄	1mm以下の黄・灰白・褐色の砂粒	
55	弥生土器	甕 口縁	A区				口縁上面に条状の指痕 貼付突帯、ナデ、スス付着	ナデ、指痕	黄	黄	2mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
56	弥生土器	甕 口縁	A区				口縁上面に沈線	ナデ	黄	黄	3mm以下の褐色の砂粒 1.5mm以下の透明光沢粒	
57	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	38.3			ナデ 貼付突帯、ハケ目、スス付着	ナデ、ハケ目、指痕	明赤褐色	明赤褐色	3mm以下の灰・乳白・赤褐色の砂粒 1mm以下の金・黒色光沢粒	
58	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ 貼付突帯	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	2mm以下の褐色・明褐色の砂粒 1mm以下の灰白・黒色光沢粒	
59	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				貼付突帯、ナデ	ナデ、指痕	黄	黄	2mm以下の黄・赤褐色・灰白の砂粒	
60	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				口縁上面に突帯、ナデ 貼付突帯・スス付着	指痕、ナデ	黄	黄	2.5mm以下の黒・乳白・赤色の砂粒 1mm以下の透明・黒色光沢粒	
61	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				口縁上面に突帯 ナデ、貼付突帯	ナデ	黄	黄	2mm以下の白・灰・赤褐色の砂粒 透明光沢粒	
62	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	32.3			ナデ、器高目突帯 ハケ目の後ナデ・スス付着	ナデ、指痕 スス付着	黄褐色	黄褐色	1mmの黒色の砂粒 1mm以下の乳白色の砂粒	
63	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	38.9			口縁上面に突帯、貼付突帯、ナデ、ハケ目、スス付着	ナデ、指痕 スス付着	黄	黄	2mm以下の乳白・褐色の砂粒 1～3mmの白・黄・透明・金色光沢粒	
64	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	18.5			ナデ、ハケ目の後ナデ スス付着	ミダテ	灰黄褐色	黄	5mmの灰白の砂 3mm以下の灰白・黄・灰赤白の砂粒	
65	弥生土器	甕 口縁	A区	18.6			ナデ、スス付着	ナデ、スス付着	黄	黄	2.5mm以下の褐色の砂粒	
66	弥生土器	甕 口縁	A区	21.0			ナデ、スス付着	ナデ	黄	黄	3mm以下の褐色の砂粒	
67	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ、ハケ目 スス付着	ナデ、スス付着	黄	黄	0.5～2mmの灰・褐色の砂粒 2mmの白色	
68	弥生土器	甕 口縁	A区				ナデ、スス付着	ナデ	黄	黄	0.5～1mmの灰・褐色の砂粒 3mmの透明の砂粒	
69	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ	ナデ	黄	黄	3mm以下の半透明光沢粒	
70	弥生土器	甕 口縁	A区	30.5			ナデ、スス付着	ナデ	黄	黄	2mm以下の黒・赤褐色・灰褐色・灰白色の砂粒	
71	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	26.3			ナデ、ハケ目 スス付着	ハケ目の後ナデ ハケ目	明赤褐色	黄	2mm以下の赤・赤褐色・黒褐色の砂粒	
72	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	18.3			ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	黄	黄	2mmの灰褐色の砂粒	
73	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	22.8			ナデ、ハケ目の後ナデ ハケ目、スス付着	ナデ	灰黄	黄	2mm以下の黄褐色・黄・黄褐色・黒・赤褐色の砂粒	
74	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ、ハケ目の後ナデ ハケ目、スス付着	ナデ、ハケ目の後ナデ	黄	黄	0.5mm以下の茶褐色の砂粒	
75	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ、ハケ目 スス付着	ナデ	灰黄褐色	黄	1mm以下の褐色の砂粒 透明光沢粒	
76	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ、ハケ目 スス付着	ナデ、ハケ目	黄	黄	2mm以下の黒・灰・茶褐色の砂粒 1mm以下の透明・黒色光沢粒	
77	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ、ハケ目の後ナデ ハケ目、スス付着	ナデ、スス付着	黄	黄	0.5mm以下の茶・褐色の砂粒	
78	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区	25.9			ナデ 貼付突帯、ハケ目	ナデ	黄	黄	1mm以下の茶褐色・灰褐色の砂粒	
79	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ、貼付突帯 ハケ目、スス付着	ナデ	黄	黄	1mm以下の茶褐色・灰褐色の砂粒	
80	弥生土器	甕 口縁→胴部	A区				ナデ、貼付突帯 ハケ目、スス付着	ナデ、ハケ目	黄褐色	黄	1.5mm以下の暗褐色の砂粒 半透明・黒色光沢粒	
81	弥生土器	甕 口縁	A区				ナデ、器高目突帯	ナデ	黄	黄	2mm以下の白・灰色の砂粒 透明・黒色光沢粒	
82	弥生土器	甕 口縁	A区				ナデ、貼付突帯	ナデ	明赤褐色	黄	2mm以下の半透明光沢粒 1mm以下の褐色光沢粒	



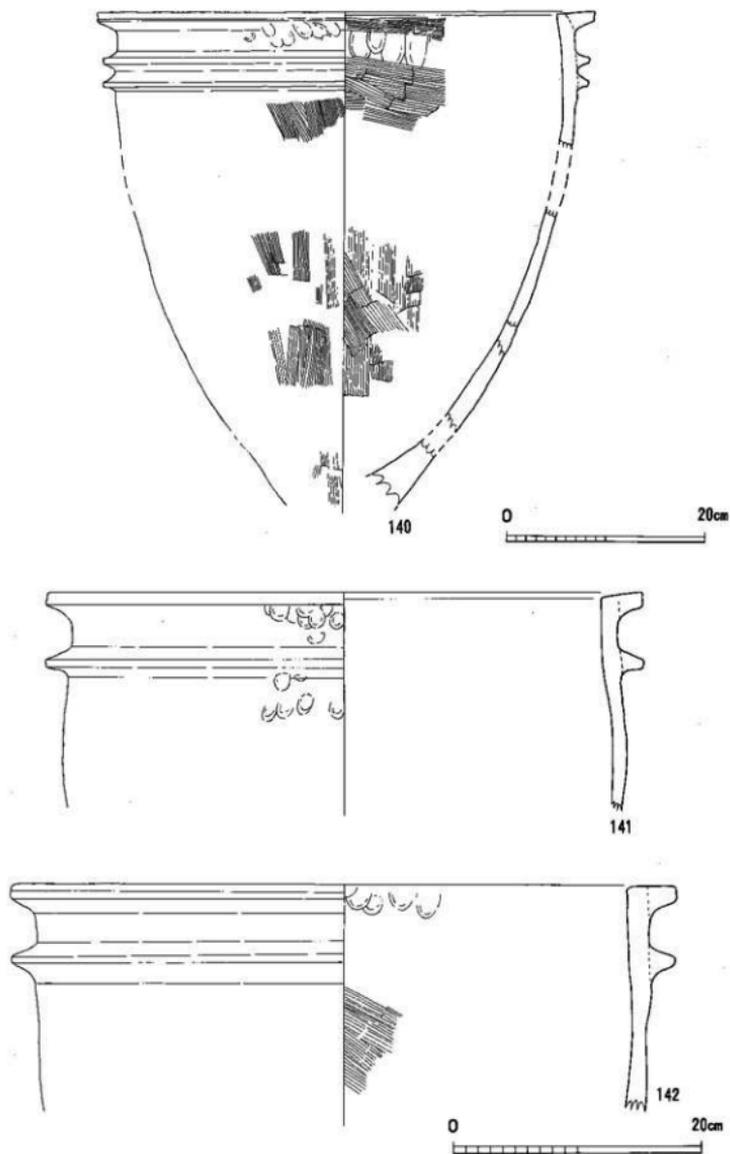
第8图 A区出土亦生土器实测图(罐5)(1/4)



第9图 A区出土弥生土器实测图(壺6)(1/4)



第10图 A区出土弥生土器实例图(壹7)(1/4)



第11図 A区出土弥生土器実測図（壺8）（140は1/5、他は1/4）

第3表 A区出土土器観察表(3)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量 (cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	内面		
83	甕	胴部	A区各1	28.4	7.5	35.0	ナデ、ハケ目 スス付着	ナデ、ハケ目	明黄褐色	2mm以下の褐色の砂粒 1mmの透明光沢粒	
84	甕	胴部	A区各1	28.0			ナデ、ハケ目の後ナデ ハケ目、軟文、スス付着	ナデ、スス付着	淡黄褐色	2mm以下の白・灰・黒・茶・黒色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
85	甕	胴部	A区各1	30.3			ナデ、ハケ目 スス付着	ナデ、ハケ目	淡黄褐色	2mm以下の黒・白・黒色の砂粒 透明光沢粒	
86	甕	胴部	A区各1	19.7			ナデ、スス付着	ナデ	淡黄褐色	1mm以下の黒・褐色の砂粒 0.5mm以下の灰白・黒色光沢粒	
87	甕	胴部	A区各1	19.4			ヨコナデ ハケ目	ナデ	淡黄褐色	2mm以下の茶褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
88	甕	胴部	A区各2	25.0			ナデ、ハケ目	ナデ	淡黄褐色	3mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
89	甕	胴部	A区各2	25.8			ナデ、ハケ目 ハケ目の後軟文	ナデ、ハケ目の後ナデ	淡黄褐色	2mm以下の灰・黒・褐色の砂粒	
90	甕	胴部	A区各2	30.1			ナデ、ハケ目、ハケ目の 後軟文、スス付着	ナデ ハケ目の後指痕	淡黄褐色	2mm以下の灰・褐色の砂粒 透明光沢粒	
91	甕	胴部	A区各1				ナデ、ハケ目の後軟文 スス付着	ナデ、スス付着	淡黄褐色	1mm以下の白・黒・茶・黒色の砂粒、 透明・黄色光沢粒	
92	甕	胴部	A区各1				ハケ目の後ヨコナデ 軟文、軟文	ナデ	淡黄褐色	1.5mm以下の白・黒・茶・黒色の砂粒 0.5mm以下の透明光沢粒	
93	甕	胴部	A区各1				ナデ、ハケ目の後指痕 ハケ目の後軟文、スス付着	ナデ	淡黄褐色	2mm以下の黒・茶・黒・灰色の砂粒	
94	甕	胴部	A区各3				ハケ目の後ナデ、ハケ目の 後二列の軟文、スス付着	ハケ目の後ヨコナデ	淡黄褐色	0.5mm以下の茶・黒色の砂粒 透明光沢粒	
95	甕	胴部	A区各2	28.1			ナデ、ハケ目 スス付着	ナデ	淡黄褐色	3mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
96	甕	胴部	A区各1	24.4			ナデ、ハケ目の後ヨコナデ スス付着	ナデ、工具ナデ スス付着	淡黄褐色	1.5mm以下の茶・灰・黒色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
97	甕	胴部	A区各1	19.5	5.2	18.0	ナデ、ハケ目の後ナデ スス付着	ナデ、ハケ目の後指痕 スス付着	淡黄褐色	1mm以下の灰内・褐色の砂粒 透明光沢粒	
98	甕	胴部	A区各1	23.4			口縁に刻み目、ナデ 指痕、スス付着	ナデ、ハケ目 指痕	淡黄褐色	2mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
99	甕	胴部	A区各1				ナデ、刻み目帯 ハケ目、スス付着	ナデ ハケ目の後ナデ	淡黄褐色	1mm以下の茶・灰・黒・褐色の砂粒 透明光沢粒	
100	甕	胴部	A区各2				ナデ、刻み目帯 ハケ目	ナデ ハケ目の後ナデ	淡黄褐色	2mm以下の茶・灰・黒・褐色の砂粒	
101	甕	底部	A区各1	7.9			ナデ、指痕	ナデ、スス付着	淡黄褐色	1.5mm以下の黒・白・褐色の砂粒、 透明光沢粒	
102	甕	底部	A区各1	5.4			ナデ ハケ目、スス付着	ナデ、指痕	淡黄褐色	1mm以下の白・茶・乳白色の砂粒、 透明光沢粒	
103	甕	底部	A区各1	5.8			ハケ目、ナデ、スス付着	指痕、ナデ	淡黄褐色	2mm以下の褐色の砂粒 透明・黄色光沢粒	
104	甕	底部	A区各1	7.4			ハケ目、ナデ、指痕	ナデ	淡黄褐色	2mm以下の褐色・褐色・乳白色の砂粒、 透明光沢粒	あび底
105	甕	底部	A区各2	7.2			ハケ目、ナデ	ナデ	淡黄褐色	2mm以下の灰・茶・黒・乳白色の砂粒	
106	甕	底部	A区各2	5.0			ミガキ、スス付着	ナデ	淡黄褐色	1.5mm以下の灰・黒・茶・黒色の砂粒	
107	甕	底部	A区各2	4.2			ナデ、指痕	ナデ	淡黄褐色	2mm以下の灰・灰褐色 1mm以下の褐色の砂粒	
108	甕	底部	A区各1	5.0			ナデ	ナデ	淡黄褐色	3mm以下の褐色 1mm以下の透明光沢粒	あび底
109	甕	底部	A区各1	5.8			ナデ	ナデ	淡黄褐色	1.5mm以下の灰白・灰・黒・茶・黒色の砂粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
110	甕	底部	A区各1	7.4			ナデ、ハケ目	ナデ	淡黄褐色	2mm以下の灰・褐色、淡黄色の砂粒 1mm以下の黒・透明光沢粒	
111	甕	底部	A区各2	6.0			ナデ、スス付着	ナデ	淡黄褐色	2mm以下の褐色光沢粒 1mm以下の透明光沢粒	
112	甕	底部	A区各1	7.2			ナデ	ナデ、指痕	淡黄褐色	3mm以下の灰・黒・茶・褐色の砂粒	
113	甕	底部	A区各2	8.2			ナデ、指痕	ナデ	淡黄褐色	2.5mm以下の褐色・灰・茶褐色の砂粒	
114	甕	底部	A区各2	7.4			ナデ、指痕、スス付着	ナデ	淡黄褐色	3mm以下の灰・茶褐色、淡黄色の砂粒	
115	甕	底部	A区各1	6.9			ハケ目の後ナデ スス付着	ナデ	淡黄褐色	1mm以下の灰白・茶・黒色の砂粒 0.5mm以下の透明光沢粒	
116	甕	底部	A区各1	5.9			ナデ、ヨコナデ	ハケ目、ヨコナデ	淡黄褐色	3mm以下の灰・灰・茶褐色の砂粒 1mm以下の褐色光沢粒	あび底
117	甕	底部	A区各1	7.5			ハケ目、ナデ、スス付着	ナデ、スス付着	淡黄褐色	1mm以下の灰白・黒・褐色の砂粒	あび底
118	甕	底部	A区各1	6.0			ハケ目の後ナデ	ハケ目、ナデ	淡黄褐色	4~4.5mmの褐色の礫 1.5mm以下の褐色・透明光沢粒	あび底
119	甕	底部	A区各3	6.3			ナデ	ナデ	淡黄褐色	2.5mm以下の褐色・灰色の砂粒	あび底
120	甕	底部	A区各1	7.4			ナデ	ナデ	淡黄褐色	2mm以下の茶・黒色の砂粒	あび底
121	甕	底部	A区各1	5.4			産化の陶器不明	ナデ	淡黄褐色	3.5mm以下の礫・淡黄褐色の砂粒	あび底
122	甕	底部	A区各1	7.0			ナデ、指痕	ナデ	淡黄褐色	3mm以下の褐色、灰褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	あび底
123	甕	底部	A区各1	6.9			ナデ	ナデ	淡黄褐色	2mm以下の褐色・乳白色の砂粒 1mm以下の褐色・透明光沢粒	あび底

第4表 A区出土土器観察表(4)

通称 番号	類別	器種・ 部位	出土 地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか				色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	高さ	外 面	内 面	外 面	内 面				
124	弥生土器	甕 底部分	A区 谷3	7.3			ナデ	ナデ		灰	灰	1mm以下の灰褐・赤の砂粒	あけ飯	
125	弥生土器	甕 底部分	A区 谷1	8.2			ナデ	ナデ		灰	灰	4.5mm以下の赤褐・灰褐色の礫 2mm以下の黒色の砂粒		
126	弥生土器	甕 底部分	A区 谷1	8.8			ナデ、ハケ目	ナデ		灰	灰	3mm以下の赤・灰色の砂粒 黒色光沢粒		
127	弥生土器	甕 底部分	A区 谷2	6.0			ハケ目の横ナデ スス付着	ナデ、スス付着		灰	灰	7mm以下の褐色粒、1mm以下の透明 光沢粒、1.1mmの乳白色粒		
128	弥生土器	甕 底部分	A区 谷2	8.4			ハケ目、ナデ	ナデ、スス付着		灰	黒	3mm以下の灰白・褐色の砂粒		
129	弥生土器	甕 底部分	A区	6.0			ハケ目のナデ、スス付着	ナデ、指痕類、工具ナデ		灰	灰	4~6mmの乳白色の礫 0.5mm以下の透明・黒色光沢粒	あけ飯	
130	弥生土器	甕 底部分	A区	5.8			ハケ目、ナデ	ナデ		灰	灰	4~8mmの乳白色・灰・赤の礫 2mm以下の透明・黒色光沢粒		
131	弥生土器	甕 胴部~底部分	A区	5.4			ナデ、ハケ目、指痕類	ナデ、ハケ目		灰	灰	3mm以下の黒褐・明褐・灰白・灰黄 の砂粒、透明光沢粒		
132	弥生土器	甕 胴部~底部分	A区 谷1	6.6			ミガキナデ、ヨコナデ、 スス付着	ナデ、スス付着		灰	灰	0.5~3mmの乳白色の砂粒 0.5mm以下の黒色光沢粒		
133	弥生土器	甕 胴部~底部分	A区	5.4			ハケ目	ナデ		灰	灰	5~7mmの黄褐・乳白・褐色の礫		
134	弥生土器	甕 胴部~底部分	A区	6.8			ハケ目、ナデ、スス付着	ハケ目の横ナデ、スス付着		灰	灰	1~3mmの乳白・黄褐・灰色の砂粒・ 2mm以下の黒色・透明光沢粒		
135	弥生土器	甕 胴部~底部分	A区 谷2	3.5			ハケ目、ナデ、スス付着	ハケ目、ナデ、指痕類		灰	灰	5~10mmの灰白・灰褐色の礫、3mm以下の 灰・黒色の砂粒、1mm以下の黒色光沢粒		
136	弥生土器	甕 胴部~底部分	A区 谷1	5.8			ナデ、ハケ目 指痕類、スス付着	指痕類、ナデ		灰	灰	2mm以下の赤・赤色の砂粒 1mm以下の黒色・透明光沢粒		
137	弥生土器	甕 底部分	A区 谷2	4.2			ナデ	ナデ		灰	灰	3mm以下の褐・黒・灰白・灰色の砂粒		
138	弥生土器	甕 底部分	A区	5.6			ナデ、スス付着	ナデ		灰	灰	2mm以下の赤・白・乳白色の砂粒、3mm以下 の透明光沢粒、0.5mm以下の黒色光沢粒		
139	弥生土器	甕 底部分	A区 谷2	10.4			ナデ、スス付着	ナデ		灰	灰	3mm以下の乳白・赤色の砂粒		
140	弥生土器	甕 口縁~底部分	A区 谷1	41.8			ナデ、貼付突柄、ハケ目 指痕類、スス付着	指痕類の横ハケ目、スス 付着		灰	灰	0.5~3mmの赤・黒・褐色の砂粒		
141	弥生土器	甕 口縁~胴部	A区 谷1	42.1			ナデ、貼付突柄、指痕類	ナデ		灰	灰	3mm以下の赤・黒・褐色・灰白の砂粒		
142	弥生土器	甕 口縁~胴部	A区 谷1	45.6			ナデ、貼付突柄、ハケ目	指痕類、ハケ目		灰	灰	1mm以下の乳白・褐色の砂粒 透明光沢粒		
143	弥生土器	甕 胴部~胴部	A区				竹筒文、ミガキの横ナデ 沈線、車気文	ハケ目		灰	灰	1mm以下の褐灰・灰白の砂粒 黒色光沢粒	下城系	
144	弥生土器	甕 胴部~胴部	A区 谷1				横線文、ナデ スス付着	ナデ		灰	灰	2mm以下の赤褐・黄褐・灰白の砂粒 1mm以下の黒色光沢粒	下城系	
145	弥生土器	甕 胴部	A区 谷1				横線文、ナデ	ナデ		灰	灰	1mm以下の灰・黒色の砂粒 透明光沢粒	下城系	
146	弥生土器	甕 胴部	A区 谷1				横線文、ナデ	ナデ		灰	灰	2mm以下の褐・赤褐色の砂粒、透明 ・黒色光沢粒	下城系	
147	弥生土器	甕 胴部	A区				沈線、直線文 ミガキの横ナデ、車気	ナデ		灰	灰	1mm以下の赤・褐色の砂粒 0.5mm以下の黒色光沢粒	下城系	
148	弥生土器	甕 口縁~胴部	A区 谷1	14.8			ナデ、沈線 スス付着	ハケ目、指痕類		灰	灰	3mm以下の赤褐・灰・灰白の砂粒		
149	弥生土器	甕 口縁	A区 谷1				ナデ、ミガキ、スス付着	ナデ		灰	灰	2mm以下の褐灰 1mm以下の透明光沢粒		
150	弥生土器	甕 口縁	A区 谷3	15.4			ナデ	ナデ		灰	明褐	3mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒		
151	弥生土器	甕 口縁~胴部	A区 谷1	16.2			ナデ、スス付着	ナデ、指痕類 スス付着		灰	灰	2mm以下の赤・赤・灰色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒		
152	弥生土器	甕 口縁	A区 谷2	16.8			口縁上面に二重の沈線、 ナデ、指痕類、ハケ目の横ナデ	指痕類、ハケ目の横ナデ		灰	灰	3.5mm以下の褐・黒・灰黄・灰白の 砂粒		
153	弥生土器	甕 口縁	A区	15.5			口縁下面に二重の沈線 ナデ	ナデ		灰	灰	3mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒		
154	弥生土器	甕 口縁	A区 谷2	17.8			口縁上に黒色の沈線 ヨコナデ、ハケ目、スス付着	ヨコナデ		灰	明黄褐	1mm以下の灰・黒色の砂粒 透明光沢粒		
155	弥生土器	甕 口縁	A区	17.5			ナデ、ハケ目	貼付突柄、ナデ、ハケ目		灰	灰	3.5mm以下の褐・乳白色の砂粒 2mm以下の透明・黒色光沢粒		
156	弥生土器	甕 胴部	A区 谷1				ハケ目、ヨコナデ	ヨコナデ、指痕類		灰	灰	2mm以下の灰白・灰色の砂粒		
157	弥生土器	甕 胴部~胴部	A区 谷1				ミガキ、横線文 横線放状文、スス付着	ハケ目、ナデ、指痕類		灰	灰	3mm以下の赤・黒・乳白色の砂粒 1mm以下の黒色光沢粒		
158	弥生土器	甕 胴部~胴部	A区 谷2				ハケ目の上から沈線 横線放状文	ナデ、ハケ目		灰	灰	2mm以下の褐・黒色の砂粒		
159	弥生土器	甕 胴部	A区 谷2				ミガキ、沈線 横線放状文、ナデ	ハケ目		灰	灰	2mm以下の褐・灰色の砂粒		
160	弥生土器	甕 胴部	A区				ナデ、横線放状文	ナデ		灰	明褐	3mm以下の褐色の砂粒 1.5mm以下の透明光沢粒		
161	弥生土器	甕 胴部	A区				ナデ、沈線 横線放状文	ナデ		灰	灰	2mm以下の褐・乳白色の砂粒		
162	弥生土器	甕 胴部	A区				ナデ、横線放状文	ナデ		灰	灰	2mm以下の褐・赤・乳白色の砂粒		
163	弥生土器	甕 胴部	A区 谷1				ナデ、横線放状文	ナデ		灰	灰	4mmの乳白色の礫 1mm以下の透明光沢粒		
164	弥生土器	甕 胴部	A区				ナデ、横線放状文	ナデ		灰	明黄褐	3mm以下の褐色の砂粒		

(63)

- B L字口縁が呈し口縁下に2条の突帯をもち、口径が40cm程度のもの (140)
- C L字口縁がやや立ち上がり口縁下に1条の突帯をもち、口径が43cm程度のもの (141・142)
- D L字口縁がやや立ち上がり口縁下に3条の突帯をもち、口径が40cm程度のもの (57)

大甕の中で58、59は口縁下に1条の突帯をもちC類に入ると考えられるが、口径不明のため分類からはずした。60は口縁下に2条の貼付け突帯をもち、61は胴部に7条の細い三角貼付け突帯をもち、ともに口唇部に細長い突帯を有する。

#### 甕底部

底部1類 充実した底部をなすもの。

- A 充実した 脚台状をなす (101~107)
- B やや厚手で上げ底を呈する (108~117)

底部2類 底部が外反するもの。

- A 底面が平底になる (121)
- B わずかに上げ底になる (118~120)
- C 著しく上げ底になる (122~124)

底部3類 底部が外反しないもの。

- A 底面が平底となる (125~128・130・133・134)
- B わずかに上げ底になる (129・131・135)

底部4類 高台状の底部がつく。(132)

底部5類 厚手で内湾する胴部へとつながる。(136)

その他のものとして、また平底で浅い138や小型で平底の137がみられる。

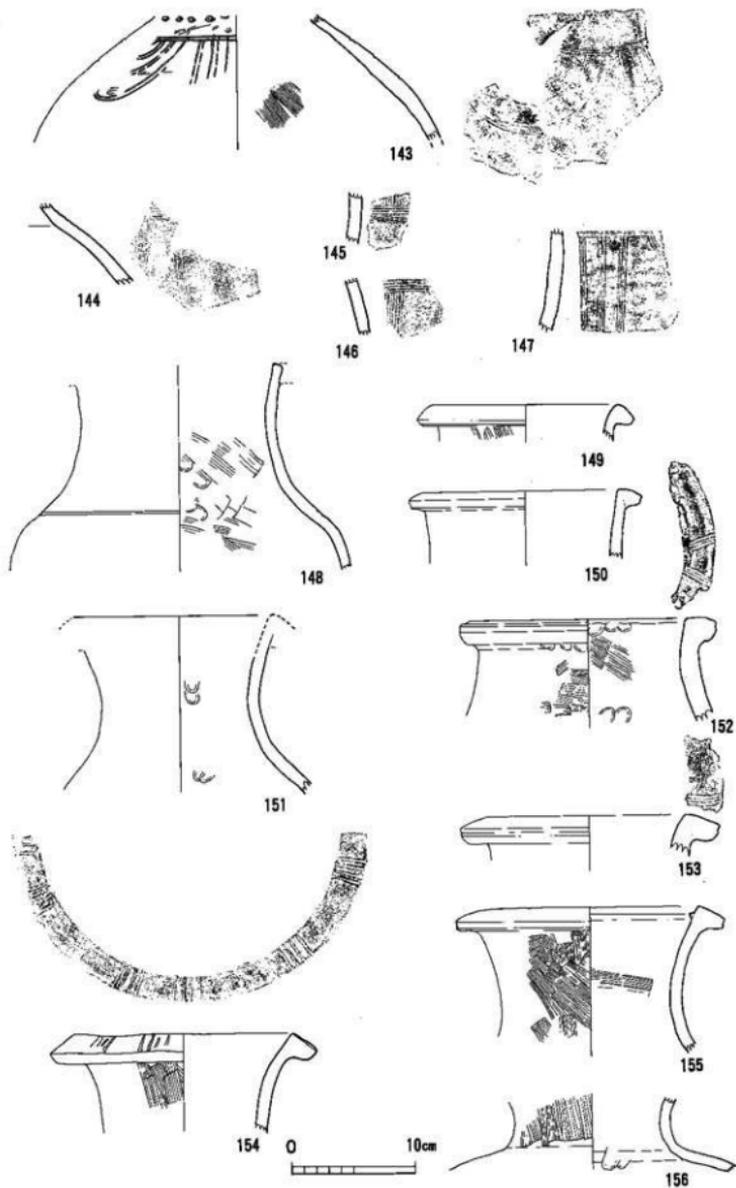
#### 壺

壺は口縁部および胴部・底部の形態により分類を行う。

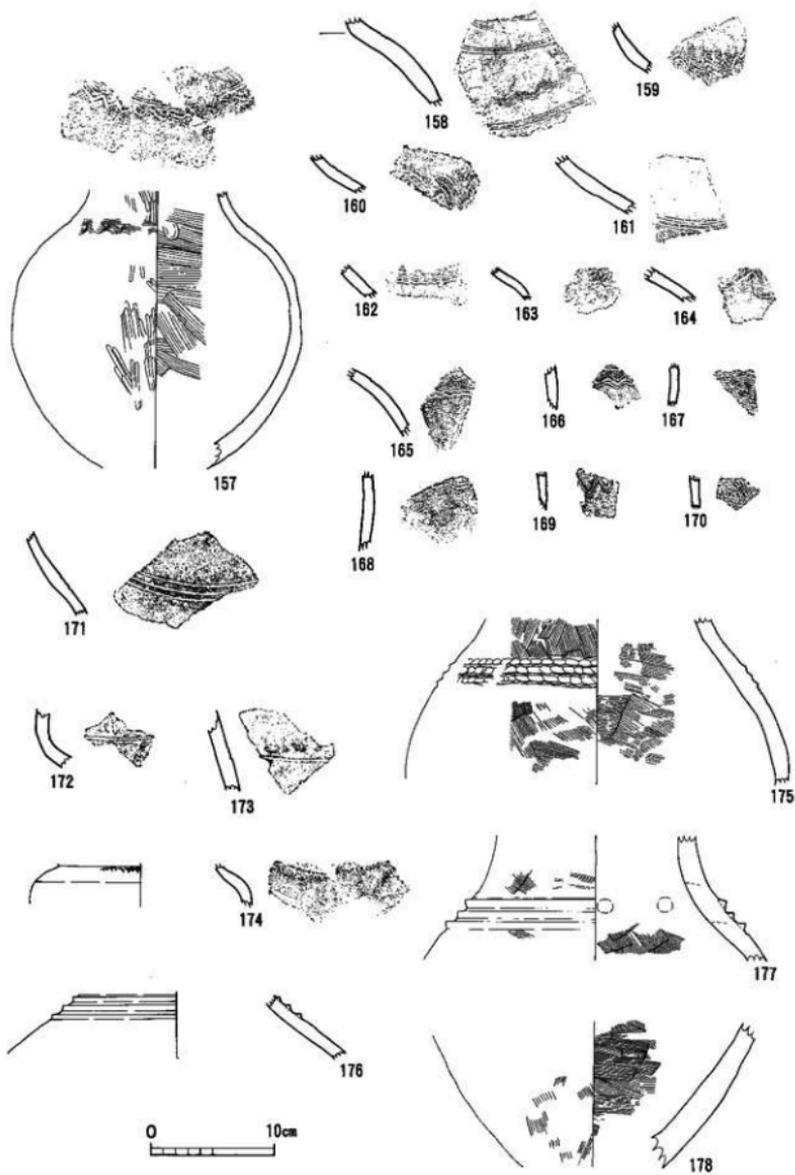
1類 頸部に竹管文をもち櫛描による重弧文をもついわゆる下城式系の壺。(143~147)

2類 口縁部に貼付け突帯をもつ。

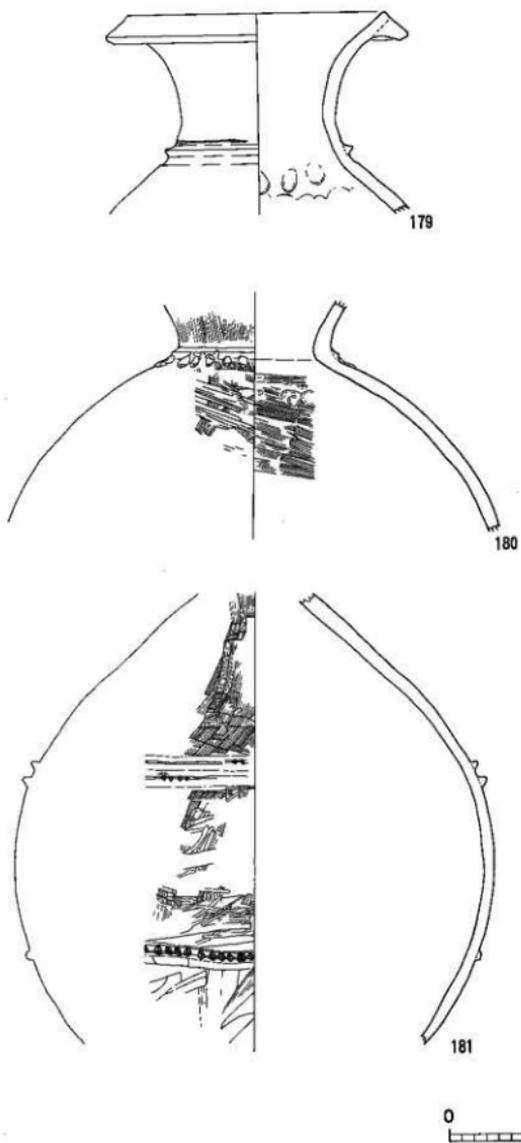
- A 肩部に1条の沈線をもつ (148)
- B 肩部に1条の突帯をもつ (179)
- C 口縁上面に刻みをもつ (152・153・154)
- D 口縁内部に断面三角形の小さな貼付け突帯がつく (155)



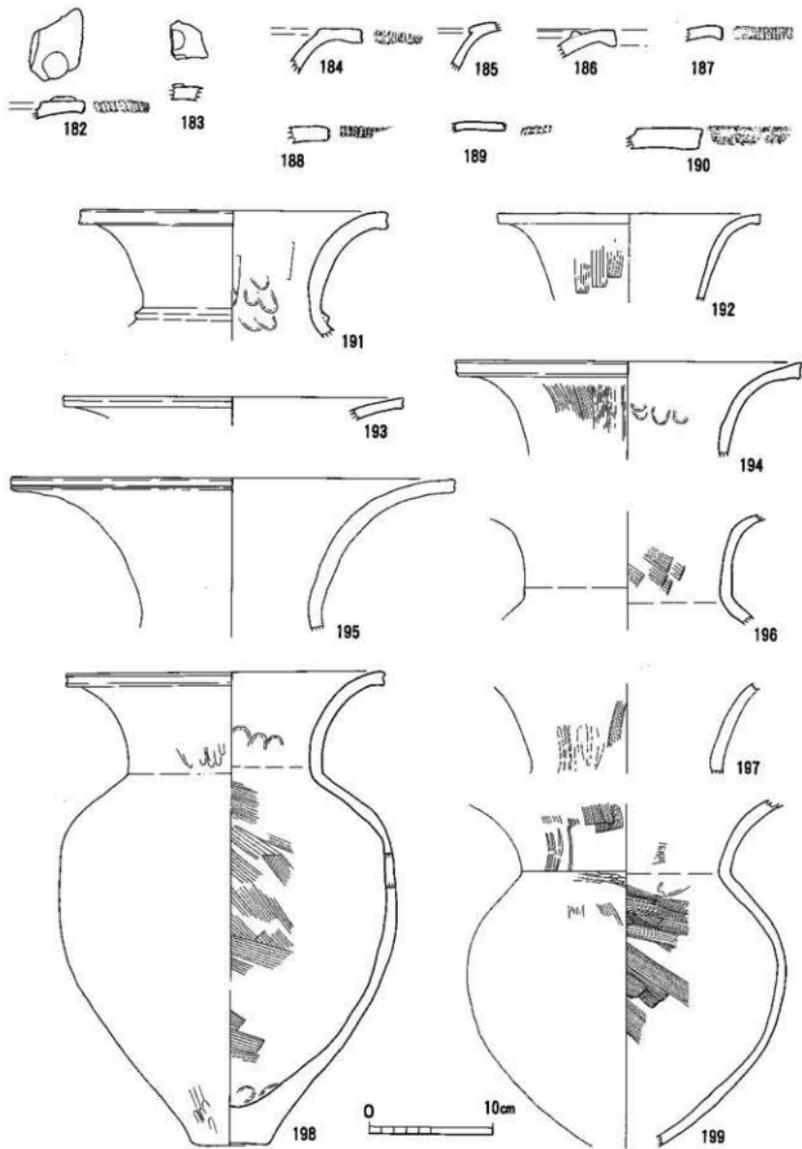
第12图 A区出土弥生土器实测图(壹1)(1/4)



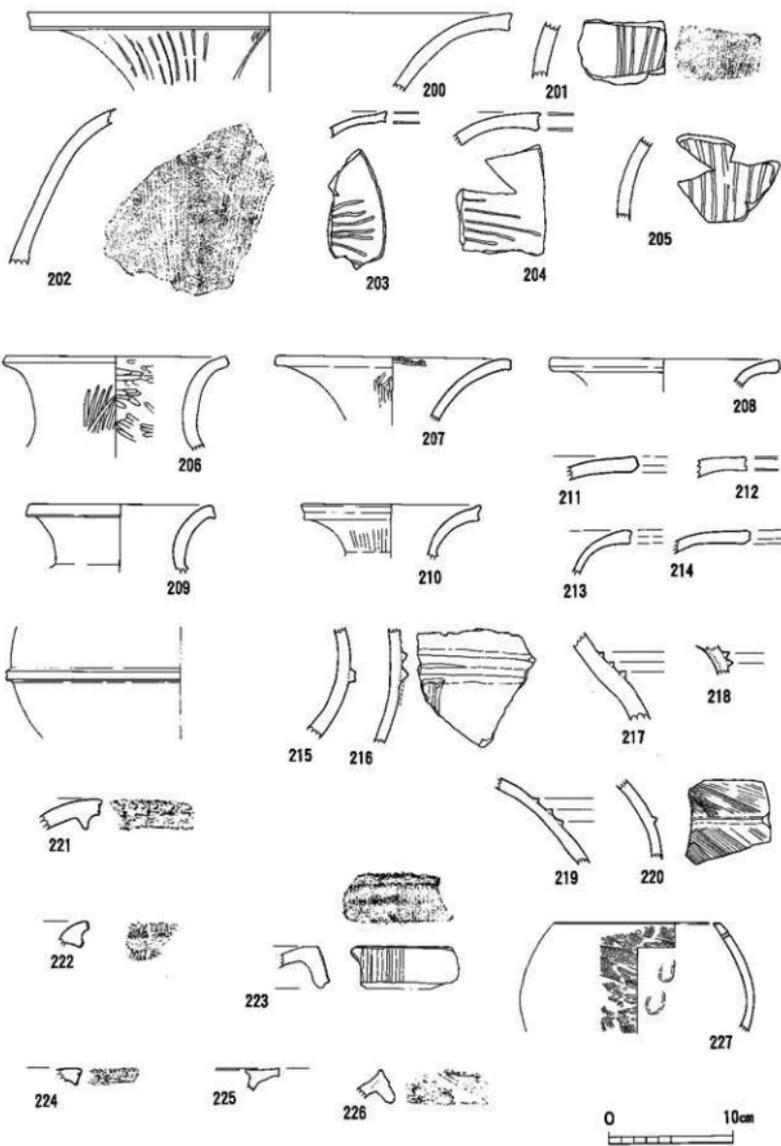
第13图 A区出土弥生土器实测图(表2)(1/4)



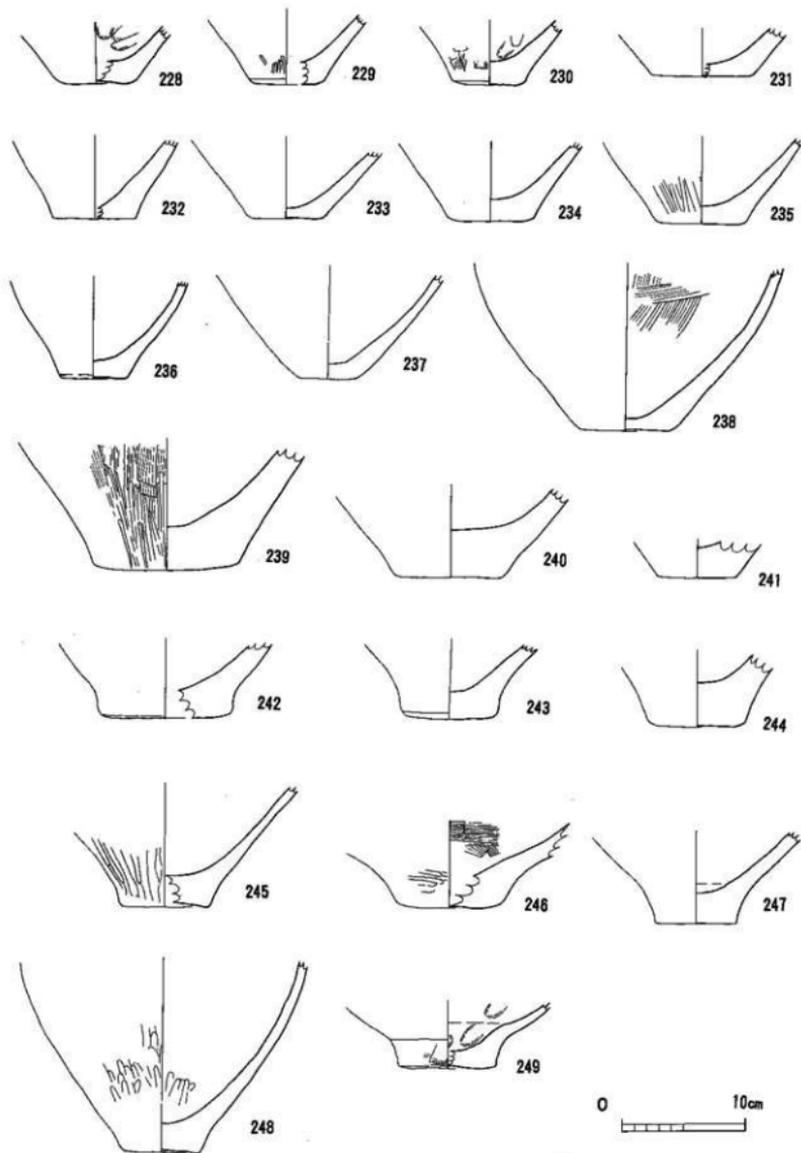
第14图 A区出土弥生土器实测图(壺3)(1/4)



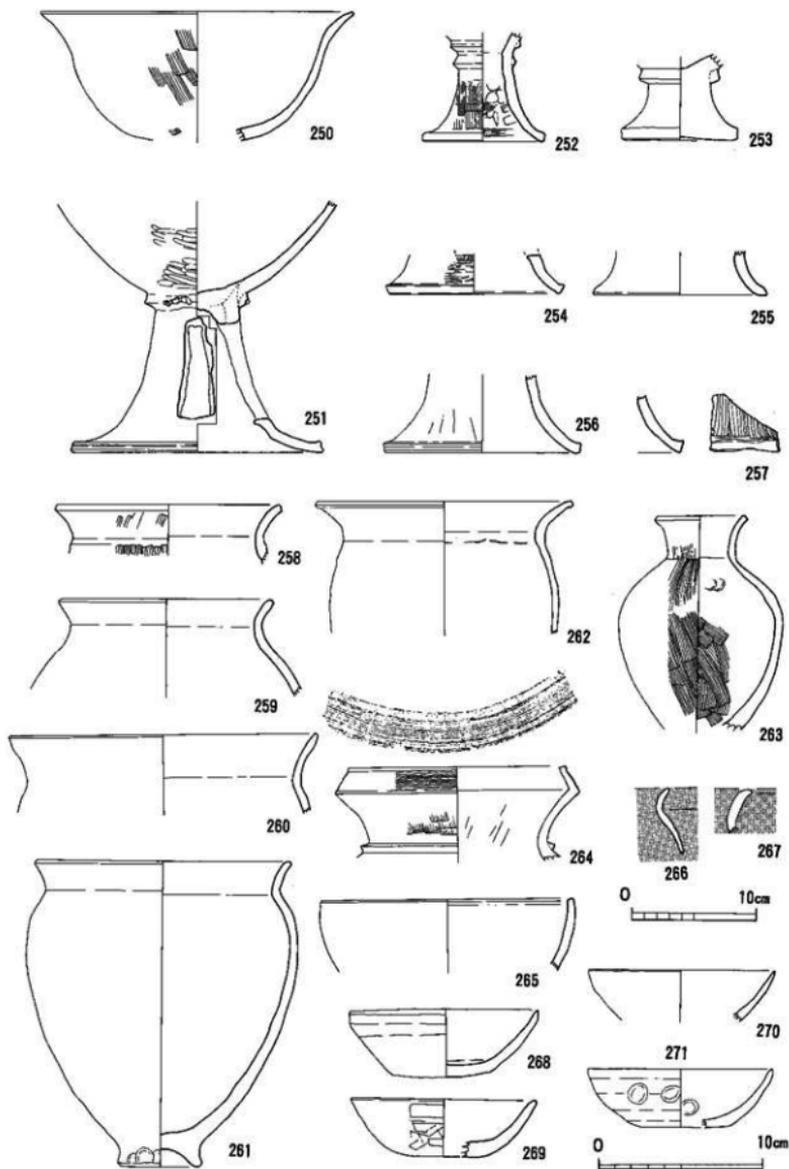
第15图 A区出土弥生土器实测图(壶4)(1/4)



第16图 A区出土弥生土器实测图(壹5)(1/4)



第17图 A区出土弥生土器实测图(壹6)(1/4)



第18图 A区出土弥生土器(高坏、甕、登、鉢)・  
 土師器(甕、碗)実測図(266~271は1/3、他は1/4)

第5表 A区出土土器観象表(5)

遺物番号	類別	遺跡・部位	出土場所	法量 (m)			手法・調整・文様ほか		色調		土師の特徴	備考
				口徑	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
165	弥生土器	遺跡	A区谷2				沈線、櫛線波状文ハケ目、ナデ	ナデ、ハケ目	横	横	2mm以下の茶褐・黒・灰褐・灰白色の砂粒	
166	弥生土器	遺跡	A区谷3				沈線、櫛線波状文ナデ	ハケ目	横	横	2.5mm以下の茶・黒・白色の砂粒	
167	弥生土器	遺跡	A区				ナデ、櫛線波状文スス付書	ハケ目	縦	縦	2mm以下の茶・乳白色の砂粒 0.5mm以下の透明光沢粒	
168	弥生土器	遺跡	A区				櫛線波状文、ハケ目、スス付書	ハケ目、スス付書	横	縦	2mm以下の茶・黒褐色の砂粒 1mm以下の黒色・透明光沢粒	
169	弥生土器	遺跡	A区谷2				櫛線波状文、ハケ目	ナデ	縦	横	4mm以下の褐色の塵 1.5mm以下の透明光沢粒	
170	弥生土器	遺跡	A区谷2				ナデ、櫛線波状文、スス付書	ナデ、スス付書	縦	縦	2mm以下の褐色の砂粒	
171	弥生土器	遺跡	A区				ナデ、沈線	ナデ、指原痕	横	横	2mm以下の黒・茶・乳白色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
172	弥生土器	遺跡	A区				ナデ、沈線	ナデ	横	横	2mm以下の茶・黒・乳白色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
173	弥生土器	遺跡	A区谷1				ナデ、沈線	ナデ	縦	横	1mm以下の茶・黒・乳白色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
174	弥生土器	遺跡	A区谷2				ナデ、櫛線波状文	ナデ	横	明赤褐	2mm以下の茶・黒・褐色の砂粒 1mm以下の黒色・透明光沢粒	
175	弥生土器	遺跡	A区谷1				ハケ目の後ナデ、駝付突帯、スス付書	ナデ、ハケ目の後ナデ	縦	横	2mm以下の灰・黒・茶・黒色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
176	弥生土器	遺跡	A区谷1				駝付突帯、ヨコナデ	ナデ	縦	縦	3mm以下の茶褐、赤黄色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
177	弥生土器	遺跡	A区谷2				ハケ目の後ナデ、駝付突帯、スス付書	ナデ、指原痕、ハケ目	縦	縦	3mm以下の茶・黒・赤 1mm以下の白・灰・褐色の砂粒	
178	弥生土器	遺跡	A区谷2				ハケ目の後ナデ、スス付書	ハケ目の後ナデ	縦	縦	2mm以下の灰・黒・褐色の砂粒	
179	弥生土器	遺跡	A区谷2	20.5			ヨコナデ、駝付突帯、ナデ、スス付書	ヨコナデ、指原痕、スス付書	横	横	4mmの褐色の塵、2mm以下の乳白・黒色の砂粒、2mm以下の透明光沢粒	
180	弥生土器	遺跡	A区谷2				ハケ目、駝付突帯、垂形形序文、ミガキ、スス付書	ナデ、ハケ目の後ナデ、指原痕	横	横	4〜6mmの灰白色の塵 3mm以下の黒・白・乳白色の砂粒	
181	弥生土器	遺跡	A区谷1				ハケ目の後ミガキ、駒形目文、ヨコナデ、風流	ナデ	縦	縦	4〜6mmの乳白・褐色の塵、2mm以下の透明光沢粒、1mm以下の茶色・透明光沢粒	
182	弥生土器	遺跡	A区谷2				口縁上面に川形序文	口縁に刺み、ナデ	縦	縦	2mm以下の褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	輪先状
183	弥生土器	遺跡	A区谷3				口縁上面に内形序文		縦	縦	1mm以下の透明光沢粒	輪先状
184	弥生土器	遺跡	A区谷3				ヨコナデ、口縁に刺み目	ナデ	縦	縦	1mm以下の赤褐色の砂粒 黒色光沢粒	輪先状
185	弥生土器	遺跡	A区				ミガキ	ナデ	明赤褐	明赤褐	2mm以下の白・黄灰・灰の砂粒 黒色光沢粒	輪先状
186	弥生土器	遺跡	A区谷1				ヨコナデ ハケ目の後ナデ	ヨコナデ、駝付突帯	横	横	2mm以下の黄灰・乳白色の砂粒 黒色・透明光沢粒	
187	弥生土器	遺跡	A区谷2				口唇にキザ目、ハケ目	ナデ	縦	横	1mm以下の乳白・灰白色の砂粒	
188	弥生土器	遺跡	A区谷2				口唇にキザ目 ナデ、スス付書	ナデ	縦	横	1mm以下の乳白色の砂粒 黒色光沢粒	
189	弥生土器	遺跡	A区谷2				口唇に刺み目、ハケ目		縦	横	2mm以下の茶・乳白色の砂粒	
190	弥生土器	遺跡	A区谷1				口唇に管文 ナデ、スス付書	ナデ	縦	縦	2mm以下の黄白色の砂粒 1mm以下の透明、黒色光沢粒	
191	弥生土器	遺跡	A区谷1	24.9			ナデ、駝付突帯 スス付書	ナデ 上風儀、指原痕	横	横	3mm以下の茶・褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒	
192	弥生土器	遺跡	A区谷3	31.1			ナデ、ハケ目	ナデ	縦	縦	1.5mm以下の茶褐・灰色の砂粒	
193	弥生土器	遺跡	A区谷3	27.3			ナデ	ナデ、スス付書	横	横	1mm以下の黒色の砂粒 黒色・透明光沢粒	
194	弥生土器	遺跡	A区谷1	38.0			ヨコナデ、ハケ目	ナデ、指原痕	縦	横	2mm以下の灰・茶褐色の砂粒	
195	弥生土器	遺跡	A区谷1	35.5			ナデ	ナデ	横	横	3mm以下の灰・褐色の砂粒	
196	弥生土器	遺跡	A区谷1				ナデ	ハケ目、ナデ	縦	横	2mm以下の灰・茶褐・乳白色の砂粒	
197	弥生土器	遺跡	A区谷2				ナデ、ハケ目、ナデの後 横文	ナデ	横	横	1mm以下の茶褐・黒の砂粒	
198	弥生土器	遺跡	A区谷1	25.5	9.3	38.4	ナデ、ミガキ スス付書	ナデ、ハケ目、指原痕	横	横	2mm以下の茶・灰・褐色の砂粒 1mm以下の透明、黒色光沢粒	
199	弥生土器	遺跡	A区谷2				ハケ目の後ナデ、ミガキ 横文	ハケ目、ナデ、指原痕	横	横	2mm以下の白・黒・褐色の砂粒 1mm以下の半透明光沢粒 1mm以下の黒色光沢粒	丹塗?
200	弥生土器	遺跡	A区谷1	39.0			沈線、管文、ナデ、スス付書	ナデ、スス付書	縦	横	2mm以下の半透明光沢粒 1mm以下の黒色光沢粒	
201	弥生土器	遺跡	A区谷2				ナデの後横文	ナデ	横	横	1mm以下の黒・乳白色の砂粒	
202	弥生土器	遺跡	A区				ナデの後横文	管文風ミガキ	横	横	1mm以下の黄灰・茶色の砂粒	
203	弥生土器	遺跡	A区谷2				管文、ナデ、スス付書	ナデ	縦	横	2mm以下の黒・乳白色の砂粒 0.5mm以下の透明、黒色光沢粒	
204	弥生土器	遺跡	A区谷2				管文、ナデ	ナデ	縦	横	2mm以下の白・乳白・茶色の砂粒 1mm以下の透明・黒色光沢粒	
205	弥生土器	遺跡	A区谷1				ナデの後横文	ナデ	縦	横	1mm以下の黒色の砂粒	

第6表 A区出土土器観察表(6)

通称 番号	種類	器種・ 部位	出土 地点	法量 (cm)			手法・装飾・文様ほか		色面		胎土の特徴		備考
				口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面	外面	内面	
206	弥生土器	壺口縁	A区 谷1	17.6			縦文風とシガキ スス付着	ヨコナデ、ミガキ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の褐・黄・灰・灰黄の 砂粒		
207	弥生土器	壺口縁	A区 谷1	19.0			ミガキの後ナデ	ミガキ ミガキの後ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2.5mm以下の褐色色の砂粒 1mm以下の黄色光沢粒		
208	弥生土器	壺口縁	A区 谷1	18.3			ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	1mm以下の灰・黒・褐色の砂粒 透明・黒色光沢粒		
209	弥生土器	壺口縁	A区 谷1	14.3			ナデ、スス付着	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	3mm以下の赤・黒・褐色の砂粒 1mm以下の透明光沢粒		
210	弥生土器	壺口縁	A区 谷1	14.4			ナデ、ハケ目の上からヨ コナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の黒・灰・赤の砂粒 2mm以下の透明・黒色光沢粒		
211	弥生土器	壺口縁	A区 谷2				ナデ、スス付着	ナデ、スス付着	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の褐・灰色の砂粒		
212	弥生土器	壺口縁	A区 谷2				ヨコナデ、縦文	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の白・赤・乳白色の砂粒 1mm以下の透明・黒色光沢粒		
213	弥生土器	壺口縁	A区 谷2				ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の褐・灰色の砂粒 透明光沢粒		
214	弥生土器	壺口縁	A区 谷2				ナデ、指痕痕	ナデ、スス付着	外黄 内黄	外黄 内黄	3mm以下の赤・灰・褐色の砂粒		
215	弥生土器	壺口縁	A区 谷3				ミガキ、貼付実等	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	3mm以下の灰・褐色・乳白色の砂粒	M字状 実等	
216	弥生土器	壺口縁	A区 谷1				ナデ、貼付実等	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	3mm以下の白・黒色の砂粒 2.5mm以下の金色光沢粒	縦線・ 横線・ 斜線	
217	弥生土器	壺口縁	A区				貼付実等、ハケ目の後ナ デ	ナデ、指痕痕	外黄 内黄	外黄 内黄	3mm以下の白・灰・赤・赤黒・黒色の 砂粒		
218	弥生土器	壺口縁	A区				ナデ、貼付実等	ヨコナデ、指痕痕	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の褐・黒色の砂粒 0.5mm以下の透明光沢粒		
219	弥生土器	壺口縁	A区 谷1				ミガキ、ナデ、貼付実等	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	1.5mm以下の赤褐色の砂粒 半透明・黒色光沢粒		
220	弥生土器	壺口縁	A区 谷1				ハケ目、ナデ、貼付実等	ハケ目の後ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の褐色色の砂粒 1mm以下の金色光沢粒		
221	弥生土器	壺口縁	A区 谷3				口内面に二段の竹管文 ヨコナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	1mm以下の灰・黒・褐色の砂粒 透明光沢粒		
222	弥生土器	壺口縁	A区 谷1				口縁にハケ目、ヨコナデ 斜め目実等	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の赤・灰・白の砂粒 1mm以下の透明光沢粒		
223	弥生土器	壺口縁	A区 谷1				口縁上面に横線文 ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	3mm以下の灰・黒・赤褐色の砂粒 透明光沢粒		
224	弥生土器	壺口縁	A区 谷1				口内面に竹管文 ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	1mm以下の黒・灰・赤の砂粒 透明光沢粒		
225	弥生土器	壺口縁	A区 谷1				ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の黒・灰・赤色の砂粒 透明光沢粒		
226	弥生土器	壺口縁	A区 谷1				口縁上面に縦線 ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の暗褐色・平透明・黒色光 沢粒		
227	弥生土器	壺口縁・胴部	A区 谷3	13.0			ハケ目の後：ミガキ スス付着	ナデ、指痕痕	外黄 内黄	外黄 内黄	3mm以下の赤・乳白色 2mm以下の透明・黒色光沢粒	穿孔 2ヶ所	
228	弥生土器	壺底部	A区	6.3			ミガキ、スス付着	ナデ、指痕痕	外黄 内黄	外黄 内黄	3mm以下の赤・黒・赤褐色の砂粒 透明光沢粒		
229	弥生土器	壺底部	A区 谷2	6.1			ミガキ、ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	1mm以下の透明光沢粒		
230	弥生土器	壺底部	A区	6.0			ハケ目の後ナデ、スス付 着	ナデ、指痕痕	外黄 内黄	外黄 内黄	0.6~1mmの灰色の砂粒 1~3mmの灰白色の砂粒		
231	弥生土器	壺底部	A区	8.1			ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	0.5~2.5mmの褐・灰・白の砂粒 0.5mm以下の黒・白・透明光沢粒		
232	弥生土器	壺底部	A区 谷2	6.9			ナデ、スス付着	ナデ、スス付着	外黄 内黄	外黄 内黄	4~5mmの灰・褐色の砂、3mm以下の 灰・褐色の砂粒、透明・黒色光沢粒		
233	弥生土器	壺底部	A区	6.0			ミガキ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	1mm以下の黒・赤褐色・灰褐色の砂粒 透明光沢粒	丹塗?	
234	弥生土器	壺底部	A区 谷3	6.8			ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の灰・黒・褐色の砂粒	丹塗?	
235	弥生土器	壺底部	A区 谷1	7.1			ハケ目、ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	1mm以下の白・灰・赤・黒・褐色の砂粒 透明光沢粒		
236	弥生土器	壺底部	A区	5.3			ナデ、スス付着	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2.5mm以下の灰・乳白・褐色・平透 明・黒色光沢粒		
237	弥生土器	壺底部	A区 谷1	5.0			ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	3mm以下の黄・灰・赤・黒・灰 白の砂粒、透明光沢粒		
238	弥生土器	壺底部	A区	5.8			ナデ	ハケ目、ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の黄・白・赤褐色の砂粒	丹塗?	
239	弥生土器	壺底部	A区 谷2	11.7			ハケ目、ミガキ ナデ、スス付着	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の黒・乳白・灰・褐色の砂粒		
240	弥生土器	壺底部	A区	8.5			ナデ、スス付着	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の灰・乳白色の砂粒		
241	弥生土器	壺底部	A区	6.3			ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	0.5~1.5mmの赤・黒・褐色の砂粒		
242	弥生土器	壺底部	A区	10.3			ナデ スス付着	ナデ スス付着	外黄 内黄	外黄 内黄	0.5~2mmの黒・白・褐・赤色の砂粒		
243	弥生土器	壺底部	A区 谷1	7.7			ナデ	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の黒・白・褐・赤色の砂粒		
244	弥生土器	壺底部	A区 谷1	7.8			ナデ スス付着	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	2mm以下の赤褐色・灰・褐色の砂粒		
245	弥生土器	壺底部	A区 谷1	6.8			ミガキ ナデ、スス付着、丹塗	ナデ	外黄 内黄	外黄 内黄	0.5mmの褐色の砂 2mm以下の黄・赤・黒色の砂粒		
246	弥生土器	壺底部	A区 谷1	8.4			ミガキ、ナデ	ハケ目	外黄 内黄	外黄 内黄	1mm以下の乳白・赤・黒・褐色の砂粒 透明光沢粒		

3類 口縁が鋤先状を呈する。

- A 円形浮文をもつ (182・183)
- B 口縁内面に貼り付け突帯をもつ (186)
- C 口唇部に刻みをもつ (184・187・188・189)
- D 口唇部に竹管文をもつ (190)

破片のため口縁の形状は不明であるが、円形の竹管文をもちD類に似るものとして224がある。

4類 口縁部が朝顔形に開くもの。

- A 口径28cm程度の比較的大型のもの (191~196・211~214)
  - 1 暗文をもつもの (197~205)
- B 口径15cm程度の小型のもの (206~210)

5類 二又状の口縁をもち、口唇部に刻みや竹管文をもつ。(221・222)

6類 垂下り口縁をもち、口縁上面に沈線が施される。(223・226)

7類 外面は刷毛目の後ミガキ調整が施され、口径13cmの無頸壺。(227)

8類 2類に含まれると思われる頸部から胴部をA~Eの5類に分類を行う。

- A 沈線と櫛描波状文の組み合わせによる (158・159・161・165・166)
- B 櫛描波状文をもつ (160・162~164・167~170)
- C 1~3条の沈線をもつ (171~173)
- D 突帯をもつ
  - 1 3条の断面三角形の突帯をもつ (176~178)
  - 2 3条の指頭痕が残り明瞭な段差をもたない三角突帯をもつ (175)
  - 3 楕円形の浮文をもつ (180)

9類 1類~8類に該当しない頸部から胴部について分類を行う。

- A 球形の胴部をもち外面にはミガキ調整が施される (157)
- B 頸部に櫛描波状文をもち胴部が扁球状になる小型の壺 (174)
- C 胴部にM字状の突帯がつく (215)
- D 胴部に2条~3条の三角突帯をもつ (216~220)

216は、2条の突帯に、縦方向の2条以上の三角突帯が付き工字状を早す。

#### 壺底部

底部が外反するものとしないものの2類に分類した。

1類 底部が外反しないもの。

A 底部がうすいもの (228~238)

B 底部が厚いもの (239~241)

## 2類 底部が外反するもの (242~247)

その他のものとして248は、若干上げ底気味で内湾する胴部へ続き、外面は丁寧なミガキ調整を施している。また、249は底部が強く外反する。

## 高坏 (251)

251は、脚部と受け部の境に1条の刻目突帯をもち、台形状の透かしを有する。252、253は脚上部に刻みをもたない断面三角形の貼付け突帯がみられる。254は、方形と思われる透かしの下部の痕跡が認められる。

## ・弥生後期の土器

個体数は少ないが、弥生後期後半の土器も数点出土している。258~262は、口縁がくの字に屈曲する甕で、261は数少ない完形の個体である。口径は、20.2cm、器高24.8cmを計り、指でつまみだした高台状の底部がつく。263は小型の甕で、頸部内面に明瞭に絞りの後がみられ、口径6.8cmを計る。264は複合口縁甕で、拡張部に櫛横波状文を施し、頸部には断面三角形の貼付け突帯をもつ。265は、口径約20.2cmを計る鉢である。

## ・古墳時代の土器

266・267は丹塗りが施された甕の口縁部である。268~271は碗形土器で、268は口径11.3cm、器高4.1cm、底径5.9cm、269は口径11.2cm、器高3.5cmを計る。271は口径11cm、器高3.6cmを計り外面の胴部中に明瞭な指頭痕が残る。

## 須恵器

須恵器は、上師器・布痕土器と比較すると出土量は少ない。器種としては、坏蓋・坏身・壺・甕がある。

## 蓋 (272~282)

復元できる個体はなく、ほとんどは口縁部のみの破片である。

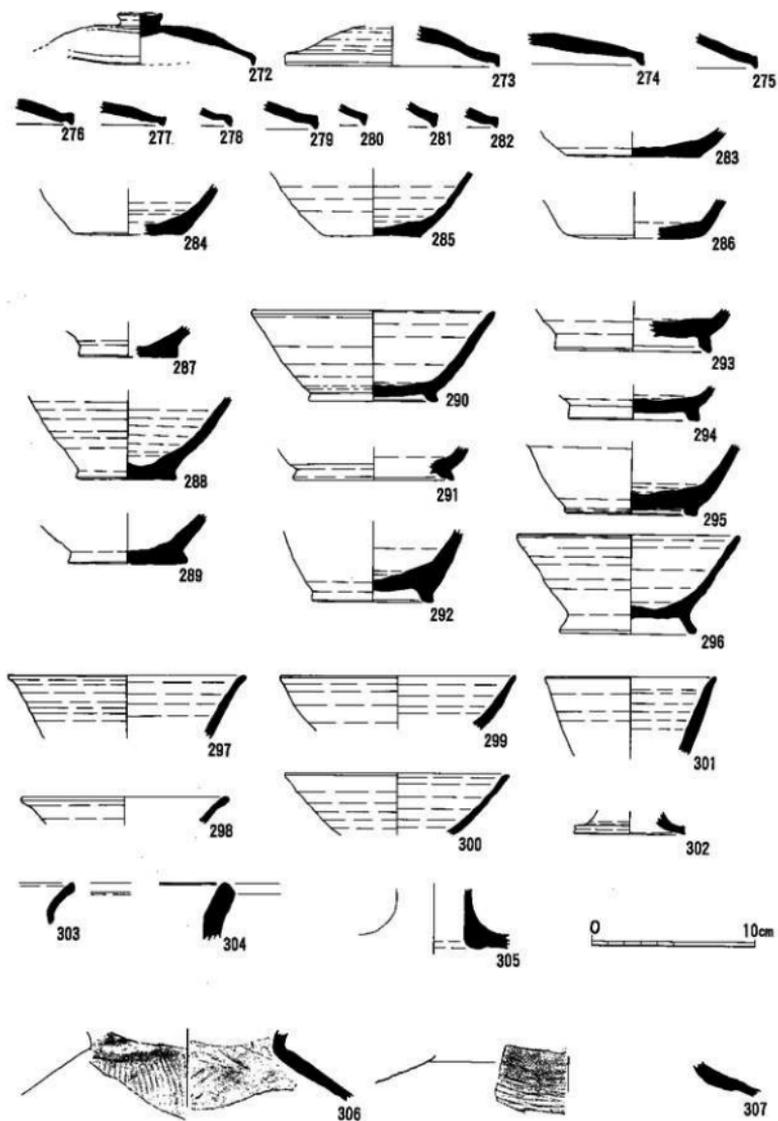
272は、つまみを持ち口縁部を折り返すタイプである。274は、器高が低く扁平で大型である。その他に口縁部断面が鋭く三角形状をなすもの (278・280・282) がみられる。

## 坏

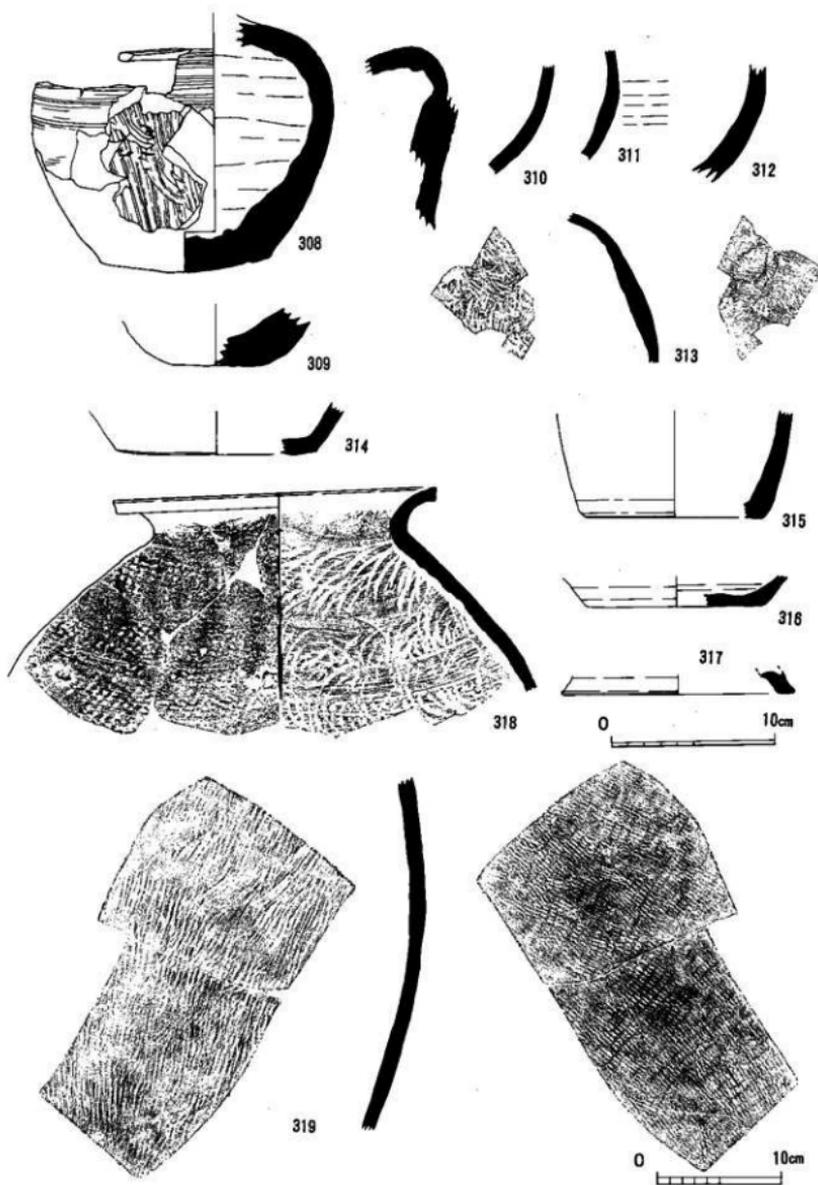
A 高台をもたないもの (283~286)

1 底部と体部の境に稜をもつ (283~285)

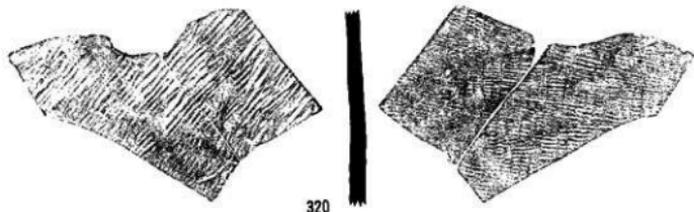
2 底部と体部の境に稜をもたない (286)



第19图 A区出土须惠器类测图(坏、壶)(1/3)



第20図 A区出土須恵器実測図（壺、甕）（319のみ1/4、他は1/3）



320



321



322



323



324



325



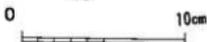
326



327



328



第21图 A区出土须惠器实测图(雙)(1/3)

第7表 A区出土土器観察表(7)

遺物 番号	種類	器種・ 部位	出土 地点	法量 (cm)			手法・製法・文様ほか				色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 部	内 部	外 部	内 部		
247	弥生土器	高杯底部分	A区谷3	6.6			ナデ	ナデ			灰黄陶 にかぶり	にぶい 黄緑	3mm以下の灰褐・灰白・褐色の砂粒 透明黒色光沢粒	
248	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	5.8			ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ			にぶい 黄	にぶい 黄	3mm以下の灰白・褐・赤褐色の砂粒	
249	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	7.8			ナデ、ハケ目	ナデ、指痕			残黄緑	にぶい 黄	3mm以下の茶色の砂粒 1mm以下の透明・乳白・黒色光沢粒	
250	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	25.1			ナデ、ハケ目 スス付着	ナデ			残黄緑 黄緑	黄緑	3mm以下の赤褐・褐灰・褐色の砂粒	
251	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	20.0			胴上部一側斜め目突帯、 ミガキ、ココナデ	ナデ			黄緑	黄緑	4~6mmの茶色の糠、3mm以下の黒色の砂粒、2mm以下の乳白・黒色光沢粒	内部通し 3ヶ所
252	弥生土器	高杯底部分	A区	9.8			胴上部貼付突帯、ナデ、 ハケ目、スス付着	ハケ目の後ナデ 指痕			にかぶり 黄緑	黄緑	4~5mmの灰白・灰黄・茶色の砂粒、3mm以下の灰白・黄・黒褐色の砂粒、透明光沢	
253	弥生土器	高杯底部分	A区	9.4			胴上部貼付突帯 ココナデ、ナデ	ナデ			にかぶり 黄	黄	3mm以下の褐・灰色の砂粒	
254	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	14.0			ハケ目の後ミガキ、通し、 ナデ	ナデ			褐灰	灰黄	1mm以下の乳白・灰・黄緑色の砂粒 半透明・黒色光沢粒	
255	弥生土器	高杯底部分	A区	13.9			ナデ	ココナデ			残黄緑	黄緑	2mm以下の白色の砂粒 透明・黒色光沢粒	
256	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	15.6			ハケ目 ココナデ	ナデ			黄	明赤褐	0.5mm~3mmの乳白・乳白色の砂粒 金色光沢粒	
257	弥生土器	高杯底部分	A区谷1				ハケ目、ココナデ	ナデ			にぶい 黄緑	明黄褐	2mm以下の灰・黒・茶色の砂粒	
258	弥生土器	高杯底部分	A区	17.8			ハケ目の後ココナデ ハケ目	ナデ			残黄緑	にぶい 黄	1~3mmの暗褐色の砂粒 乳白・黒色光沢粒	
259	弥生土器	高杯底部分	A区	16.7			ナデ スス付着	ナデ スス付着			残黄緑	残黄緑	3mm以下の茶・褐・白色の砂粒	
260	弥生土器	高杯底部分	A区谷3	24.7			ナデ スス付着	ナデ スス付着			にぶい 黄	にかぶり 黄	3mm以下の白・褐・黄褐色の砂粒	
261	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	20.2	6.3	24.8	ナデ、指痕 スス付着	ナデ、指痕 指痕			残黄緑	残黄緑	4~7mmの乳白・茶・黒色の砂粒 3.5mm以下の褐・赤・黒色の砂粒	
262	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	20.5			ナデ	ナデ			残黄緑	残黄緑	4~5mmの褐・灰褐色の糠、1.5mm以下の 2mm以下の茶色の砂粒、透明光沢	
263	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	6.8			ナデ、ハケ目 スス付着	ココナデ、指痕 ハケ目			にぶい 黄緑	黄	2.5mm以下の褐・灰色の砂粒	器内面に しぼり
264	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	17.5			ココナデ、指痕 ハケ目、ハケ目の後ココナデ	ナデ、工具ナデ			黄緑	黄	3mm以下の茶・褐・灰・乳白色の砂粒	筒合 口縁
265	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	20.2			ナデ スス付着	ナデ			にぶい 黄緑	にぶい 黄緑	2mm以下の赤褐・暗褐色の砂粒、半 透明・黒色光沢粒	
266	弥生土器	高杯底部分	A区				ココナデ、丹塗 タタキ	ナデ			にぶい 黄	にぶい 黄	2mm以下の茶褐・黒褐色の砂粒 0.5mm以下の透明光沢粒	
267	弥生土器	高杯底部分	A区谷2				ナデ、丹塗	ナデ			にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	3mm以下の茶褐・黒褐色の砂粒	
268	弥生土器	高杯底部分	A区谷2	11.3	5.9	4.1	ナデ、工具 スス付着	ナデ スス付着			黄	黄灰 黄灰	3mm以下の灰褐・茶・褐色の砂粒	
269	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	11.2	4.6	3.45	ナデ スス付着	ナデ スス付着			にかぶり 黄灰	にかぶり 黄灰	2mm以下の灰白・褐色の砂粒	
270	弥生土器	高杯底部分	A区	11.1			ナデ スス付着	ナデ スス付着			明黄灰	暗黄灰	3mm以下の白灰・灰褐・褐・黄褐色の砂粒	
271	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	11.0	8.0	3.55	指痕、ナデ、スス付着	ナデ、指痕 スス付着			にかぶり 残黄緑	にかぶり 残黄緑	2.5mm以下の褐・黄灰・灰白・褐色の砂粒	
272	弥生土器	高杯底部分	A区谷1			3.1	ナデ、ヘラ削り	ナデ			灰	暗灰	黄灰	
273	弥生土器	高杯底部分	A区谷1	11.7			ヘラ削り、ナデ	ナデ			灰黄	灰黄	黄灰	
274	弥生土器	高杯底部分	A区谷2				ナデ、ヘラ削り	ナデ			残黄緑	残黄緑	黄灰	
275	弥生土器	高杯底部分	A区谷1				ナデ	ナデ			灰	灰	黄灰	
276	弥生土器	高杯底部分	A区谷1				ヘラ削り、ナデ	ナデ			にぶい 黄緑	残黄緑	黄灰	
277	弥生土器	高杯底部分	A区谷1				ヘラ削り、ナデ	ナデ			にぶい 黄緑	にぶい 黄緑	黄灰	
278	弥生土器	高杯底部分	A区				ナデ	ナデ			黄灰	黄灰	黄灰	
279	弥生土器	高杯底部分	A区谷1				ナデ	ナデ			灰	灰	黄灰	
280	弥生土器	高杯底部分	A区				ナデ	ナデ			灰黄	にぶい 黄	黄灰	
281	弥生土器	高杯底部分	A区谷1				ナデ	ナデ			灰	灰	黄灰	
282	弥生土器	高杯底部分	A区				ナデ	ナデ			黄灰	黄灰	黄灰	
283	弥生土器	高杯底部分	A区	8.2			ナデ	ナデ			灰黄 黄灰	灰黄 黄灰	1mm以下の黒褐・灰白の砂粒	
284	弥生土器	高杯底部分	A区	8.5			ナデ	ナデ			灰ナリ ナデ	灰	1mm以下の褐灰・黒褐色の砂粒	
285	弥生土器	高杯底部分	A区	5.85			ナデ、黒塗	ナデ、黒塗			にかぶり 黄灰	にかぶり 黄灰	2mm以下の褐色の砂粒	
286	弥生土器	高杯底部分	A区谷2	8.1			ナデ	ナデ			灰	灰	1mm以下の黒褐色の砂粒	
287	弥生土器	高杯底部分	A区谷2				ナデ ヘラ削り	ナデ			灰白	灰白	黄灰	

B 高台をもつもの (287~295)

- 1 円盤状高台をもつ (287~289)
- 2 輪高台をもつ (290~292)
- 3 高台内面が面取りされる (293~295)

円盤状の高台を有する288は、底部内面に指押さえによる凹みがみられる。296は、口径13.2cm、器高6cmを計り高台は外方向へ延び端部は丸く成形される。

坏口縁

- A 口縁が外反する (297・298・301)
- B 内湾する (299・300)

壺 (302~317)

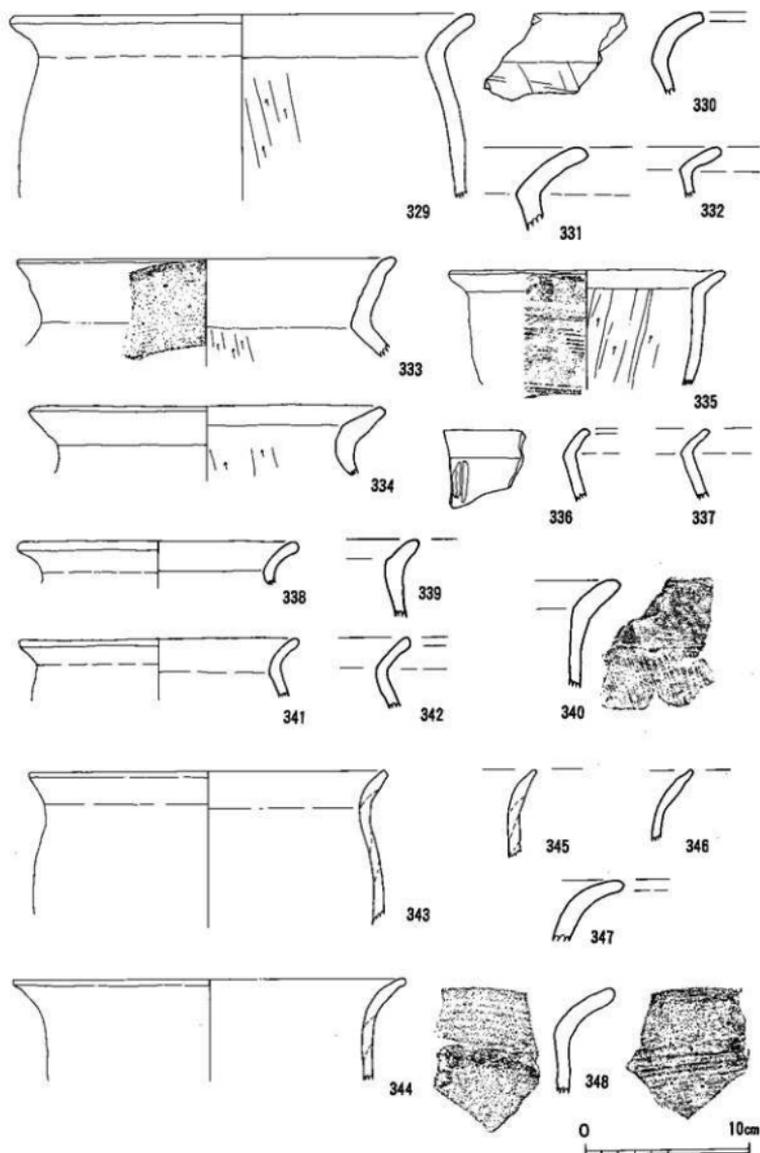
302~305は小型の壺とみられ、303は口縁端部が面取りされ内面に稜をもつ。306、307は、頸部付近であるが、306は、縦方向の平行叩き、307は横方向の平行叩きである。308は、底径10.2cmを計り胴上部が張る壺であるが、旋ぎ歪みが著しく内面に気泡が多くみられる。外面には、格子目叩きをもつ別個体の胴部片が融着している。融着部分には、自然軸が見られる。313は提瓶の胴部片で、外面にカキメ、内面に同心円当て具痕を残す。309~317は底部である。309は厚手で、やや丸みを帯びた小さめの底部から内湾しながら立ち上がる。314~316は、薄手の底部から鋭角的に立ち上がり、胴部は直線的である。317は、端部が面取りされ外方向に開く高台を有する。

壺 (318~328)

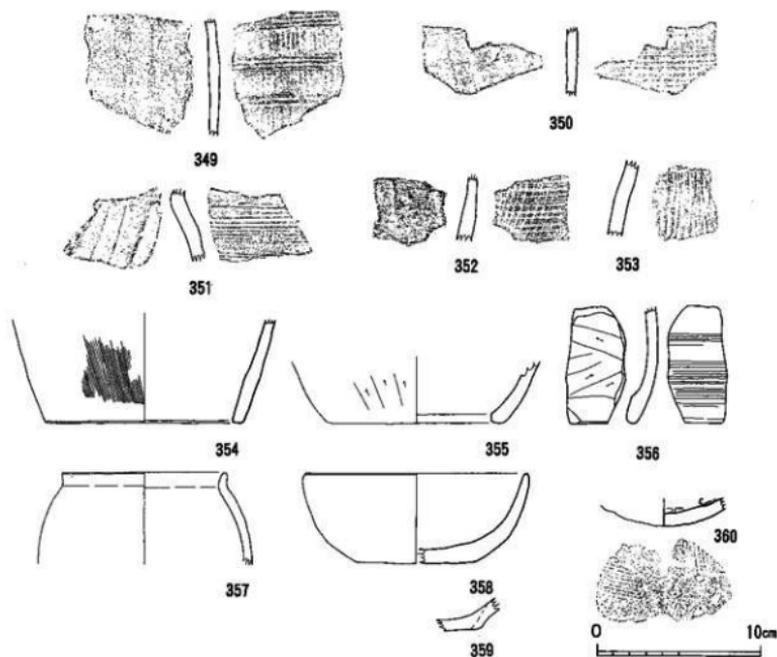
318は口径19.5cmを計り、口縁部は強く外反しながら外上方へ立ち上がり、端部は平坦である。頸部から口縁端部にかけて自然軸がみられる。319~328は胴部片である。外面が平行叩きによる319~324と格子目叩きの325~328に分けられる。内面は319~321・325・326が平行叩き、322は放射状の当て具痕、327、328は同心円状の当て具痕がみられる。

・古代以降 (第22~27図)

329~353は壺である。329~342は、頸部内面に明瞭な稜を持ち「く」字形に屈曲する。胴部内面は縦方向のケズリ、口縁部内面は回転ナデである。口縁部は、短く直線的なもの (329・332・335~337・339)、やや長く延びるもの (331・333)、外反するもの (330・338) などがみられる。340は、胴部外面に縦方向の櫛歯状工具による条痕を施す。343~348は、頸部に明瞭な稜を持たず緩やかに外反する口縁部である。345・346は口唇部が先細りとなる。349~353は雙胴部片である。349は、縦方向のハケ目調整後に4条単位のハケ目を横位に間隔を取りながら施している。格子目状の文様を意識したものであろうと思われる。350は縦ハケの後に横ハケ、351・352は横ハケの後に縦位のハケを施している。353は、外器面に櫛歯状工具による縦の条痕が施される。354~356は甕の底部である。354・356は内面にやや肥厚させた縁帯を形成し、横ナデ調整を施す。355は底部端を縦に面取り整形している。357は短頸の壺である。358は鉢である。全体に丸みを持つ器形で、器壁は厚い。359は甕あるいは壺の底部である。360



第22图 A区出土土器器実測图(變1)(1/3)



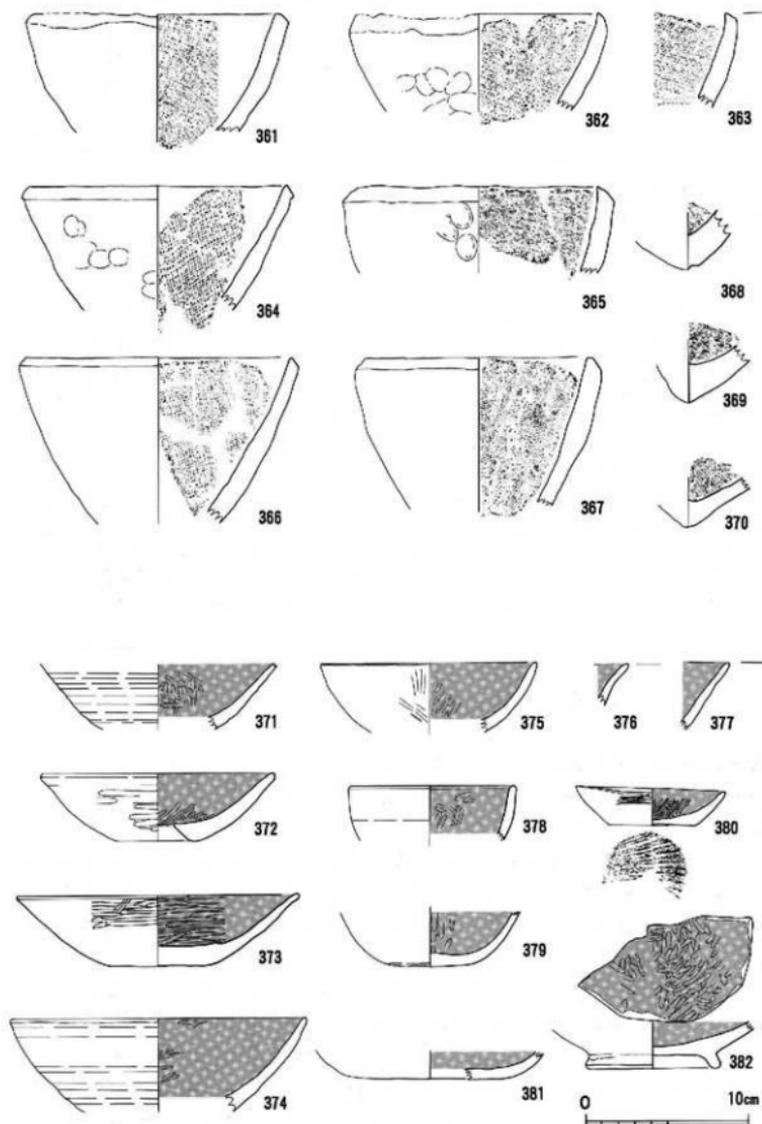
第23図 A区出土土師器実測図(甕、甔、甕、碗)(1/3)

は壺の底部である。丸底で粗いハケ目調整である。

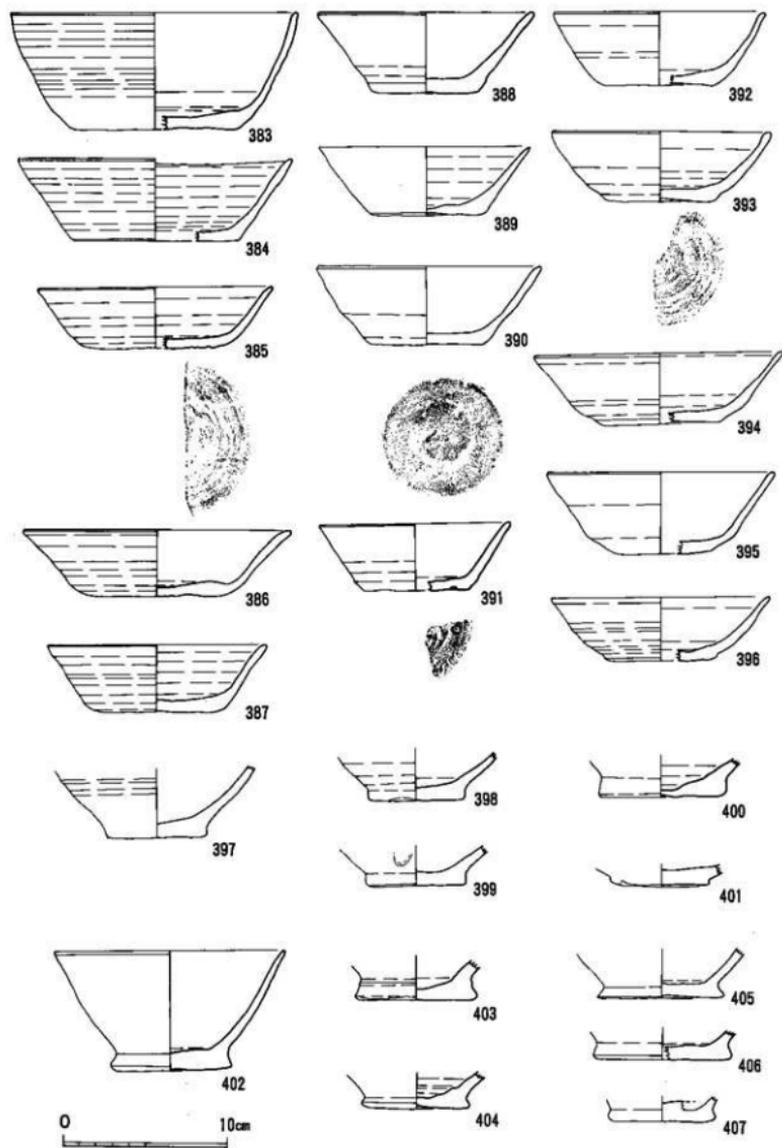
361~370は布痕土器である。円錐形の器形で、外面は粗いナデ、内面に布目圧痕を残す。塩の生産・流通に関連する土器と考えられている。

371~382は黒色土器で、全て内黒である。外面は丁寧なナデ(一部ミガキ)、内面は丁寧にミガキを施した後に黒化処理を行っているが、371・374は回転ナデ成形である。371~377は坏形、378・379は碗、380は小皿、381・382は鉢である。372は粘土の接合部(底部)で剥離している。380は、底部切り離し後に粗いケズリを施している。

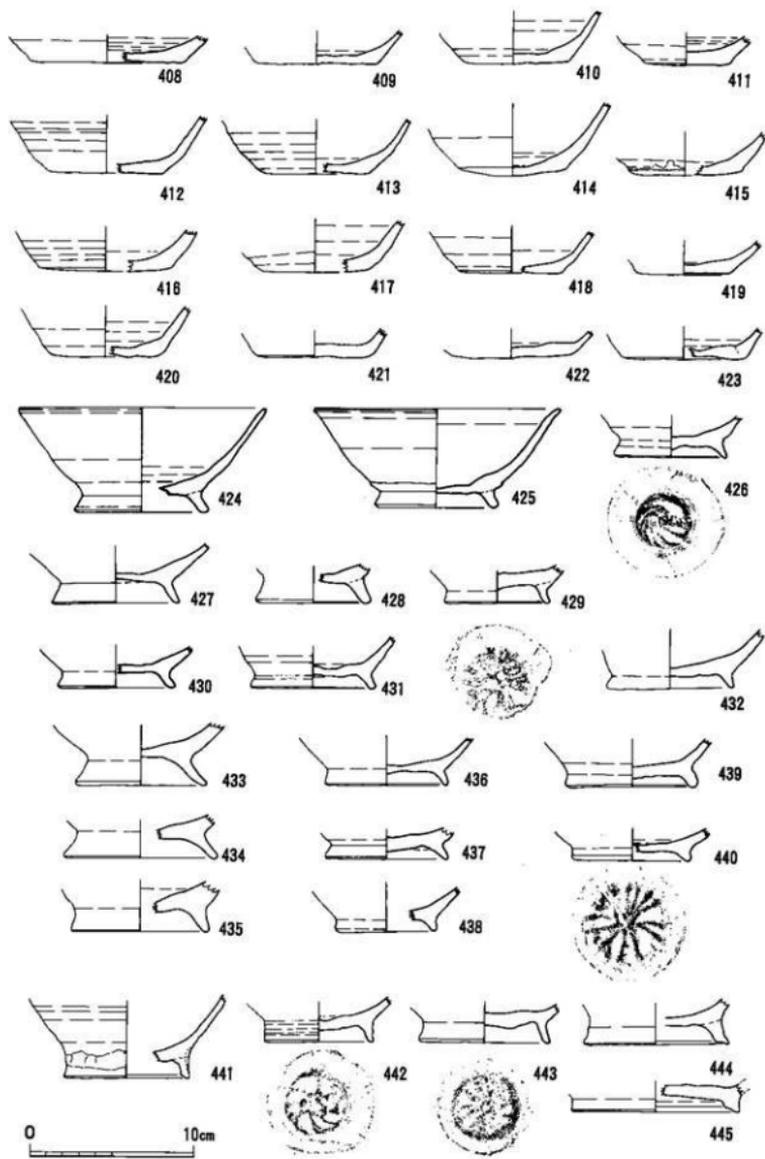
383~454は土師器坏である。各部の特徴で大別したが、部分的に遺存しているものについては、全体形を推定し難いものも多く、分類基準が重複しているものもある。383~387は器高に比して底径の大きな一群である。383は体部が内湾し、薄手の作りである。386は体部が外反し、底部中央を窪ませている。回転ナデ成形である。388~391は、底径は中程度で直線的な体部を持つ一群である。389は口縁端部が先細りとなり底部中央を窪ませるものである。392~396は底部から体部にかけて丸みを持って立ち上がる一群である。392は口縁端部がわずかに外傾する。393~396は、体部立ち上がり部分にわずかな段を有し、円盤状高台に近い形態となる。また、393・394は胎土が精良で、回転ナデにより成形する。397



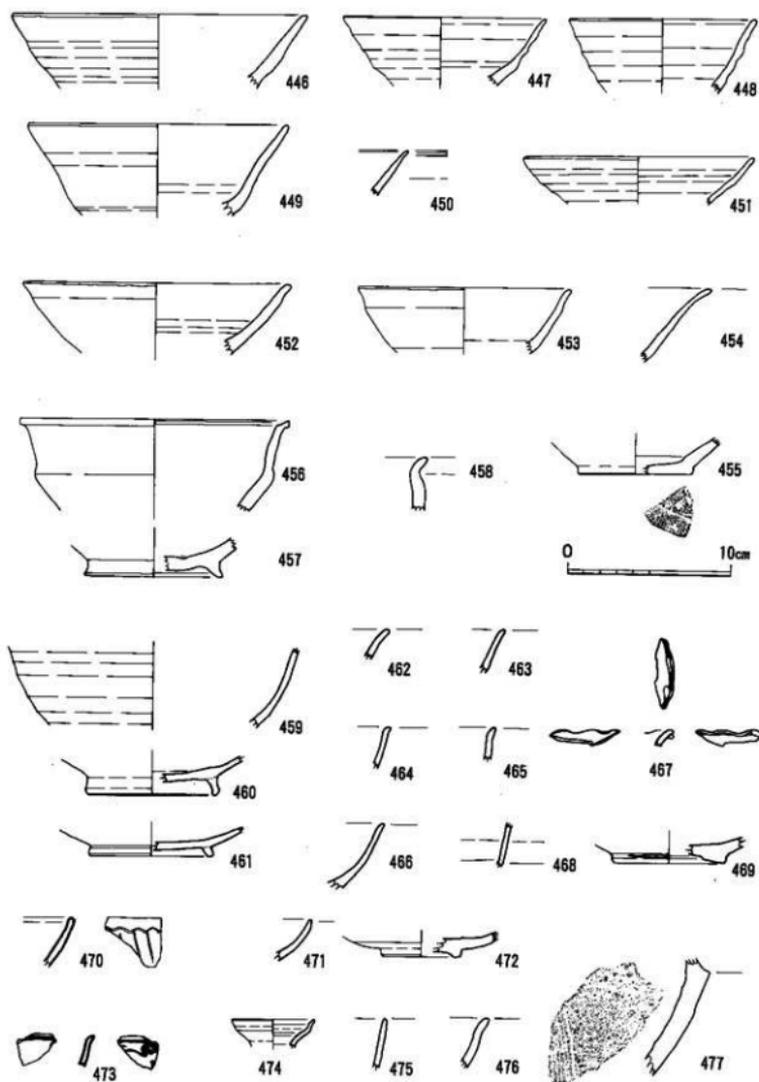
第24图 A区出土布痕土器、黑色土器实测图(1/3)



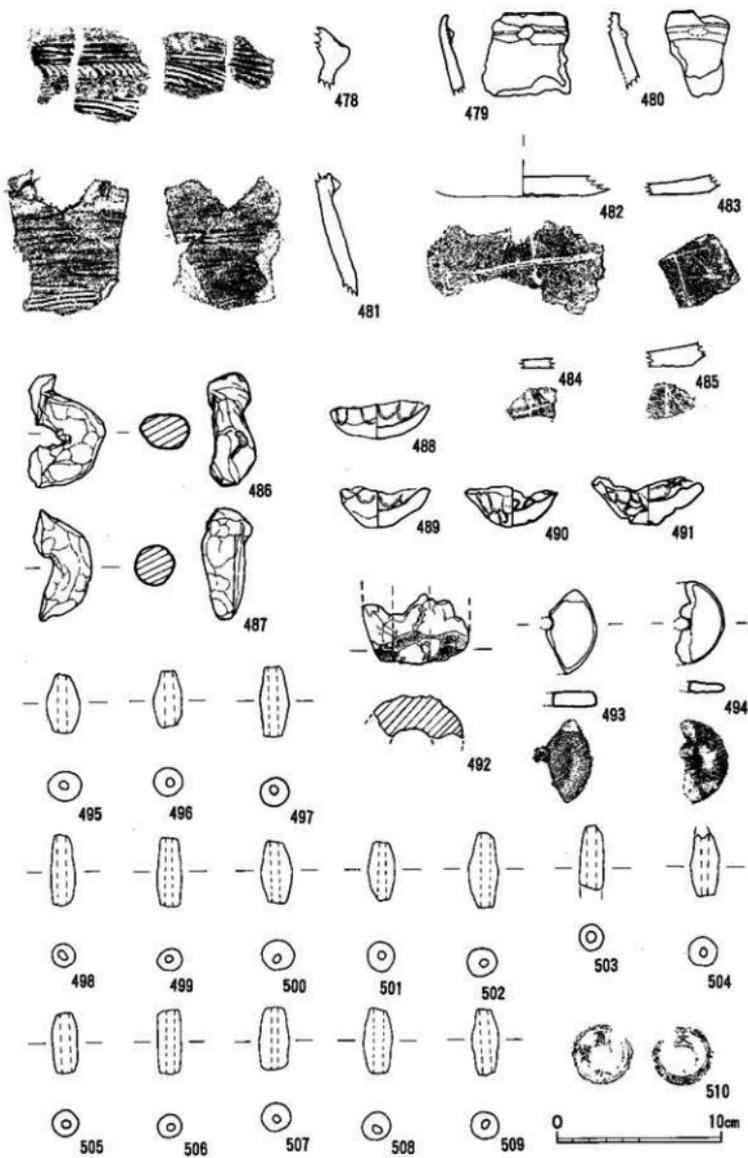
第25图 A区出土土器实测图(坏1)(1/3)



第26图 A区出土土器实测图(坏2)(1/3)



第27图 A区出土土器(坏3·碗)、陶磁器实测图(1/3)



第28図 A区出土遺物実測図 (510のみ1/1、他は1/3)

第8表 A区出土土器観察表(8)

遺物 番号	種別	名称・ 部位	出土 地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色割		胎土の特長	備考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外面	内面		
288	須恵器	杯 体部一底部	A区 谷1		5.8		ナデ	ナデ	灰白 灰	灰	1mm以下の灰黄色の砂粒	
289	須恵器	杯 体部一底部	A区	7.2			ナデ	ナデ	灰黄 灰黄	灰黄	1mm以下の白・黄色の砂粒	
290	須恵器	高台付杯 口縁一底部	A区 谷2	14.4	7.8	5.5	ナデ、ヘラ削り スス付着	ナデ スス付着	灰白 灰	灰白+ 灰	0.5mm以下の灰黒色の砂粒	
291	須恵器	高台付杯 体部一底部	A区 谷1		9.5		ナデ、スス付着	ナデ	灰白 黄	灰白	2mmの黒色の砂粒	
292	須恵器	高台付杯 体部一底部	A区 谷1		7.1		ナデ、自然輪	ナデ	灰白 灰	灰白	1mmの黒色の砂粒	
293	須恵器	高台付杯 体部一底部	A区 谷1		9.25		ナデ、自然輪	ナデ	灰黄 灰	灰	精良	
294	須恵器	高台付杯 体部一底部	A区		7.7		ナデ	ナデ	灰 灰	灰	精良	
295	須恵器	高台付杯 体部一底部	A区		7.8		ナデ	ナデ	灰 灰	灰	1mmの灰色の砂粒	
296	須恵器	高台付杯 口縁一底部	A区 谷2	13.2	8.0	8.0	ナデ	ナデ	灰 灰	灰	0.5~1mmの黒色の砂粒	
297	須恵器	杯 口縁一底部	A区	14.2			ナデ	ナデ	灰 灰	灰	精良	
298	須恵器	杯 口縁	A区 谷1	12.3			ナデ	ナデ	灰 灰	灰	精良	
299	須恵器	杯 口縁一底部	A区 谷1	14.1			ナデ	ナデ	灰白 灰	灰	精良	
300	須恵器	杯 口縁一底部	A区 谷3	12.5			ナデ	ナデ	灰黄 灰	灰	精良	自然輪?
301	須恵器	杯 口縁一底部	A区 谷1	18.1			ナデ	ナデ	灰黄 灰	灰	精良	
302	須恵器	高杯 胴部	A区		8.7		ナデ、自然輪	ナデ	暗赤 灰	灰	精良	
303	須恵器	杯 口縁	A区				ナデ	ナデ	灰黄 灰	灰	0.5mm以下の黒色の砂粒	
304	須恵器	杯 口縁	A区 谷2				ナデ	ナデ	灰 灰	灰	1mm以下の黒色の砂粒	
305	須恵器	壺 胴部	A区 谷3				ナデ、自然輪	ナデ、新十のつなぎ割	灰黄 灰	灰	1mm以下の黒色の砂粒	
306	須恵器	壺 胴部	A区 谷3				ナデ、平行タタキ	ナデ 同心円タタキ	灰白 灰	灰	精良	
307	須恵器	壺 胴部	A区				ナデ、平行タタキ	風化の為不明	灰 灰	灰	精良	自然輪
308	須恵器	壺 胴部一底部	A区 谷1	10.2			カキ目、ナデ 格子目タタキの後ナデ	ナデ	灰 灰	灰	精良	自然輪
309	須恵器	壺 底部	A区		5.0		平行タタキの後ナデ 自然輪	ナデ	灰 灰	灰	精良	
310	須恵器	壺 胴部	A区 谷3				ナデ、自然輪	ナデ	灰 灰	灰	精良	
311	須恵器	壺 胴部	A区 谷2				ナデ、自然輪	ナデ	灰 灰	灰	3mm以下の茶・黒色光沢粒	
312	須恵器	壺 胴部	A区 谷3				ナデ	ナデ	灰 灰	灰	0.5~3mmの黒色光沢粒	
313	須恵器	壺 胴部	A区 谷1				カキ目、ナデ、自然輪	同心円タタキ、ナデ	灰 灰	灰	1mm以下の茶・黒・白色の砂粒	
314	須恵器	壺 底部	A区	12.1			ナデ	ナデ	灰 灰	灰	精良	
315	須恵器	壺 胴部一底部	A区 谷2	10.6			ナデ、自然輪	ナデ	灰 灰	灰	精良	
316	須恵器	壺 底部	A区 谷2	10.7			ナデ	ナデ	灰 灰	灰	精良	
317	須恵器	壺 高台	A区		13.9		ナデ	ナデ	灰 灰	灰	精良	
318	須恵器	壺 口縁一胴部	A区 谷1	19.5			ナデ、カキ目 格子目タタキ、自然輪	同心円タタキ後ナデ	灰 灰	灰	0.5~3mmの黒色の砂粒	
319	須恵器	壺 胴部	A区				格子目タタキ	平行タタキ	灰 灰	灰	精良	
320	須恵器	壺 胴部	A区				格子目タタキ	平行タタキ	灰白 灰白	灰白	精良	
321	須恵器	壺 胴部	A区 谷2				平行タタキ 格子目タタキ	平行タタキ後ナデ	灰白 灰	灰白	精良	
322	須恵器	壺 胴部	A区 谷2				格子目タタキ	放射状タタキ	灰 灰	灰	精良	
323	須恵器	壺 胴部	A区				格子目タタキ	ナデ	灰 灰	灰	精良	
324	須恵器	壺 胴部	A区 谷1				格子目タタキ	放射状タタキ	灰 灰	灰	精良	
325	須恵器	壺 胴部	A区 谷1				平行タタキ	平行タタキ	灰黄 灰	灰	精良	
326	須恵器	壺 胴部	A区 谷2				平行タタキ	平行タタキ	灰黄 灰	灰	精良	
327	須恵器	壺 胴部	A区				平行タタキ	同心円タタキ	灰 灰	灰	精良	
328	須恵器	壺 胴部	A区 谷3				平行タタキ後ナデ	同心円タタキ後ナデ	灰 灰	灰	精良	

第9表 A区出土土器観察表(9)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量 (cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考		
				口径	底径	高さ	外面	内面	外面			内面	
329	土師器	甕口縁一部分	A区谷2	22.7			Li層部横ナデ 上具による横ナデ、黒染	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	6m以下の灰・茶褐色・黒褐色の礫	
330	土師器	甕口縁	A区				Li層部横ナデ	ナデ、削り	ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	2~5mの灰・乳白色・茶・褐色の礫 2m以下の灰・乳白色・茶・褐色の礫	
331	土師器	甕口縁	A区谷2				ナデ	ナデ、削り	ナデ、削り	明黄褐色	淡黄褐色	3.5m以下の褐色の砂粒	
332	土師器	甕口縁	A区				横ナデ	横ナデ、縦方向の削り	横ナデ、縦方向の削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	2m以下の灰・茶・透明光沢な砂粒	
333	土師器	甕口縁	A区	22.6			横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	5m以下の赤褐色の礫 2m以下の灰・茶・褐色の砂粒	
334	土師器	甕口縁	A区谷2	21.0			Li層部横ナデ	ナデ、削り	ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	3.5m以下の褐色の砂粒	
335	土師器	甕口縁	A区	15.6			ハケ目、スス付着	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	1m以下の赤茶・褐色・灰色の砂粒	
336	土師器	甕口縁	A区谷2				横ナデ	ナデ、削り	ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	1m以下の灰・茶・黒く黒く砂粒	
337	土師器	甕口縁	A区谷3				横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	4m以下の赤褐色の礫、2m以下の茶・灰黄・透明光沢な砂粒	
338	土師器	甕口縁	A区	16.9			横ナデ、スス付着	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	1m以下の赤褐色の砂粒	
339	土師器	甕口縁	A区谷2				ナデ、スス付着	ナデ、削り	ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	3.5m以下の灰色の砂粒	
340	土師器	甕口縁	A区谷1				ナデ、縦方向の横線条痕	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	2m以下の乳白色・淡黄色の砂粒	
341	土師器	甕口縁	A区				横ナデ、黒染	横ナデ、黒染	横ナデ、黒染	横ナデ、黒染	横ナデ、黒染	4m以下の茶色の礫 1m以下の灰・灰黄・透明光沢な砂粒	
342	土師器	甕口縁	A区谷2				横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	6m以下の乳白色・淡黄・灰色・透明光沢な砂粒	
343	土師器	甕口縁	A区谷3	21.4			ナデ、胎土のつき目	ナデ	ナデ	淡黄褐色	黄褐色	6m以下の赤茶・灰色の礫 3m以下の灰色・乳白色の砂粒	
344	土師器	甕口縁	A区谷2	23.8			横ナデ、指痕痕	横ナデ	横ナデ	黄褐色	明黄褐色	3m以下の黒・乳白色・赤褐色の砂粒	
345	土師器	甕口縁	A区				横ナデ、胎土のつき目	横ナデ、胎土のつき目	横ナデ、胎土のつき目	横ナデ、胎土のつき目	横ナデ、胎土のつき目	4m以下の明褐色の礫 2m以下の乳白色・灰色の砂粒	
346	土師器	甕口縁	A区谷3				ナデ、指痕痕	ナデ	ナデ	淡黄褐色	淡黄褐色	2m以下の乳白色・灰色の砂粒	
347	土師器	甕口縁	A区				Li層部横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	7mの茶色の礫、2m以下の黒・白・淡黄・茶褐色の砂粒	
348	土師器	甕口縁	A区				ナデ、横ナデ	横ナデ、胎土のつき目	横ナデ、胎土のつき目	横ナデ、胎土のつき目	横ナデ、胎土のつき目	3m以下の褐色・白・透明な砂粒	
349	土師器	甕口縁	A区谷2				縦方向のハケ目の後縁方向のハケ目	削り	削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	2m以下の灰白・灰・黒・茶・透明光沢な砂粒	
350	土師器	甕口縁	A区谷2				縦方向のハケ目の後縁方向のハケ目	削り	削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	1m以下の茶・褐色・透明光沢な砂粒	
351	土師器	甕口縁	A区				縦方向のハケ目の後縁方向のハケ目、スス付着、指痕痕	削り	削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	1m以下の茶・灰・褐色の砂粒	
352	土師器	甕口縁	A区				縦方向のハケ目の後縁方向のハケ目	削り	削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	1m以下の灰白・灰色・透明光沢な砂粒	
353	土師器	甕口縁	A区				縦方向の横線条痕	ナデ、指痕痕	ナデ、指痕痕	横ナデ、削り	横ナデ、削り	2m以下の乳白色・淡黄色の砂粒	340と同一か
354	土師器	甕口縁	A区	15.9			ハケ目	削りの横ナデ	削りの横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	4m以下の灰褐色・褐色の砂粒 2m以下の黄褐色・茶褐色の砂粒	
355	土師器	甕口縁	A区	14.1			削り、ナデ、黒染	ナデ、上具削り、底部黒染	ナデ、上具削り、底部黒染	横ナデ、削り	横ナデ、削り	4m以下の灰褐色・褐色の礫 2m以下の灰・灰褐色の砂粒	
356	土師器	甕口縁	A区				ナデ	ナデ、削り	ナデ、削り	横ナデ、削り	横ナデ、削り	2m以下の褐色・白・透明光沢な砂粒	
357	土師器	甕口縁	A区谷2	9.8			横ナデ	横ナデ、黒染	横ナデ、黒染	横ナデ、削り	横ナデ、削り	4m以下の赤褐色の礫 2m以下の褐色の砂粒	
358	土師器	甕口縁一部分	A区谷1	13.1	T.1	5.5	ナデ、スス付着	ナデ	ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	2m以下の灰・茶・黒色の砂粒	
359	土師器	甕口縁	A区				ナデ	ナデ	ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	3m以下の灰褐色・褐色の砂粒	
360	土師器	甕口縁	A区谷3				ハケ目	ナデ、指痕痕	ナデ、指痕痕	横ナデ、削り	横ナデ、削り	5m以下の灰・茶褐色の礫 3m以下の黒・灰色・茶褐色の砂粒	丸底
361	土師器	甕口縁一部分	A区谷1	14.1			ナデ、指痕痕	横ナデ	横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	4m以下の淡黄色の砂粒	
362	土師器	甕口縁一部分	A区	14.4			ナデ、指痕痕	横ナデ	横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	4~8mmの褐色の礫 3m以下の黄褐色・褐色の砂粒	
363	土師器	甕口縁一部分	A区				ナデ、指痕痕	横ナデ	横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	1m以下の灰色の砂粒	
364	土師器	甕口縁一部分	A区	15.4			ナデ、指痕痕	横ナデ	横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	4~7mmの茶色の礫 3m以下の灰・黄・黒褐色の砂粒	
365	土師器	甕口縁一部分	A区谷1	14.4			ナデ、指痕痕	横ナデ	横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	2m以下の茶・茶褐色・淡黄色の砂粒	
366	土師器	甕口縁一部分	A区	16.0			ナデ、指痕痕	横ナデ	横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	2m以下の灰白・灰白・褐色の砂粒	
367	土師器	甕口縁一部分	A区	13.7			ナデ、指痕痕	横ナデ	横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	4~7mmの黄褐色の礫 3m以下の灰・黒褐色・褐色の砂粒	
368	土師器	甕口縁一部分	A区谷2				ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	8m以下の褐色の礫	
369	土師器	甕口縁一部分	A区				ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ、削り	横ナデ、削り	2~4mの褐色の砂粒	

第10表 A区出土土器観象表(1)

遺物 番号	種別	器種・ 部位	出土 地点	法量 (cm)			手法・機能・文様ほか		色調		土土の特徴	備考	
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外面	内面			
370	土師 器	鉢 底部分	A区 谷1				ナデ	布織	にぶい 黄	黄	2mm以下の赤褐色の砂粒		
371	内黒 土器	環 口縁一底部分	A区 谷1				回転ナデ、削り	ミガキ、内黒	洗黄緑	黄	3mm以下の赤褐色の砂粒		
372	内黒 土器	環 口縁一底部分	A区	14.0			ミガキ	ミガキ、内黒	にぶい 黄緑	黄緑	0.5mm以下の透明光沢、灰色の砂粒		
373	内黒 土器	環 口縁一底部分	A区	17.0			ミガキ、ナデ	ミガキ、内黒	黄 にぶい 黄	黄緑	1mm以下の茶・黒色の砂粒		
374	内黒 土器	環 口縁一底部分	A区 谷2	17.7			回転ナデ	ミガキ、内黒	にぶい 黄緑	黄	2.5mm以下の赤褐色の砂粒		
375	内黒 土器	環 口縁一底部分	A区	13.0			ミガキ、ナデ	ミガキ、内黒	にぶい 黄	黄	3mm以下の褐色の砂粒		
376	内黒 土器	環 口縁	A区 谷2				横ナデ	ミガキ、内黒	灰黄	黄	1mm以下の茶色の砂粒		
377	内黒 土器	環 口縁	A区				横ナデ	ミガキ、内黒	洗黄	黄緑	1mm以下の白透明光沢・黒色光沢な砂粒		
378	内黒 土器	環 口縁	A区	9.8			ナデ	ミガキ、内黒	黄	黄	1mm以下の茶褐色・灰褐色の砂粒		
379	内黒 土器	体部一底部分	A区 谷2	5.5			ナデ、黒底	ミガキ、内黒	にぶい 黄緑	黄	1mm以下の褐色・橙色・灰黄・黒色 光沢の砂粒		
380	内黒 土器	環 口縁一底部分	A区 谷2	9.0	5.2	2.2	ミガキ、削り、工具痕	ミガキ、内黒	明黄緑 にぶい 黄	黄	0.5mm以下の黒・赤褐色の砂粒		
381	内黒 土器	鉢 底部分	A区 谷2	9.4			ナデ	ミガキ、内黒	にぶい 黄緑	黄緑	2mm以下の黒・乳白色・茶色の砂粒		
382	内黒 土器	鉢 底部分	A区 谷2	7.8			横ナデ、へら削り 高台ナデ	ミガキ、内黒	洗黄緑	黄	0.5mm以下の白・透明光沢・黒色光 沢な砂粒		
383	土師 器	環 口縁一底部分	A区 谷1	17.2	10.0	7.1	回転ナデ、削り、へら切 り	横ナデ	灰黄	にぶい 黄緑	黄	2mm以下の灰・黒色の砂粒	
384	土師 器	環 口縁一底部分	A区 谷3	16.4	9.5	5.0	回転ナデ、へら切り後ナ デ	ナデ	黄	黄	1mm以下の赤褐色の砂粒		
385	土師 器	環 口縁一底部分	A区 谷1	14.0	8.2	3.7	回転ナデ、へら切り	横ナデ	洗黄	にぶい 黄緑	黄	2mm以下の赤褐色の砂粒	
386	土師 器	環 口縁一底部分	A区 谷2	18.0	8.2	4.0	回転ナデ、へら切り後ナ デ	ナデ、指による押圧	黄	黄	0.5mm以下の灰白・灰・褐色の砂粒		
387	土師 器	環 口縁一底部分	A区	13.0	7.8	4.1	回転ナデ	ナデ	黄	黄	1mm以下の黒・透明光沢な砂粒	黒緑 黄緑	
388	土師 器	環 口縁一底部分	A区	12.8	6.5	4.9	ナデ、へら切り後ナデ	ナデ	黄 にぶい 黄	黄	0.5mm以下の褐色の砂粒		
389	土師 器	環 口縁一底部分	A区 谷1	12.7	6.5	4.1	横ナデ、へら切り後ナデ	横ナデ	灰黄	灰黄	3mm以下の茶・灰・乳白色の砂粒		
390	土師 器	環 口縁一底部分	A区	12.45	7.3	4.7	ナデ、へら切り後ナデ	ナデ	黄	黄	2mm以下の褐色の砂粒		
391	土師 器	環 口縁一底部分	A区 谷2	11.4	6.3	4.1	横ナデ、削り、へら切 り後ナデ	横ナデ、ナデ	黄	黄	1mm以下の茶・乳白色の砂粒		
392	土師 器	環 口縁一底部分	A区 谷2	12.55	6.8	4.45	横ナデ・口縁部に粘土の かえり	ナデ	黄	黄	1mm以下の赤褐色・灰・茶・乳白色の砂 粒		
393	土師 器	環 口縁一底部分	A区	12.8	8.2	4.2	回転ナデ、へら切り後ナ デ	横ナデ	洗黄	にぶい 黄緑	黄	精良	
394	土師 器	環 口縁一底部分	A区 谷2	16.0	7.4	4.25	回転ナデ、へら切り後ナ デ	横ナデ	にぶい 黄緑	にぶい 黄	黄	精良	
395	土師 器	環 口縁一底部分	A区	13.6	5.6	5.6	ナデ、削り、へら切り後 ナデ	ナデ	洗黄	にぶい 黄	黄	1mm以下の褐色の砂粒	
396	土師 器	環 口縁一底部分	A区	13.1	6.7	3.85	横ナデ、削り、黒底、へ ら切り後ナデ	横ナデ、黒底	黄 洗黄 黄	黄 洗黄 黄	黄	2mm以下の洗黄・白・黒・透明光 沢な砂粒	
397	土師 器	鉢 底部分	A区	8.0			回転ナデ、へら切り後ナ デ、円盤状高台	ナデ	黄	黄	2mm以下の灰・茶・茶色の砂粒		
398	土師 器	鉢 底部分	A区	5.8			ナデ、へら切り後ナデ 円盤状高台	ナデ	洗黄	洗黄	2mm以下の褐色・褐色の砂粒		
399	土師 器	鉢 底部分	A区 谷2	5.8			ナデ、指痕、へら切 り後ナデ、円盤状高台	ナデ	にぶい 黄	黄	1mm以下の茶色の砂粒		
400	土師 器	鉢 底部分	A区	7.2			ナデ、へら切り後ナ デ円盤状高台	ナデ、指による押圧	洗黄	黄	0.5mm以下の褐色の砂粒		
401	土師 器	鉢 底部分	A区	8.1			横ナデ、新土のかえり、へ ら切り後ナデ、円盤状高台	ナデ	にぶい 黄	にぶい 黄	0.5mm以下の赤褐色・透明光沢な砂粒		
402	土師 器	環 口縁一底部分	A区 谷2	13.9	7.5	7.25	横ナデ、へら切り後ナ デ円盤状高台	ナデ	洗黄	洗黄	1mm以下の褐色・黒・黒色光沢・透 明光沢な砂粒		
403	土師 器	鉢 底部分	A区 谷3	7.0			横ナデ、粘土のかえり、へ ら切り後ナデ、円盤状高台	横ナデ、指による押圧	にぶい 黄	にぶい 黄	2mm以下の褐色・黒色の砂粒		
404	土師 器	鉢 底部分	A区 谷1	8.4			円盤状高台、ナデ、へ ら切り後ナデ、工具痕	ナデ、指による押圧	黄	黄	0.5mm以下の灰色の砂粒		
405	土師 器	鉢 底部分	A区	7.7			ナデ、へら切り後ナ デ、円盤状高台	ナデ	黄	黄	2mm以下の褐色・灰・黒色の砂粒		
406	土師 器	鉢 底部分	A区 谷2	8.5			横ナデ、へら切り後ナ デ、円盤状高台	ナデ	にぶい 黄	にぶい 黄	2mm以下の白・黒色光沢な砂粒		
407	土師 器	鉢 底部分	A区 谷2	6.4			ナデ、へら切り後ナ デ、円盤状高台	ナデ	にぶい 黄	洗黄	1mm以下の暗褐色の砂粒		
408	土師 器	鉢 底部分	A区 谷1	9.4			回転ナデ、削り、へら切 り後ナデ	横ナデ	にぶい 黄	灰白	1mm以下の赤褐色の砂粒		
409	土師 器	鉢 底部分	A区	7.3			ナデ、へら切り後ナ デ	横ナデ	黄	黄	1mm以下の透明光沢・灰色砂粒		
410	土師 器	体部一底部分	A区 谷2	6.3			回転ナデ、へら切り後ナ デ	ナデ	洗黄	にぶい 黄	1mm以下の褐色・灰色・乳白色砂粒		

第11表 A区出土土器観察表(1)

遺物 番号	種類	器種 部位	出土 地点	法差 (cm)			手法・調整・文様ほか				色面		土土の特徴	備考
				口径	底径	高さ	外 面	内 面	外面	内面				
411	土師器	坏 底部	A区	5.0			回転ナデ、ヘラ切り後ナ デ	横ナデ	横ナデ	灰 黄	灰 黄	精良		
412	土師器	坏 底部一底部	A区	7.2			回転ナデ、ヘラ切り後ナ デ	ナデ	ナデ	黄	黄	1mm以下の赤褐色砂粒		
413	土師器	坏 底部一底部	A区	8.25			回転ナデ、ヘラ切り後ナ デ	ナデ	ナデ	淡黄緑	淡黄緑	4mm以下の褐色砂粒 2mm以下の灰・褐色砂粒		
414	土師器	坏 底部一底部	A区	8.6			回転ナデ、削り、ヘラ切 り後ナデ	ナデ	指による押圧、ナデ	灰 黄	黄	2mm以下の赤褐色・透明光沢・黒色 光沢砂粒		
415	土師器	坏 底部	A区 谷3	8.85			回転ナデ、削り、粘土の かぶり、ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	灰 黄	灰 黄	4mm以下の褐色砂粒 2mm以下の透明光沢砂粒		
416	土師器	坏 底部	A区 谷2	8.1			ナデ、ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	灰 黄	灰 黄	1.5mm以下の灰色砂粒		
417	土師器	坏 底部	A区	8.5			回転ナデ、削り、ヘラ切 り後ナデ	ナデ	ナデ	黄	黄	0.5mm以下の灰内・褐色透明光沢砂 粒		
418	土師器	坏 底部一底部	A区 谷1	8.05			回転ナデ、ヘラ切り後ナ デ	横ナデ	横ナデ	灰 黄	灰 黄	精良		
419	土師器	坏 底部	A区 谷2	5.85			回転ナデ、削り、ヘラ切 り後ナデ	横ナデ	横ナデ	灰 黄	灰 黄	1mm以下の赤褐色砂粒		
420	土師器	坏 底部一底部	A区 谷2	6.8			ナデ、ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	灰 黄	灰 黄	1.5mm以下の赤褐色砂粒		
421	土師器	坏 底部	A区	6.9			横ナデ、ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	黄	黄	2.5mm以下の赤褐色砂粒		
422	土師器	坏 底部	A区	7.0			ナデ、ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	灰 黄	灰 黄	1.5mm以下の赤褐色砂粒		
423	土師器	坏 底部	A区 谷3	7.35			ナデ、ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	淡黄緑	淡黄	1.5mm以下の赤褐色砂粒		
424	土師器	坏 口縁一底部	A区	14.85	7.7	6.35	ナデ、ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	黄	黄	1mm以下の透明光沢黒色・灰黄色砂 粒		
425	土師器	坏 口縁一底部	A区	14.7	7.1	6.0	回転ナデ、ヘラ切り後ナ デ	ナデ、指による押圧	ナデ、指による押圧	黄 明黄緑	灰 黄	1.5mm以下の灰色・灰黄色砂粒 1mm以下の黒色光沢・透明光沢砂粒		
426	土師器	坏 底部一底部	A区 谷2	6.55			横ナデ、高台内、放射状 の指痕	ナデ	ナデ	黄	黄	精良		
427	土師器	坏 底部一底部	A区	7.6			横ナデ、高台内、ヘラ切 り後ナデ	ナデ	ナデ	淡黄緑	黄	1mm以下の乳白色砂粒 2mm以下の赤色・青色・白色砂粒		
428	土師器	坏 底部	A区	6.8			ナデ	ナデ	ナデ	灰 黄	灰 黄	1mm以下の乳白色砂粒		
429	土師器	坏 底部	A区	8.15			ナデ、高台内・放射状の 指痕	ナデ	ナデ	黄	黄	1mm以下の乳白色・明黄色砂粒 2.5mm以下の灰黄色砂粒		
430	土師器	坏 底部	A区	8.8			横ナデ、高台内、ヘラ切 り後ナデ	横ナデ、工具痕	横ナデ、工具痕	淡黄緑	淡黄緑	2.5mm以下の赤色・褐色・灰色砂粒		
431	土師器	坏 底部	A区 谷2	7.3			横ナデ、高台内、ナデ	横ナデ	横ナデ	黄	黄	1mm以下の赤褐色砂粒		
432	土師器	坏 底部	A区 谷1	7.8			ナデ、高台内、放射状の 指痕	ナデ	ナデ	黄	黄	6mm以下の赤褐色の糠を多量に含む		
433	土師器	坏 底部	A区 谷2	7.6			ナデ	ナデ、黒斑	ナデ、黒斑	灰 黄	灰 黄	1.5mm以下の褐色砂粒		
434	土師器	坏 底部	A区 谷2	9.05			回転ナデ	ていねいなナデ	横ナデ	黄	黄	精良		
435	土師器	坏 底部	A区 谷3	8.13			ナデ、高台内放射状の指 痕	ナデ	ナデ	灰 黄	灰 黄	1mm以下白色砂粒、2mm以下灰褐色・赤 色砂粒、5mm以下の黄緑砂粒、7mm以下 黒		
436	土師器	坏 底部	A区	7.2			横ナデ、ナデ、高台内、 ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	黄	黄	0.5mm以下の赤色・褐色砂粒		
437	土師器	坏 底部	A区	7.2			横ナデ、高台内、ナデ	ナデ	ナデ	黄	黄	1mm以下の透明光沢砂粒		
438	土師器	坏 底部	A区 谷2	5.75			ナデ	ナデ	ナデ	黄	黄	0.5mm以下の赤色光沢砂粒		
439	土師器	坏 底部	A区	7.45			ナデ、高台内、ヘラ切り 後ナデ、スス付	ナデ	ナデ	黄、灰 黄	黄	1mm以下の灰のある灰白・褐色砂粒 2mm以下の粉褐色、灰内色・褐色砂粒		
440	土師器	坏 底部	A区	6.85			ナデ、高台内、放射状の 指痕	ナデ	ナデ	黄	黄	4mm以下の赤褐色		
441	土師器	坏 底部一底部	A区 谷2	7.45			回転ナデ、有段高台	横ナデ	横ナデ	灰 白	灰	精良		
442	土師器	坏 底部	A区	8.25			横ナデ、高台内放射状の 指痕	ナデ、指による押圧	ナデ、指による押圧	淡黄緑	淡黄緑	1.5mm以下の赤色砂粒		
443	土師器	坏 底部	A区	7.8			ナデ、高台内放射状の指 痕	ナデ	ナデ	黄	黄	2.5mm以下の灰褐色・赤褐色砂粒		
444	土師器	坏 底部	A区	8.7			ナデ、黒斑、有段高台	ナデ	ナデ	黄	黄	2.5mm以下の赤褐色砂粒		
445	土師器	坏 底部	A区	9.9			ていねいな横ナデ、高台 内、ヘラ切り有段高台	ていねいな横ナデ	ていねいな横ナデ	灰 黄	灰 黄	1mm以下の白色・灰黄色砂粒 1.5mm以下の灰褐色砂粒		
446	土師器	坏 口縁一底部	A区	7.75			回転ナデ、スス付	ナデ、スス付	ナデ、スス付	灰 黄	灰 黄	1mm以下の褐色砂粒		
447	土師器	坏 口縁一底部	A区 谷1	12.2			回転ナデ	ナデ、スス付	ナデ、スス付	灰 黄	灰 黄	精良		
448	土師器	坏 口縁一底部	A区	11.25			回転ナデ	ナデ	ナデ	灰 黄	灰 黄	4mm以下の赤褐色		
449	土師器	坏 口縁一底部	A区	15.55			回転ナデ	ナデ	ナデ	黄	黄	1mm以下の透明光沢砂粒		
450	土師器	坏 口縁一底部	A区				回転ナデ	ナデ	ナデ	黄	黄	0.5mm以下の褐色砂粒		
451	土師器	坏 口縁一底部	A区 谷2	13.8			回転ナデ	横ナデ	横ナデ	淡黄緑	淡黄緑	2mm以下の赤褐色の砂粒		

第12表 A区出土土器観表(1)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	質量 (cm)			手法・調整・文様ほか			色調		土土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面			
452	土器	杯 口縁一部份	A区 谷1	16.05			横ナデ、黒泥	横ナデ	横ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	1mm以下の赤褐色の砂粒	
453	土器	杯 口縁一部份	A区	12.75			回転ナデ、スス付着	横ナデ	横ナデ	灰	灰	3mm以下の茶色砂粒	
454	土器	杯 口縁一部份	A区 谷1				ていねいな回転ナデ、黒泥	ていねいなナデ	にぶい 横	にぶい 横	横良		
455	土器	杯 底面	A区	8.75			横ナデ、承切り底、円筒状高台	横ナデ	横ナデ	灰白	灰白	0.5mm以下の褐色・灰色砂粒	
456	土器	碗 口縁一部份	A区 谷1	16.18			回転ナデ、削り	横ナデ	横ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	2mm以下の褐色・灰色の砂粒	457と 同一
457	土器	碗 底面	A区	8.25			高台内、へう切り横ナデ、 回転ナデ、削り	横ナデ	横ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	2mm以下の褐色・灰色の砂粒	456と 同一
458	土器	杯 口縁	A区				横ナデ	横ナデ	横ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	1.5mm以下の灰褐色の砂粒	
459	灰物 陶器	杯 体部	A区				ナデ、削り、施釉、底部 磨削	ナデ、施釉、釉割ぎ	灰オリーブ 灰、灰白	灰	灰	精良	
460	灰物 陶器	杯 底面	A区 谷1	7.6			ナデ、施釉、高台内磨削、 高台内、へう切りの横ナデ	施釉、見込み磨削	オリーブ 灰	灰	灰	1mm以下の黒色砂粒	二月月 高台
461	灰物 陶器	杯 底面	A区 谷2	7.3			ナデ、施釉、高台内磨削、 高台内、へう切り横ナデ	施釉、見込み磨削	オリーブ 灰	灰	灰	精良	
462	灰物 陶器	杯 口縁	A区 谷2				ナデ、施釉	ナデ、施釉	オリーブ 灰	灰オリーブ	精良		
463	灰物 陶器	杯 口縁	A区 谷2				ナデ、施釉	ナデ、施釉	灰オリーブ	灰オリーブ	精良	輪花か	
464	灰物 陶器	杯 口縁	A区 谷2				ナデ、施釉	ナデ、施釉	浅黄	浅黄	精良	施花	
465	灰物 陶器	杯 口縁	A区				ナデ、施釉	ナデ、施釉	黄	浅黄	精良	施花	
466	灰物 陶器	杯 口縁	A区 谷1				ナデ、施釉、襷有り	ナデ、施釉	灰オリーブ 灰	灰	精良		
467	灰物 陶器	碗 口縁	A区				ナデ、施釉	施釉	灰オリーブ	にぶい 黄褐色	精良		
468	灰物 陶器	杯 体部	A区 谷2				ナデ、施釉、襷有り	ナデ、施釉	オリーブ 灰	灰オリーブ	精良		
469	灰物 陶器	杯 底面	A区	8.6			ナデ、全面施釉、削り、削 り出し磨削高台(通飾)	ナデ、施釉	黄黄 浅黄	浅黄	0.3mm以下の黒色砂粒		
470	青磁	碗 口縁一部份	A区				通弁、施釉	施釉	明緑灰	灰白	精良		
471	白磁	碗 口縁一部份	A区 谷2				ナデ貫入、施釉	貫入	灰白	灰黄	精良		
472	白磁	碗 底面	A区	4.45			ナデ、施釉、磨削	施釉、研鉢	淡黄 明黄褐色	黄	精良		
473	染付	碗 口縁	A区 谷2				施釉	施釉	灰白	灰白	精良		
474	陶器	灰 口縁	A区 谷3	4.85			ナデ、施釉	ナデ、施釉	暗灰黄	黄褐色	精良		
475	陶器	碗 口縁	A区 谷1				施釉	施釉	灰	にぶい 黄褐色	精良		
476	陶器	碗 口縁	A区 谷1				施釉、磨削、貫入	ナデ、施釉、貫入	灰オリーブ	にぶい 横	精良		
477	陶器	すり鉢 口縁	A区				ナデ	横ナデ、磨削線文、自然 孔	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	2mm以下の褐色・灰白・乳白の 灰色の砂粒、1.5mm以下の赤褐色・灰褐色	肥野	
478	縄文 土器	灰鉢 底面	A区 谷2				貝殻糸、貝殻線刻文	貝殻糸	横良	灰褐色	1mm以下の透明光沢・乳白色な砂粒		
479	縄文 土器	鉢 口縁	A区				横ナデ、貼付突帯	横ナデ	にぶい 黄褐色	横	2mm以下の灰白・乳白色・茶色・ 褐色の砂粒	夜白系	
480	縄文 土器	鉢 口縁	A区 谷1				横ナデ、貼付突帯	ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	2mm以下の褐色・乳白色・黒色の砂 粒	夜白系	
481	縄文 土器	鉢 口縁	A区 谷3				粗み目突帯、粘土のつな ぎ目、貝殻糸	貝殻糸横線ナデ	灰黄	灰白	2mm以下の黄褐色・乳白色・透明光 沢な砂粒	夜白系	
482	不明	不明 底面	A区 谷				ナデ、磨削	ナデ	灰	黒	1mm以下の白色の砂粒 3mm以下の茶褐色・黄褐色・灰褐色		
483	不明	不明 底面	A区 谷3				ナデ、へう記号	ナデ	にぶい 横	灰	1mm以下の赤褐色の砂粒		
484	不明	不明 底面	A区 谷2				ナデ、へう記号	ナデ	にぶい 横	にぶい 横	1mm以下の黒い灰・白色・乳白色・ 灰色の砂粒		
485	不明	不明 底面	A区 谷2				ナデ、木の遺産	ナデ	浅黄	浅黄褐色	2mm以下の灰褐色・赤褐色・灰白色 の砂粒		
486	土器	把手	A区				指環状、ナデ	ナデ	横	浅黄褐色	1.5mm以下の乳白色・透明光沢砂粒 4mm以下の褐色の礫		
487	土器	把手	A区				指環状、ナデ	ナデ	横	横	1mm以下の透明光沢な砂粒 5mm以下の褐色の礫		
488	灰物 陶器	小杯 口縁	A区 谷1	6.0	2.05		手づくね、ナデ、粘土の つなぎ目、黒泥	手づくね、ナデ、黒泥	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	4mm以下の褐色・黒褐色の礫		
489	灰物 陶器	小杯 口縁	A区 谷1	4.6	0.9	2.2	手づくね、ナデ、粘土の つなぎ目、黒泥	手づくね、ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	5mm以下の黒褐色・褐色の礫		
490	灰物 陶器	小杯 口縁	A区 谷1	5.3	2.35		手づくね、黒泥、粘土の つなぎ目	手づくね	にぶい 黄褐色	明黄褐色	2mm以下の褐色の砂粒		
491	灰物 陶器	小杯 口縁	A区 谷1	6.0	1.45	2.4	手づくね、黒泥、粘土の つなぎ目	手づくね、黒泥	黄褐色	横良	2mm以下の褐色の砂粒		
492	?	ふいご 胴口	A区				粗いナデ、紐さきあり	粗いナデ	黄褐色 にぶい 横	横オリーブ 横	8mm以下の灰褐色の礫		

第13表 A区出土土器・石器計測表

レイアウト番号	出土地点	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
455	A区、谷2	土罐	3.0	2.05	2.0	10.5		
496	A区、谷2	土罐	3.5	1.75	1.75	8.1		
497	A区、谷2	土罐	5.3	1.7	1.7	11.1		
498	A区、谷2	土罐	4.3	1.45	1.45	6.9		
499	A区	土罐	4.2	1.55	1.5	8.7		
500	A区	土罐	3.75	1.95	1.9	10.0		
502	A区	土罐	4.55	1.75	1.75	10.7		
503	A区	土罐	3.9	1.45	1.45	5.5		
504	A区	土罐	3.8	1.55	1.55	9.0		
505	A区、谷2	土罐	3.55	1.55	1.55	10.6		
506	A区	土罐	3.95	1.4	1.4	7.8		
507	A区	土罐	3.8	1.8	1.75	10.7		
508	A区	土罐	4.0	1.7	1.75	9.9		
509	A区	土罐	4.0	1.6	1.6	9.1		
511	A区、谷1	石匙	5.1	3.3	0.4	5.9	頁岩	
512	A区	打製石鏃	2.25	1.3	0.35	0.9	チャート	
513	A区、谷2	磨製石鏃	2.55	3.4	0.2	2.6	頁岩	
514	A区、谷2	砥石	8.9	5.0	0.75	61.1	頁岩	
515	A区、谷2	砥石	7.4	4.8	1.1	70	頁岩	
516	A区	埴き?	10.2	8.15	5.5	58	礫石	
517	A区、谷2	埴き?	9.3	6.9	3.65	46	礫石	
518	A区	礫石	21.25	8.7	7.75	1,900	砂岩	
519	A区	磨製車	5.8	6.5	2.05	82	磨灰岩	
520	A区、谷1	円石	9.5	8.8	2.1	340	砂岩	礫石としても使用
521	A区、谷1	円石	12.5	10.15	3.2	1,060	砂岩	
522	A区、谷2	円石	12.4	8.3	3.5	490	砂岩	
523	A区、谷2	円石	10.0	10.4	3.2	540	砂岩	礫石としても使用
524	A区、谷2	石皿	14.8	16.35	11.2	2,630	砂岩	
	A区	砥石	15.2	4.9	1.7	250	砂岩	
	A区、谷1	砥石	14.5	3.45	3.3	250	砂岩	
	A区、谷1	砥石	10.25	4.35	3.5	310	砂岩	
	A区	砥石	8.5	4.0	1.7	110	砂岩	
	A区、谷2	砥石	4.9	4.8	1.4	43.9	砂岩	
	A区、谷2	砥石	3.8	4.8	1.0	40	頁岩	
	A区	砥石	3.55	3.4	1.1	17.1	砂岩	
	A区	砥石	3.4	1.7	0.9	10	砂岩	
	A区、谷1	磨石	7.75	6.35	5.9	34.0	砂岩	
	A区、谷2	磨石	6.5	3.9	-	-	尾鈴磨石片	
	A区、谷1	磨石	9.8	7.1	5.2	550	砂岩	
	A区、谷2	磨石	8.3	9.9	3.0	300	砂岩	
	A区、谷2	磨石	15.4	12.1	3.9	1,160	砂岩	
	A区、谷2	磨石	15.15	12.45	4.65	980	砂岩	
	A区、谷2	磨石	12.4	12.6	8.1	1,250	砂岩	
	A区、谷2	磨石	15.0	14.55	8.8	1,645	砂岩	

～407は円盤状の高台を持つ一群である。397～401は垂直、402～407は斜めに張り出す高台である。400・403・404は底部中央を押圧により窪ませている。408～423は無高台の坏底部を一括した。多くのものは回転ナデにより成形される。412～417は体部が丸みを持って立ち上がる。417・420～423は、底部と体部の境がやや丸みを持ち鋭角な稜を成さない。414は底部中央を押圧により窪ませており、結果底部が外に張り出している。424～445は高台付の坏である。426・429・432・440・442・443は、高台内部に放射状の指頭状稜を持つ。432は胎土に多量の礫を含み、やや異質のものである。433～435は、足長の高台を持つ。高台内は丁寧なナデ調整である。436～440は、短く内湾する高台である。441～443は、外に張らず直立に近い高台である。441・444・445は、段を有する高台を持つ。441は軟質の焼き上がりで、色調は暗灰色である。434・445は胎土が精良で、調整や焼成状態が須恵器に近似している。446～454は坏口縁部を一括した。446～450は直行するもの、451は内湾、452～454は外反する。453は焼成状態が須恵器に近い。454は器壁が薄く、内外面の調整はミガキに近い丁寧なナデである。455は糸切りの円盤状高台である。色調は淡黄灰色で、胎土も他と異なる。円盤状高台の糸切りのものは南九州に類例が乏しく他地域からの搬入の可能性が強い。456・457は同一個体で、体部中位が屈曲するいわゆる腰碗である。屈曲部から口縁にかけて垂直に近く立ち上がり、外傾した口唇部をわずかに折り返す受け口となる。底部は、やや外反気味に斜めに張り出す高台を持つ。458は小型壺の口縁部である。

459～461は灰釉陶器である。口縁～体部のみ施釉する。460は三日月高台を有する。

462～469は緑釉陶器である。467は輪花皿、他は碗である。口縁には、直行のものと端反りのものが見られる。466・468は、体部中位に稜を有する。469は削り出しによる円盤状高台で、圏線により蛇の目高台風に仕上げられている。内外全面に施釉する。釉の色調は、464・465・469は淡黄緑色、他は濃緑色である。

470は青磁碗で、体部に刻線による連弁文が見られる。471・472は白磁皿である。472には見込みを重ね焼きの目跡が残る。473は染付碗で、端反りとなる。474～476は施釉陶器で、474は小壺あるいは瓶の口縁、475・476は碗である。477は備前のすり鉢である。間隔をおいて施される櫛目が見られる。口縁部は若干の肥厚を見せる。

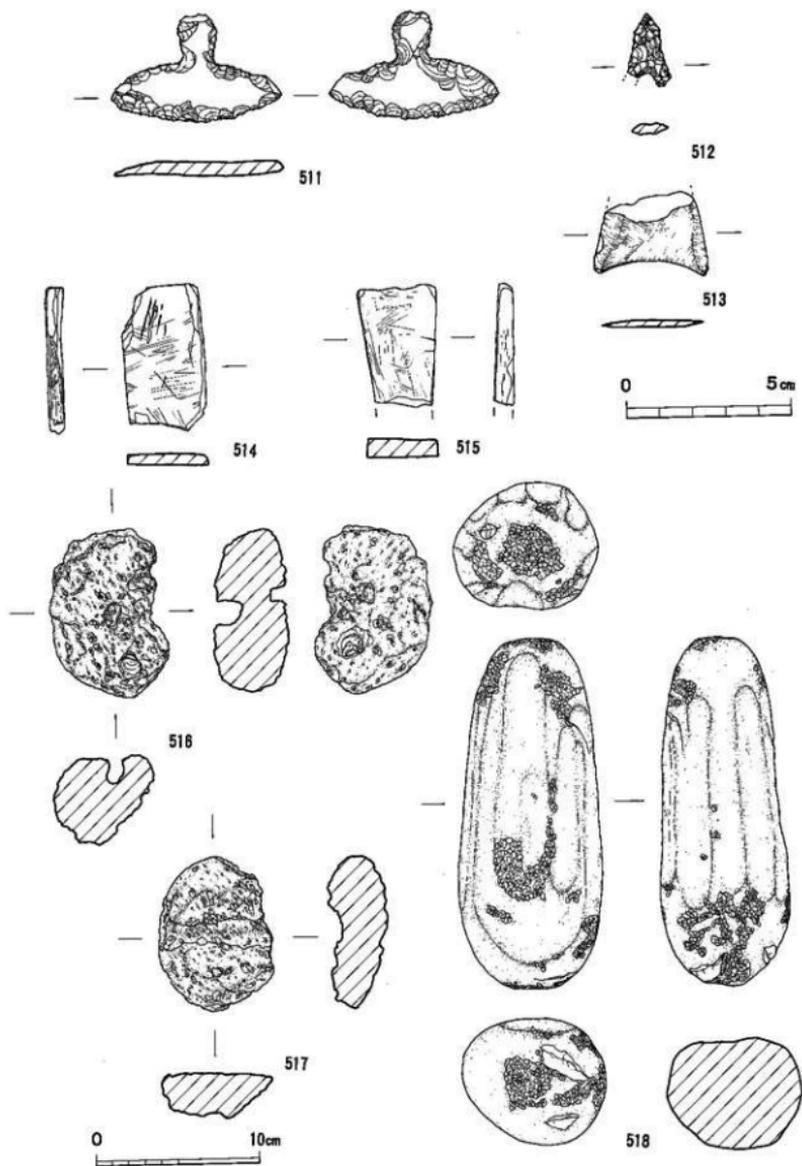
#### ・その他の遺物（第28図）

478～481は縄文土器である。478は市来式土器で、肥厚させた口唇部に貝殻による刺突文と浅沈線が施される。器面調整は内外面ともに貝殻条痕である。479～481は口縁部下に刻目突帯を有する晩期の夜日式系の浅鉢である。

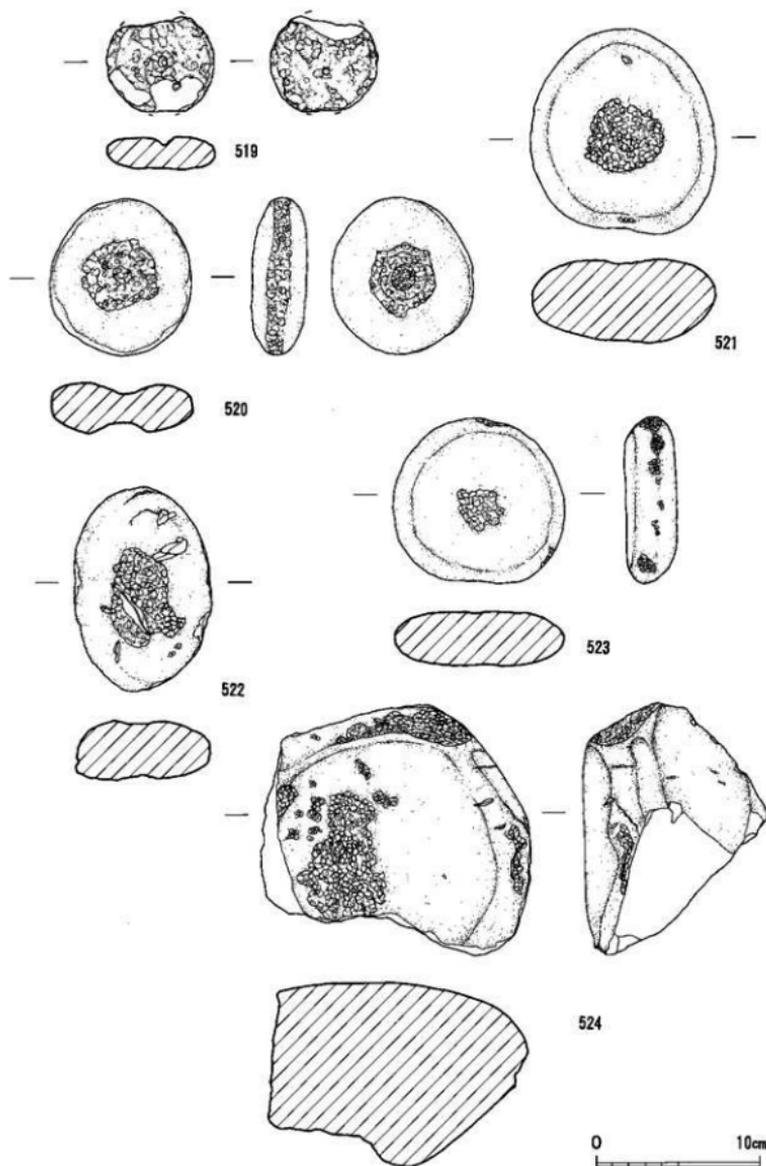
482～485は器種不明の底部で、ヘラによる刻線が見られる。482～484は「+」、485は葉脈状である。486・487は把手で、手づくね成形した粘土紐を半円形に曲げ両端を土器本体に接合したものである。488～491は手づくね成形の小坏で、非常に粗い稚拙な作りである。492はふいごの羽口で、端部に黒光りするガラス状の鉱滓が付着している。493・494は円盤状土製品で、中央に推定径0.8cmの孔を持つ。紡錘車と思われる。495～509は上錘である。510は寛永通寶で、裏面に「文」の文字を持つ。

#### 石器・石製品（511～524）

石器および石製品については、本遺跡で代表的なものをここに記載し、他は計測表に記す。



第29图 A区出土石器实测图(1)(511~513は2/3、他は1/3)



第30图 A区出土石器实测图(2)(1/3)

511は素材剥片の主要剝離面を残す横型石匙で、頁岩製である。512はチャート製の石鎌で、両側縁に角をもち先端部を作り出している。513は薄手で大型の磨製石鎌の基部であり、石材は頁岩である。514・515は、厚みがなく扁平な頁岩を用いた砥石である。全面に斜めに走る研磨痕が観察される。516・517は軽石製の石製品で、516は4ヶ所に穿孔がみられそのうち1ヶ所のみが貫通している。517は中央部に幅約1cmの袂り状の切れ目が入っている。浮きとして使用されたものと推測される。518は砂岩製の敲石で、側縁に沿って幅2cm、長さ12cmにわたる使用痕が認められ、端部には敲打痕が残る。また、下端部は火をうけて赤化している。519は、柔らかい凝灰岩を素材とした紡錘車の未製品である。520～523は砂岩製の凹石である。520は、両面とも中央部がくぼみ、すすが付着している。側面には、密な敲打痕が認められ、敲石としても使用されていたと考えられる。524は石皿とみられ、石材は砂岩である。

## 第2節 B区の調査

### 1. B1区 (第31図)

B1区は面積580㎡、標高26～30mの東向き斜面である。堅穴住居跡4基、土坑1基を検出した。以下、遺構毎にその特徴と出土遺物について記述するが、弥生土器についてはA区出土遺物で設定した分類をあわせて記す。

### SA1 (第32図)

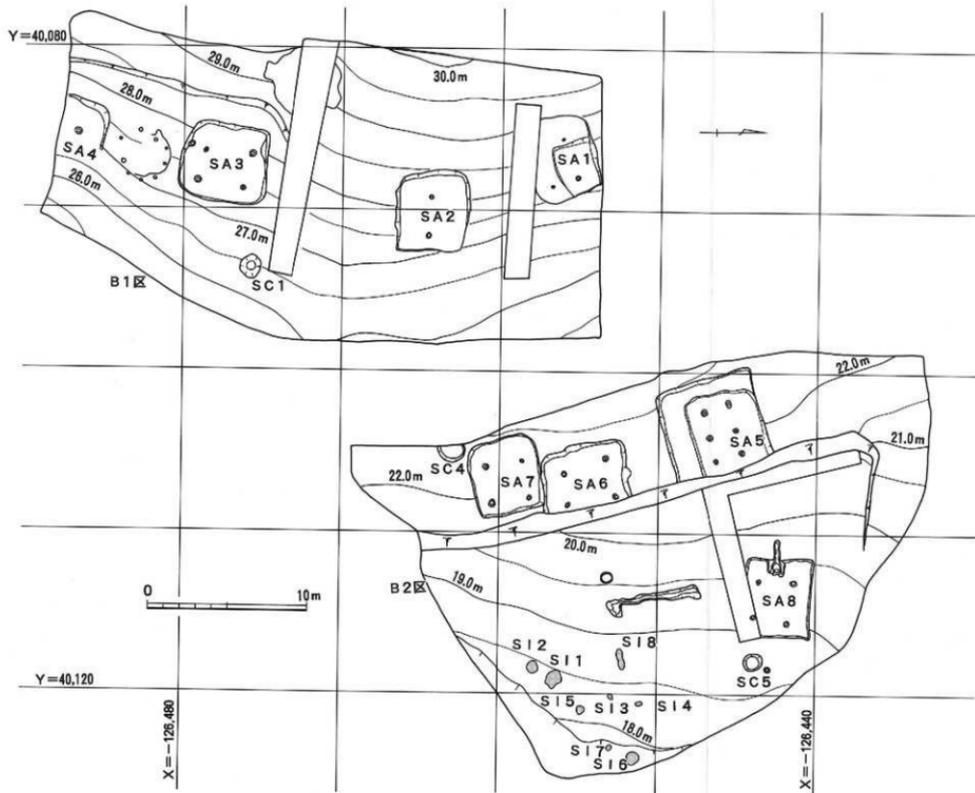
SA1は、B1区の北隅で確認調査のトレンチを設定した際に検出された。長辺5.10m、短辺4.25mの長方形プランである。床面西側約3分の1は急な傾斜となり、北東側3.00×2.40mの範囲が平坦面となる。北側壁面は竹根等による攪乱でやや不明瞭な部分が見られた。柱穴は床面で3基が検出された。平面プランと出土遺物の面で不自然な点が見られ、2基の遺構が切り合う可能性も指摘されたが、埋土堆積状況の観察からは明確に区分されなかった。床平坦面には3個体の甕が近接して立位で埋められていた。焼土等は見られず、甕の内外の土も受熱の状況は見られなかった。床面積は推定で20.1㎡、平坦面は6.8㎡である。

出土遺物を第33図に示した。525～531は土師器で、古墳時代後期に位置付けられる。525～530は胴張りの弱い壺である。胴下部に最大径を持つ。頸部は強く屈曲せず、緩やかに外反する。内器面に粘土の輪積み痕を明瞭に残す。調整は内外面ともにハケ目であるが、小礫を多く含む粗い胎土のため礫や砂粒の移動が著しく、器面の仕上がりはやや粗野な状態である。527と528、529と530はそれぞれ同一個体である。526～530の3個体は、床平坦面北東部に立位で埋められた状態で出土した。525は床直上に倒位で出土した。531は高坏である。床面段落ち際で出土した。坏部は明瞭な稜を持たないものの、ほぼ垂直に立ち上がり口縁に向けて緩やかに外反する。532～547は弥生時代の遺物である。ほとんどのものが床面上からの出土である。532～535は口縁端部に貼付け突帯を持ち逆L字形となる甕である。突帯は、先細りとなり断面三角形のもの(532、口縁2-A-2)、断面台形のもの(533・534、口縁2-B-1)、全体に細いもの(535、口縁2-A-1)が見られる。532は丸みのある胴部に二条の刻目突帯を持つ。536は下城式系の甕である(口縁2-D-1)。直行する口縁部下に一条の刻目突帯を持つ。外器面の調整は縦ハケである。537～540は甕底部である。脚台状のもの(537・538、底部1-A)、小さな平底のもの(539・540、底部3-A)が見られる。541～546は壺である。541・542は胴上部に数条の貼付突帯を持つ(9-D)。543・544は櫛描の横線文と波状文が施される(8-A)。545・546は底部で、いずれも厚みのある平底となる(底部2)。547は磨製石鏃である。床平坦面直上から出土した。頁岩製。

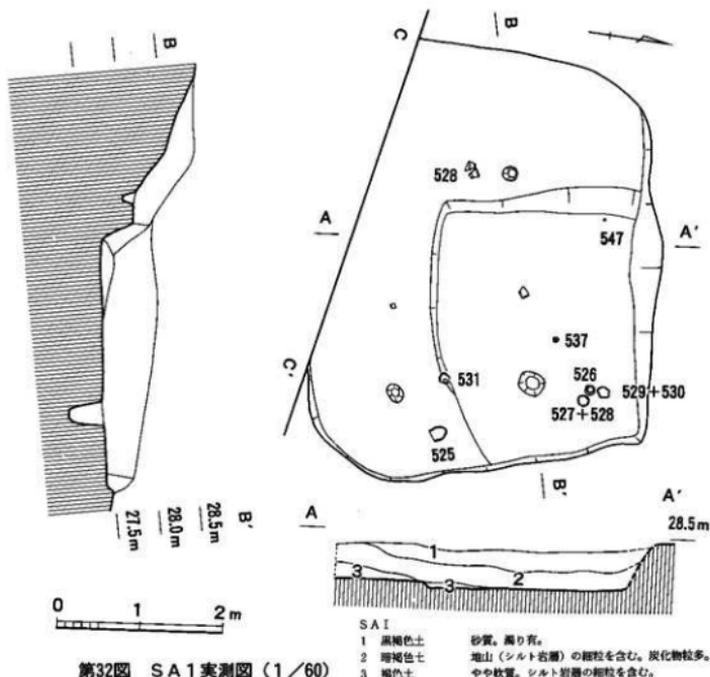
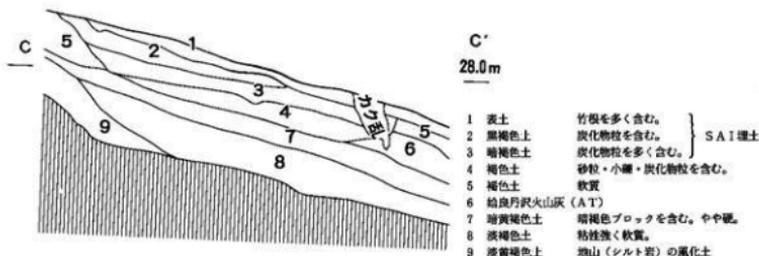
SA1出土遺物は、古墳時代後期と弥生時代中期前半の二時期に分かれる。いずれの時期の遺物も床面からの出土であり、遺構時期の判断は慎重さを要する。前述のように切り合いの可能性は残るものの、現状では埋壺を伴う古墳時代の住居に弥生時代の遺物が流入したものととらえておきたい。後述するSA2～4は弥生時代の住居であり、比較的急な斜面地という立地を考慮すれば、土中に埋もれた前時代の遺物が流入する可能性も十分にありえよう。

### SA2 (第34図)

SA2は、B1区中央やや北寄りに検出した。長辺5.00m、短辺4.66mの方形プランである。柱穴は



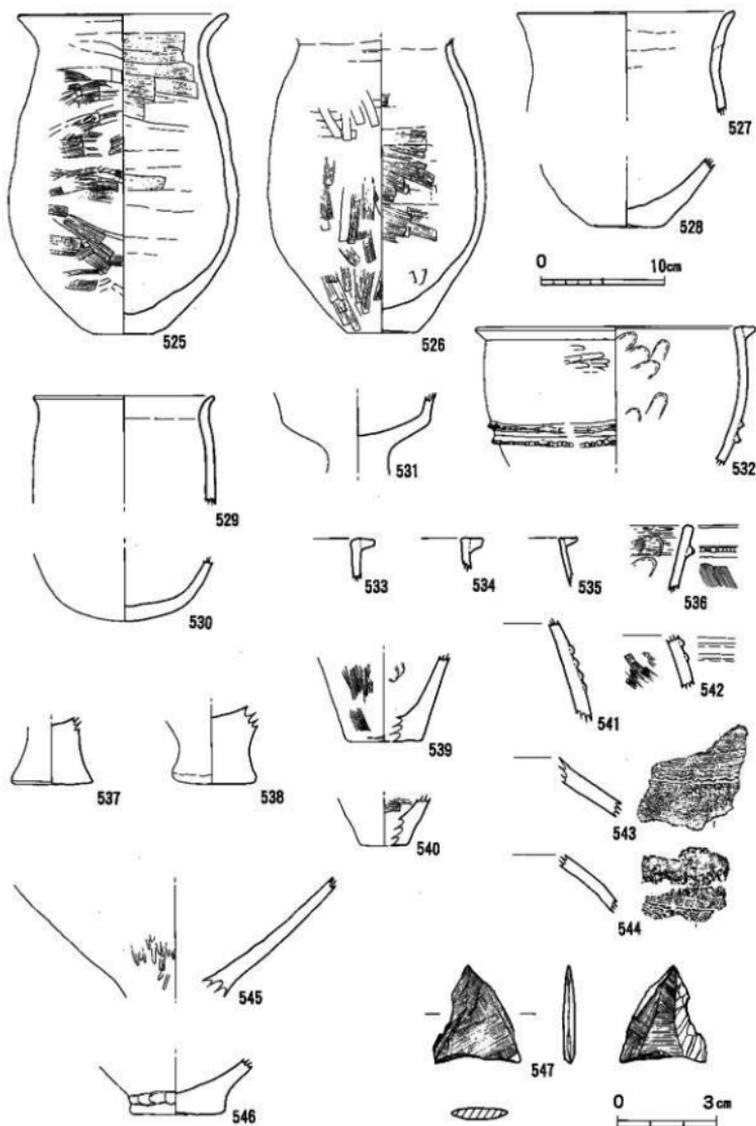
第31图 市位遺跡B区全体图 (1/250)



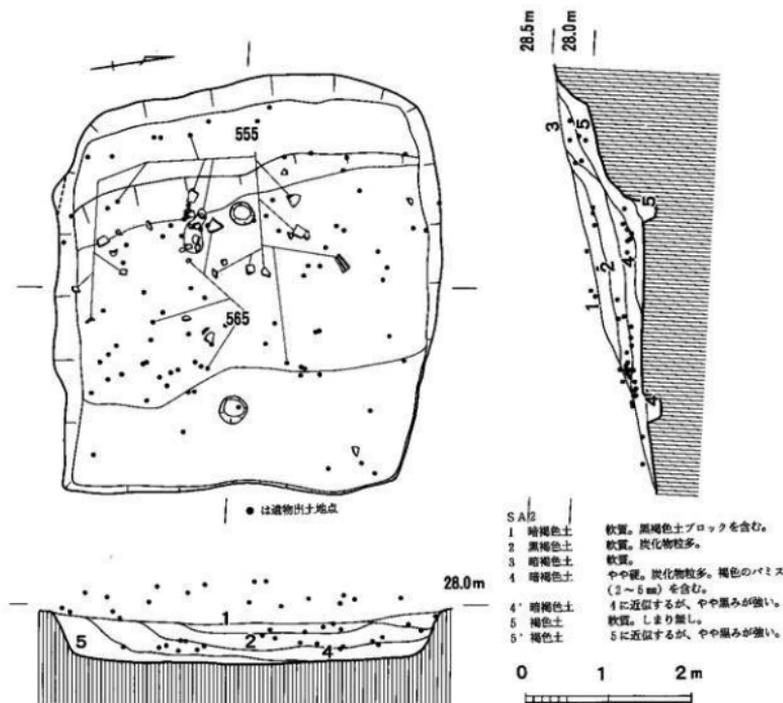
第32図 SAI 実測図 (1/60)

東西方向に2基検出した。床面中央部に平坦面を持ち、西側がやや急な、東側が緩やかな傾斜となる。焼土等は見られなかった。床面積は19.2㎡である。遺物は小破片が多く、出土レベル的に床面に近い一群と検出面付近に浮いた状況の一群に大別される。

出土遺物を第35・36図に示した。548～561は甕である。548～551は下城式系の甕で、直行する口縁部下に一条の刻目突帯を持つ。外器面調整は縦ハケである。548はやや内湾する (口縁1-A)。549は、突帯上に刻みを施した際に口唇部にまで工具が接触しており、突帯上の刻みに対応する圧痕が認められ



第33図 SA1出土遺物実測図 (547のみ2/3、他は1/4)

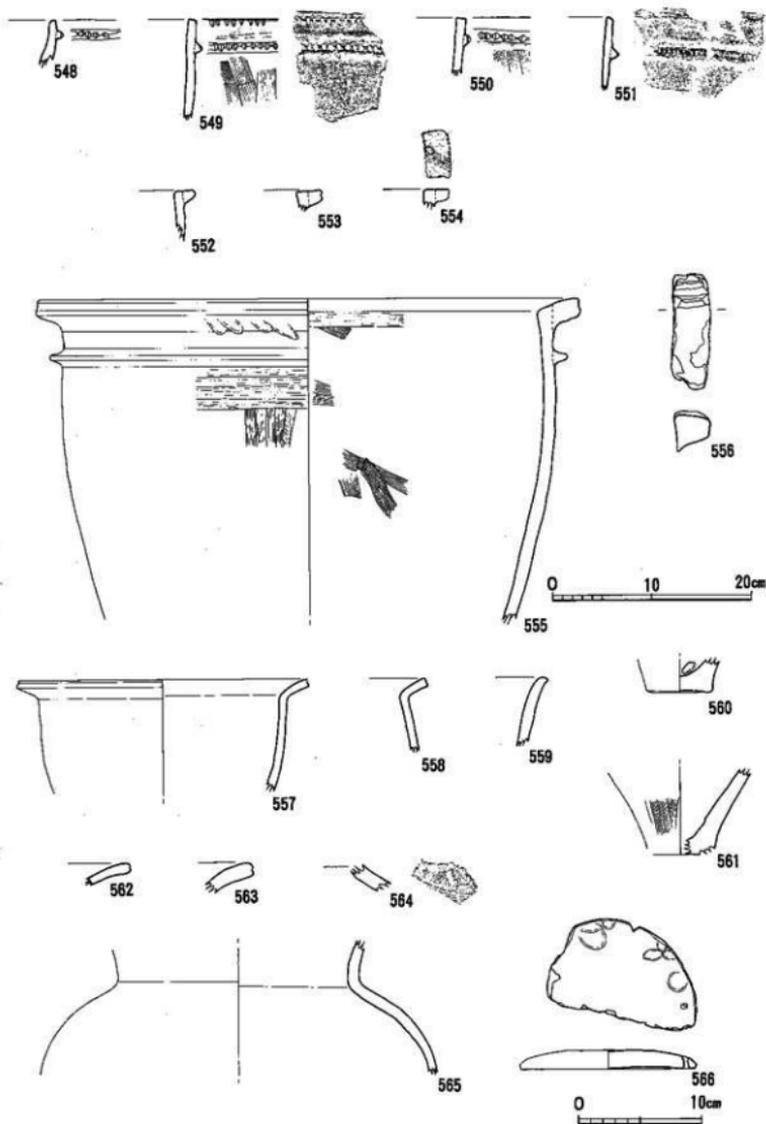


第34図 SA2実測図(1/60)

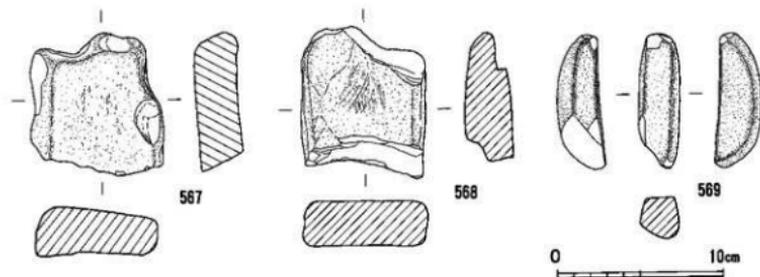
る(口縁1-D-3)。552~556は、口縁部に断面台形の突帯を持ち逆L字形となる(口縁2-B-1、2-B-5)。555は大壺で、口縁端部と口縁部下に突帯を持つ。破片はSA2内に散らばった状態で出土している(口縁7-C)。556は突帯上面に数条の粘土紐の貼付けが見られる(口縁2-B-5)。557・558は「く」字形に屈曲する頸部を持つ(口縁4-B)。557は口径が胴部径を上回る。559は外傾しながら長く延びる口縁である。560・561は小さな平底となる(底部3-A)。562~565は壺である。562・563は大きく開く口縁で、口唇部に沈線を施す(4-B)。564は肩部で、櫛描による横線が施される(8-A)。565は肩張りが強く、屈曲する頸部にわずかに外傾する口縁が付く。566は円盤状の土製品で、直径14.2cmを計る。縁部付近に2カ所の穿孔(1孔は割れ口断面で観察される)が見られる。手ずくね成形の後ナデ調整である。蓋と推定される。567~569は砂岩を用いた砥石である。なお、図示はしていないが、SA2から磨製石鐵の未製品(緑色凝灰岩)が3点出土している。

### SA3 (第37図)

B1区の中央やや南側に位置する。東向き斜面地に掘り込まれた竪穴住居で、斜面上部を深く掘り



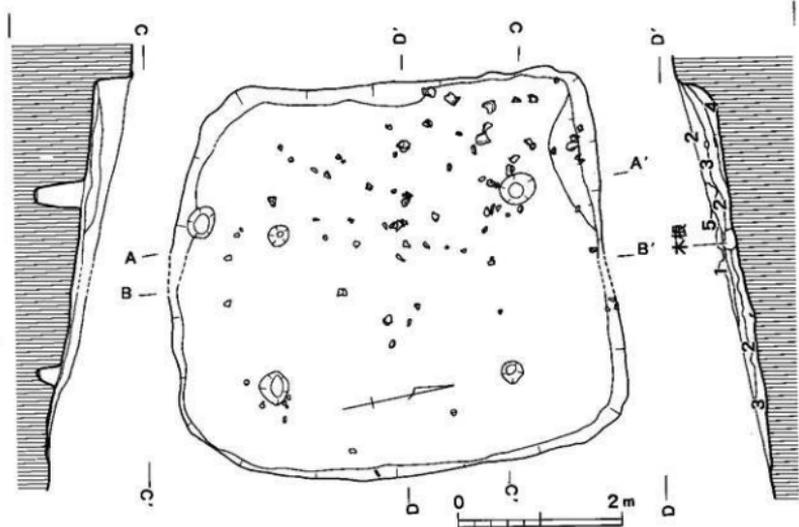
第35図 SA2出土遺物実測図(1) (555は1/5、他は1/4)



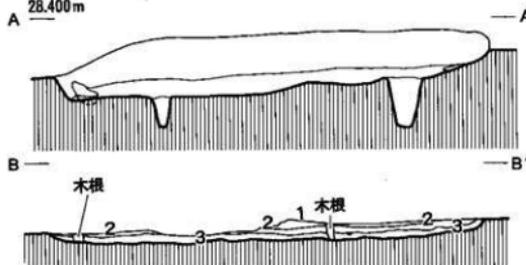
第36図 SA 2出土遺物実測図(2)(1/3)

込み、中央部に平坦面をつくる構造である。長軸約5.4m、短軸約4.8m、検出面からの深さ約0.5mの隅丸方形を呈する。4本の主柱穴を持つ。土層断面観察から生活面をとらえる事が出来ず、多少斜面下部を掘り過ぎたと思われる。出土遺物は、床直の遺物は少ないが、その殆どが弥生時代中期～後期の土器で、大きく2時期に分けられる。

出土遺物は第38図に示した。570～586は弥生土器である。570～580は甕である。(570、口縁1-A)は口唇部から1cm下に刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。胎土に2mm～1cm程の小石粒を若干多く含む。調整は、外器面胴部に縦・斜のハケ目、内面及び口縁部はナデである。口唇部はナデにより面取りされる。571～574は口縁端部に突帯を貼り付けて断面逆L字状の口縁を成形している。(571、口縁2-A)は内外器面をナデ、内面に一部横ハケ目が見られる。(572、口縁2-A)は内外器面ともナデ調整である。(573、口縁2-A)は内外器面をナデ、内面に横ハケ目が見られる。571～573は口縁内面をつまみ出している。(574、口縁2-B-3)は内外器面ともナデ調整である。口縁端部に明瞭な沈線が見られる。(575・576、口縁4)はつまみ出しによって突帯を成形している。胎土は精良で、焼成も良好である。口唇部に細い沈線を持つ。内外器面ともナデ調整である。577は頸部にくびれを持ち、口縁は直線的に延びる。頸部内面に粘土の貼り付けが見られる。内外器面ともナデ調整である。578は甕の胴部で、外面にハケ目調整が施され、その上に3条の線刻が見られる。579と580は甕の底部である。(579、底部2-A)は平底で(580、底部2-B)は上げ底となる。581～586は壺である。581は口唇部をつまみ出し、垂れ下げた状態の断面を呈する。頸部くびれの下に1条の三角貼り付け突帯を有する。内外器面ともナデである。(582、8-D-1)は頸部くびれの下に3条の三角貼り付け突帯を有する。内外器面ともナデで内面に爪形の工具痕が見られる。(583、8-D-1)は壺の胴部で、頸部下に2条の三角貼り付け突帯が見られる。外器面は縦ハケ目、内器面は斜のハケ目調整がある。584は粘土を貼り付けて口縁を成形している。内外器面ともナデ調整で、口縁上部に竹管文と思われる円形文が施されている。585は壺の口縁部である。風化が著しいが、内外器面ともナデで、口唇部に若干の凹線がある。586は壺の頸部から口縁部付近である。外器面の頸部近くに縦ミガキ、内器面は斜のハケ目調整が見られる。



A 28.400m



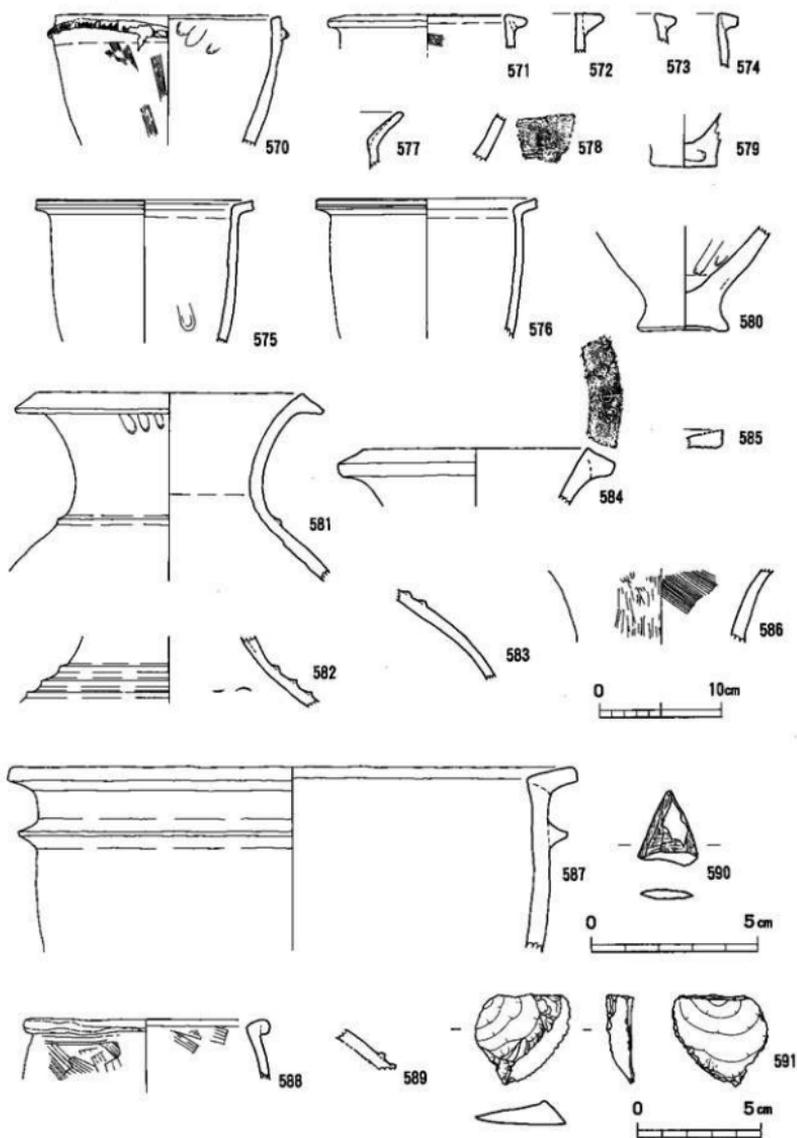
- 1 黒色土  
軟質。黄褐色粒（2～3mm）を若干含む。平安時代の遺物を含む。
- 2 暗褐色土  
やや軟質。黄褐色粒（3mm程）を若干含む。
- 3 暗褐色土  
2層よりややしまり有り。黄褐色粒（3mm程）と炭化物粒を若干含む。
- 4 褐色土  
3層よりしまり有り。黄褐色粒（3mm程）と炭化物粒をわずかに含む。
- 5 褐色土  
しまり有り。黄褐色粒・炭化物粒を若干含む。

第37図 SA3実測図（1/60）

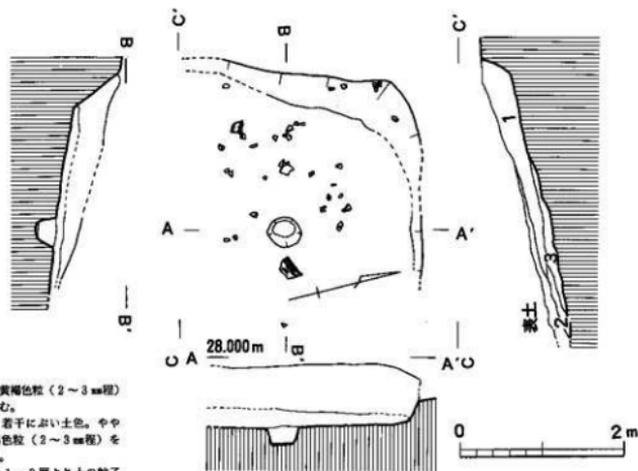
SA4（第39図）

B1区、東向きの斜面南端に位置する。南側の土層確認トレンチ断面で落ち込みを確認し、半分だけ掘り上げを行った。他の住居と同じく斜面上部を深く掘り込み、中央部に平坦面をつくる構造である。東側の壁と生活面の確認は出来なかった。土層断面からも住居の大きさを確定することは困難で、確認された主柱穴1本と壁の位置からみると主柱穴は2本で、径が約5m程の隅丸方形プランの住居になると推測される。

出土遺物は第38図に示した。587～589は弥生土器である。（587、7-C）は口縁が断面F字状をした大甕である。口縁端部とその下5に1条の貼り付け突帯を有する。内外器面ともナデ調整である。口唇部はナデにより面取りされている。接合状況を見ると、A区の遺物と接合するため、台地の崩落によって、遺物が谷に落ちたものと思われる。588は甕である。口縁部は粘土を貼り付けて、丸みをおびた仕上げを行っている。調整は、内外器面に縦、斜のハケ目が見られる。他の土器群とやや趣を異にする。



第38圖 SA 3 (570~586)、SA 4 (587~591)  
 出土遺物実測図 (570~589 1/4、590 2/3、591 1/2)



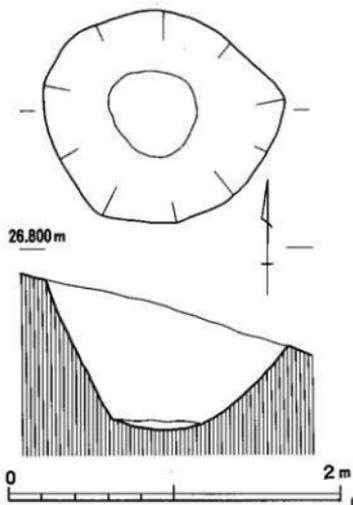
- 1 黒褐色土〜やや軟。黄褐色粒(2〜3mm程)を若干含む。
- 2 黒褐色土〜1層より若干におい土色。やや軟。黄褐色粒(2〜3mm程)を若干含む。
- 3 暗褐色土〜やや軟。1・2層より土の粒子が細かい。黄褐色粒(1〜2mm)をわずかに含む。

第39図 SA 4実測図(1/60)

(589、8-D-1)は壺の胴部である。風化が著しいが、内外器面ともナデで、数条の三角貼り付け突帯を持つ。590は凝灰岩製の磨製石鏃である。591は使用痕のある剥片石器である。石材は頁岩である。

#### SC 1 (第40図)

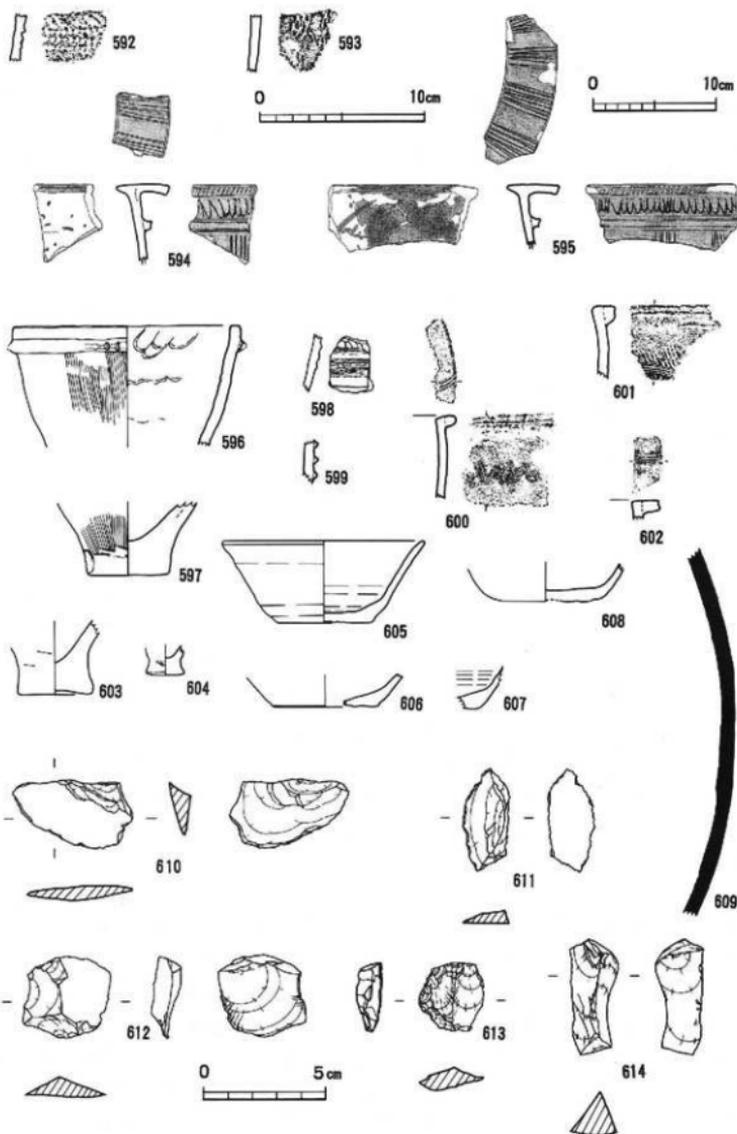
SA 3の東側に位置する。長軸1.45m、短軸1.3m、検出面からの深さ0.7mのほぼ円形を呈する。埋土は暗褐色の軟質土である。



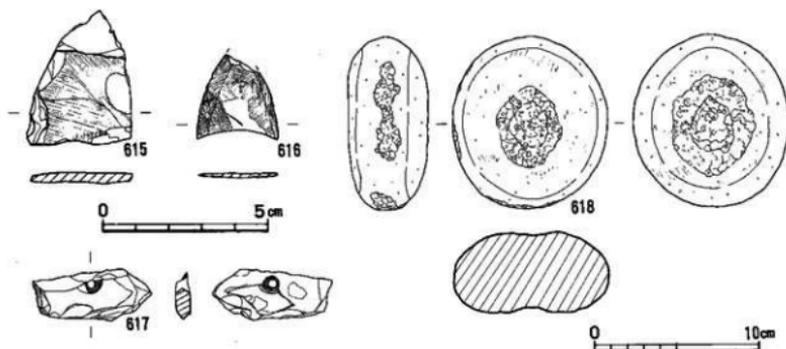
第40図 SC 1実測図(1/30)

#### 遺構外出土の遺物(第40・41図)

592・593は縄文土器である。592は貝殻腹縁の刺突が、593は網目状の撫糸文が施される。594〜604は弥生土器である。594・595は鋤先状口縁の甕で、口縁下部に1条の断面M字状突帯を持つ。口唇部端に刻み目を施す。外器面は丹塗りで、口縁部上面に8本単位の放射状、口縁部と突帯間に波状、突帯下に8条単位の縦線線の暗文が施される。内器面に液垂れ状の丹の付着が見られる。須玖Ⅱ式に該当し、胎土も他の土器とは異質であり搬入品と思われる。同一個体と思われる



第41図 B1区遺構外出土遺物実測図(1)  
 (592・593・605~607は1/3、594~604・609は1/4、610~614は1/2)



第42図 B1区遺構外出土遺物実測図(2) (615・616は2/3、617・618は1/3)

が、594がC1区から、595はA区谷2から出上している。596・597は同一個体の甕で、口縁部下に1条の刻目突帯を持つ。下城式系の甕で、外器面は縦位のハケ目、底部は厚みのある平底である(口縁1-A、底部3-A)。598・599は胴部に数条の突帯を持つ甕である。598はつまみ出しにより突帯を成形しており、爪の痕跡が残る。600~602は口縁端部に突帯を持つ甕である(口縁2-B-1、2-B-5)。600は口縁部下に櫛描波状文、601は横位線文を施す。602は口縁上面に4条単位の沈線を持つ。603は脚台状の甕底部(底部1-B)、604は同形のミニチュア土器である。605~608は平安時代の土器器坏である。底部から体部にかけて丸みを持って立ち上がる。605は直線的な口縁を持つ。全てヘラによる底部切り離しの後ナデ調整である。609は須恵器大甕胴部である。外面に格子目タタキ、内面に平行当て具痕を持ち、内外面共に粗くナデ消している。610~614は使用痕を有する剥片である。610・611・614は頁岩、612はシルト岩、613は黒曜石である。615・616は緑色凝灰岩製の磨製石鏃である。両面に細かな擦痕を残す。617は頁岩製の石砲丁である。全体的に風化と剝離が著しく研磨痕は観察し得ない。618は尾鈴山系酸性凝灰岩の叩き石である。両面に窪み、側面に敲打痕が見られる。

## 2. B2区

B2区は面積680㎡、B1区の下にあたる2段のテラス部である。標高18~22mに位置する。竪穴住居跡4軒、土坑4基、集石遺構8基を検出した。

調査区の基本層序は、第42図のとおりである。第I層は表土である。第II層はアカホヤ層で、残りが悪く、部分的にしか見られない。第III層は褐色土層でしまりがある。遺構はこの面で検出した。第IV層は第III層土と黒灰色土が混ざった層である。約16,000~10,500年前に降下したとされる霧島小林軽石が検出されている。第V層は暗褐色土層である。第VI層は褐色土で崩れやすい。第VII層は軟質の褐色土と火山灰粒子を含む硬質の褐色土ブロックが混じっている。第VIII層は火山灰粒子を含む硬質の褐色土層である。第IX層はやや軟質で粒子の粗い黄褐色土である。約22,000~25,000年前に再堆積したとされる蛤良入戸火砕流堆積物である。下層確認トレンチにおいて第VI層中から黒曜石製の石器(第60図~780)

第14表 B区出土土器観察表(1)

遺物 番号	種別	器種 部位	出土 地点	法量 (cm)		手法・調整・文様ほか		色調		土器の特徴	備考	
				口径	底径	高さ	外面	内面	外面			内面
505	土師器	甕 口縁~底部	B1区 SA1	16.8	4.7	26.0	ハケ目、粘土のつなぎ目、 工具痕、遺灰、スス付着	ハケ目、粘土のつなぎ目、 工具痕、黒炭	赤褐色、 黒褐色、 黄褐色	5cm以下の赤褐色・褐色の礫 4cm以下の褐色の砂粒		
526	土師器	甕 胴部~底部	B1区 SA1		5.7		ハケ目、ナデ、スス付着	ハケ目、黒炭	赤褐色、 黄褐色	5~7cmの赤・赤褐色・灰色の礫 3cm以下の赤・乳白色の砂粒		
527	土師器	甕 胴部~底部	B1区 SA1	17.3			粗いナデ	粗いナデ、粘土のつなぎ目	赤褐色、 黒褐色	5cm以下の赤赤・赤・褐色の礫		527と同 一器体
528	土師器	甕 胴部~底部	B1区 SA1	5.6			黒化著しい	ナデ、黒炭	赤褐色、 黒褐色	6cmの赤褐色の砂粒		527と同 一器体
529	土師器	甕 口縁~胴部	B1区 SA1	14.4			織ナデ	織ナデ、粘土のつなぎ目	黄褐色	2~5cmの褐色・灰白色の砂粒		527と同 一器体
530	土師器	甕 胴部~底部	B1区 SA1	5.6			ナデ、黒化灰味	ナデ	赤褐色、 黄褐色	6cm以下の灰・褐色の砂粒		527と同 一器体
531	土師器	甕 胴部~底部	B1区 SA1				ナデ	ナデ	黄褐色	1cm以下の黒・赤褐色の砂粒		
532	弥生土器	甕 口縁~胴部	B1区 SA1	19.2			ハケ目、ミガキ、刻み目 貼付突帯	ナデ、指痕痕	赤褐色、 黄褐色	5cmの乳白色・褐色の礫 1cm以下の灰白・黒色光沢な砂粒		口縁 2-A-2
533	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1				織ナデ	織ナデ	赤褐色、 黄褐色	2cm以下の褐色・黒色の砂粒		口縁 2-B-1
534	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1				織ナデ	織ナデ	赤褐色、 黄褐色	3cm以下の赤・褐色・黒色の砂粒		口縁 2-A-1
535	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA1				ナデ、突帯	ナデ	赤褐色、 黄褐色	1cm以下の透明光沢な砂粒		口縁 2-A-1
536	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA1				ナデ、ハケ目、刻み目 貼付突帯	ハケ目、指痕痕	赤褐色、 黄褐色	3cm以下の黄褐色・乳白色の砂粒		口縁 2-B-1
537	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1	6.3			ナデ	ナデ	赤褐色、 黄褐色	1cm以下の乳白色・黒色の砂粒		底部 1-A
538	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1	6.3			ナデ	ナデ	赤褐色、 黄褐色	2.5cm以下の褐色・灰白色の砂粒		底部 1-A
539	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1	5.7			ハケ目	ナデ、指痕痕	赤褐色、 黄褐色	8cmの乳白色の礫 3cm以下の赤・黒・透明光沢な砂粒		底部 3-A
540	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1	3.7			ナデ	ハケ目の後ナデ	赤褐色、 黄褐色	1cm以下の赤・褐色の砂粒		底部 3-A
541	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1				織ナデ、4条の貼付突帯	織ナデ	赤褐色、 黄褐色	1cm以下の褐色の砂粒		9-D
542	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1				ナデ、貼付突帯	ハケ目	赤褐色、 黄褐色	2cm以下の赤・灰・乳白色・透明光 沢な砂粒		9-D
543	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1				ナデ、5条の縦線模様、5 条の横線状文、ミガキ	ハケ目	赤褐色、 黄褐色	1cm以下の褐色・乳白色の砂粒		8-A
544	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1				ナデ、5条の縦線模様、 ミガキ、横線状文	黒化著しい	赤褐色、 黄褐色	1.5cm以下の褐色・乳白色の砂粒		8-A
545	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1				ナデ、ミガキ、黒化著しい	赤褐色、 黄褐色	明赤褐色、 灰褐色	1cm以下の明赤灰・黒色光沢・黒・ 灰白・褐色の砂粒		底部2
546	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA1	7.6			粗いナデ	粗いナデ	赤褐色、 黄褐色	1.5cm以下の褐色の砂粒		底部2
548	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				ナデ、刻み目貼付突帯	ナデ、指痕痕	赤褐色、 黄褐色	2.5cm以下の赤・褐色の砂粒		下城 口 1-A
549	弥生土器	甕 口縁~胴部	B1区 SA2				ハケ目、刻み目突帯、口 縁部に刻み目	ハケ目、ハケ目の後ナデ	赤褐色、 黄褐色	2cm以下の乳白・黄褐色・黒色透 明な砂粒		下城 口 1-B-3
550	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				織ナデ、ハケ目、刻み目 貼付突帯	ナデ	赤褐色、 黄褐色	2.5cm以下の白・赤・褐色の砂粒		下城 口 1-B-3
551	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				ナデ、粘土のつなぎ目、刻 み目貼付突帯、黒化著しい	ナデ、指痕痕	赤褐色、 黄褐色	5cm以下の黄褐色・灰白の砂粒		下城 口 1-B
552	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				粗いナデ	粗いナデ	赤褐色、 黄褐色	2cm以下の赤赤・灰・透明光沢・黒 色光沢な砂粒		下城 口 2-B-1
553	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				ナデ	ナデ	赤褐色、 黄褐色	2cm以下の灰・赤褐色・乳白色の砂 粒		下城 口 2-B-1
554	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				ナデ、黒炭、4条の縦線 模、スス付着	ナデ、スス付着	赤褐色、 黄褐色	1.5cm以下の赤褐色・透明光沢な砂 粒		下城 口 2-B-3
555	弥生土器	大甕 口縁~胴部	B1区 SA2				ハケ目、貼付突帯、ナデ、 指痕痕	ハケ目、ハケ目の後ナデ、 黒炭、 指痕痕	赤褐色、 黄褐色	5cm以下の褐色・黒色の礫 3cm以下の黒色光沢な砂粒		口縁 7-C
556	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				ナデ、突帯上に粘土の のり付	ナデ	赤褐色、 黄褐色	2.5cm以下の白・赤・褐色の砂粒		口縁 2-B-5
557	弥生土器	甕 口縁~底部	B1区 SA2	23.1			ナデ、スス付着	ナデ	赤褐色、 黄褐色	1cm以下の褐色・灰・褐色の砂粒		口縁 4-B
558	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				ナデ	ナデ、指痕痕	赤褐色、 黄褐色	2.5cm以下の灰白・褐色・黒色光沢 な砂粒		口縁 4-B
559	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				ナデ、スス付着	ナデ	赤褐色、 黄褐色	3cm以下の赤色の砂粒		
560	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA2	5.3			ナデ	ナデ、指痕痕	赤褐色、 黄褐色	1cm以下の赤・褐色・乳白色の砂粒		口縁 3-A
561	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA2				ハケ目、ナデ	ナデ、工具痕、黒炭	赤褐色、 黄褐色	5cmの乳白色の礫 3cmの黒・褐色・灰色の砂粒		底部 3-A
562	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				織ナデ、ミガキ	ミガキ	赤褐色、 黄褐色	1cm以下の黄褐色・透明光沢な砂粒 4.5cmの褐色の礫		4-B
563	弥生土器	甕 口縁	B1区 SA2				ナデ、浅い沈線	ナデ	赤褐色、 黄褐色	2cm以下の赤赤・赤・乳白色の砂粒		4-B
564	弥生土器	甕 胴部	B1区 SA2				ナデ、縦線模様	ナデ	赤褐色、 黄褐色	3cm以下の黒・褐灰・灰白の砂粒		8-A
565	弥生土器	甕 胴部~胴部	B1区 SA2				ナデ	織ナデ	赤褐色、 黄褐色	2cm以下の褐色・灰白・黄褐色の砂 粒		
566	弥生土器	甕	B1区 SA2	14.0	1.5		穿孔が2つ、ナデ、黒炭、 指痕痕	ナデ、指痕痕	赤褐色、 黄褐色	2.5cm以下の黒・褐色・灰色の砂粒		裏面重量 16.4g

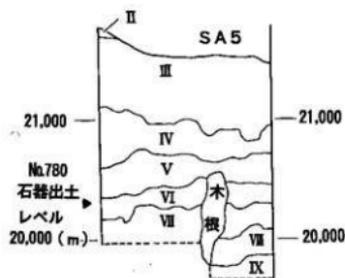
第15表 B区出土土器観察表(2)

遺物番号	種類・部位	出土地点	法線 (m)			手法・図様・文様ほか		色調		土土の特徴	備考
			口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
570	弥生土器 甕	B1K 3A3	18.1			ナデ、貼付跡のみ突等、ハケ目	ナデ、指痕痕	におい黄褐色	におい黄褐色	5m以下の灰色赤土、灰白色の礫	7層 図1-A
571	弥生土器 小甕	B1K 3A3	12.8			横ナデ、ナデ	横ナデ、ハケ目	黄	黄	4m以下の茶色の礫	図2-A
572	弥生土器 甕	B1K 3A3				横ナデ、ナデ	横ナデ	におい黄褐色	におい黄褐色	1m以下の明褐色・褐色・黒色・黒色赤土、灰白色の砂粒	図2-A
573	弥生土器 甕	B1K 3A3				ナデ	横ナデ、ナデ	におい黄褐色	におい黄褐色	4m以下の茶色の礫	図1-A 図2-1
574	弥生土器 甕	B1K 3A3				横ナデ	ナデ、指痕痕	におい黄褐色	におい黄褐色	1m以下の白色の砂粒	図2 1-3-3
575	弥生土器 甕	B1K 3A3	14.8			ナデ、沈線、黒線	ナデ、指痕痕	におい黄褐色	におい黄褐色	1m以下の茶色赤土・乳白色・透明光沢の砂粒、1.5m以下の茶色の砂粒	図2 4
576	弥生土器 甕	B1K 3A3	14.2			ナデ、沈線、黒線	ナデ	におい黄褐色	におい黄褐色	1m以下の茶色赤土の砂粒、1.5m以下の乳白色・茶褐色・透明光沢の砂粒	図2 4
577	弥生土器 甕	B1K 3A3				ナデ、工具痕	横ナデ	黄	黄	1m以下の茶色赤土の砂粒、2m以下の茶褐色・透明光沢の砂粒、4m以下の茶色の礫	
578	弥生土器 甕	B1K 3A3				ハケ目、工具痕	ナデ	黄褐色	におい黄褐色	1m以下の茶色・白色の砂粒	
579	弥生土器 甕	B1K 3A3	5.15			ナデ、指痕痕	ナデ	におい黄褐色	黄褐色	1m以下の乳白色・透明光沢・黒色赤土の砂粒、2m以下の茶色の砂粒	底部 2-A
580	弥生土器 甕	B1K 3A3	7.05			ナデ、指痕痕	ナデ、指痕痕、黒線	黄褐色	におい黄褐色	1m以下の茶色赤土の砂粒、3.5m以下の茶色の礫	底部 2-B
581	弥生土器 甕	B1K 3A3	21.6			横ナデ、貼付突等	横ナデ	におい黄褐色	黄褐色	0.5m以下の黒色・灰白色の砂粒	
582	弥生土器 甕	B1K 3A3				横ナデ、貼付突等	横ナデ、工具痕	黄	黄	0.5m以下の透明光沢砂粒	8-2-1
583	弥生土器 甕	B1K 3A3				貼付突等、ハケ目	ハケ目、ナデ	黄	黄	1m以下の茶色赤土の砂粒	8-2-1
584	弥生土器 甕	B1K 3A3	18.3			ナデ、横ナデ、爪の押圧	横ナデ	黄	黄	1m以下の茶色・白色の砂粒	
585	弥生土器 甕	B1K 3A3				横ナデ、風化気味	風化気味	黄	黄	2m以下の明褐色・褐色・灰白色・におい赤褐色の砂粒	
586	弥生土器 甕	B1K 3A3				横ナデ・儀ミガキ	ハケ目	黄	黄	1.5m以下の灰色・黒色・茶色・乳白色の砂粒	
587	弥生土器 甕	B1K 3A4	28.0			ナデ、風化気味、貼付突等	ナデ	黄褐色	黄	1m以下の灰色・黒色・褐色・透明光沢の砂粒	7-C
588	弥生土器 甕	B1K 3A4	18.2			ナデ、ハケ目、スス付着	ハケ目	におい黄褐色	におい黄褐色	1.5m以下の黒色赤土・透明光沢砂粒、5m以下の茶色の礫	
589	弥生土器 甕	B1K 3A4				ナデ、貼付突等	ナデ風化気味	におい黄褐色	におい黄褐色	1.5m以下の茶色・白色砂粒	8-2-1
592	縄文土器 甕	B1区				貝殻敷輪突	ナデ	におい黄褐色	におい黄褐色	2m以下の黄・褐色・灰色・褐色透明光沢の砂粒	
593	縄文土器 甕	B1区				網目跡赤	ナデ	におい黄褐色	におい黄褐色	1m以下の褐色・淡黄・透明光沢の砂粒	
594	弥生土器 甕	B1区				ミガキ、丹塗り、刷目、暗文、M字突等	横ナデ、丹が付着	明褐色	におい黄褐色	2.5m以下の褐色・白・灰色の砂粒	図1-A 図2-1
595	弥生土器 甕	B1区				ミガキ、丹塗り、刷目、暗文、M字突等	横ナデ、丹が付着	明褐色	におい黄褐色	3m以下の灰白・黒色・白色の砂粒	図1-A 図2-1
596	弥生土器 甕	B1区	17.4			横ナデ、ハケ目、刷目、貼付突等	ナデ、指痕痕	におい黄褐色	におい黄褐色	2m以下の茶褐色・褐色・透明光沢の砂粒	
597	弥生土器 甕	B1区	8.4			ナデ、ハケ目、指痕痕、工具痕	ナデ	におい黄褐色	におい黄褐色	2m以下の黒・褐色・灰色の砂粒	図1-A 図2-1
598	弥生土器 甕	B1区				つまみ出しによる突等、ナデ	ハケ目の横ナデ	黄	黄	2m以下の褐色・黒色の砂粒	
599	弥生土器 甕	B1区				貼付突等、横ナデ	ナデ	黄	黄	1m以下の黒・茶・透明光沢砂粒	
600	弥生土器 甕	B1区				横ナデ、黒付、スス付着、黒線、刷目、貼付突等	ナデ	におい黄褐色	におい黄褐色	3m以下の褐色・透明光沢砂粒	図2 1-1
601	弥生土器 甕	B1区				沈線、黒線、横ナデ、工具ナデ、ハケ目、スス付着	工具ナデ	におい黄褐色	におい黄褐色	2.5m以下の褐色の砂粒	図2 1-1
602	弥生土器 甕	B1区				突等上4条単位の黒線、ナデ	ナデ	におい黄褐色	におい黄褐色	3m以下の褐色・透明光沢砂粒	図2 1-1
603	弥生土器 甕	B1区	5.8			ナデ、工具痕	ナデ	黄	黄	2m以下の黒・褐色・白・透明光沢砂粒	底部 1-B
604	弥生土器 甕	B1区	3.1			ナデ	ナデ	におい黄褐色	におい黄褐色	1.5m以下の黄・灰色の砂粒	
605	土師器 甕	B1区	12.1	5.6	3.0	回転ナデ、へら切り後ナデ	回転ナデ	黄、におい黄褐色	黄、におい黄褐色	2m以下の褐色・明褐色・黒色の砂粒	
606	土師器 甕	B1区	6.1			横ナデ、へら切り	ナデ	黄	黄	1m以下の明褐色・白・黒色の砂粒	
607	土師器 甕	B1区				ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	1m以下の茶・黒色の砂粒	
608	土師器 甕	B1区	5.7			ナデ、へら切り	ナデ	黄	黄	1m以下の褐色・黒・褐色の砂粒	
609	須賀土器 甕	B1区				格子目タタキの後ナデ	平行溝で具味、ナデ、工具痕	黄褐色	黄褐色	0.5mの茶色の砂粒	
619	土師器 甕	B2K 3A5	5.05			工具ナデ、スス付着	横ナデ、黒線、灰土のつまみ出し	におい黄褐色	におい黄褐色	横ナデ以下の茶色の砂粒	
620	土師器 甕	B2K 3A5	16.5	2.2	20.4	横ナデ、ナデ、ハケ目	横ナデ、指ナデ、粘土のつまみ出し、黒線	黄褐色	におい黄褐色	6m以下の黒色の砂粒	
621	土師器 甕	B2K 3A5				横ナデ、取付工具ナデ	ナデ、粘土のつまみ出し	黄褐色	黄褐色	5m以下の黄・黒色の砂粒	

が出土している。

#### SA 5 (第44図)

上段テラス部の一帯北側に位置する。テラスの東側が削平されているため住居の一部は無くなっている。



第43図 B2区基本土層図(1/40)

残存部で、南北約6m、東西約6m(切られているため6m以上になる)、検出面からの深さは約0.8mの方形プランとなる。西と南にベット状遺構を持ち、検出面からの深さは約0.4mである。支柱穴は6本確認されている。遺物は遺構上面の平安時代の遺物と埋土中の古墳時代後期と弥生時代中期前半の遺物に分けられる。床直の遺物は土器小片が殆どで時期決定は難しい。ベット状遺構直上で6C後半~7C初頭の須恵器杯身や高杯の脚部などが出土していること、他の時代に比べて古墳時代後期の遺物が多く出土していることから古墳時代後期の住居に弥生時代の遺物が流れこんだと考えている。炉としての焼土は検出されていないが、壁際に炭化物や焼土

粒が確認されている。

出土遺物を第45・46図に示した。619~632は土師器である。619~625は甕である。619は胎土に1~3mm程の小石粒を多く含む。砲弾形で、胴部とほぼ厚みが同じの平底の底部から胴部は張らずにそのままやや内湾しながら口縁に延びる。短い口縁は外反する。調整は、外器面はナデで、底部付近の胴部は縦方向の小石粒の動きが見られる。口唇部からその下10cm程の間にススが付着している。内器面はナデである。620は619より胎土が若干精良で、焼成も良好な薄手の甕である。厚みの無い平底の底部から球形に胴部が立ち上がり、短い口縁がわずかに外反する。調整は、外器面は縦方向の粗いハケ目とナデ、内器面はナデである。外器面の口唇部から底部の3cm上の間にススが付着している。621~625も胎土に小石粒を多く含む。621は胴部が張らずに、短い口縁が外反する619と同じタイプの甕と思われる。622は頸部がやや「く」字形に屈曲し、口唇部は平らに仕上げている。内外器面ともナデである。632は頸部が「く」字形に屈曲し、明瞭な稜を持つ。短い口縁の端部は外に折り返されている。内外器面ともナデである。624は頸部内面に明瞭な稜を持ち、「く」字形に屈曲する。頸部外面の稜は明瞭でない。625は頸部が「く」字形に屈曲する。口縁内面と胴部にハケ目調整が見られる。他の土器群と趣を異にする。626は高杯の脚である。裾はラップ状に開き、裾の端部は僅かに上部に反る。調整は、外器面は横ミガキとナデ、内器面はナデで脚柱部の上部には指頭痕が多く見られる。627は須恵器の杯身である。体部1/2までヘラケズリが施され口径10.8cm、器高3.85cmを計る。628は器種不明で、杯か浅鉢と思われる。外器面は風化しているが、内器面は丁寧なナデ仕上げである。内面に明瞭な稜を持つ。629~631は鉢形土器である。629は木の葉底を呈し、内外面ともナデ仕上げである。外器面は粘土の輪積み痕が明瞭に残る。630は外器面の粘土の輪積み痕が明瞭で、内外器面ともナデ仕上げである。631は木の葉底を呈する。630・631は同一固体と思われる。632はミニチュア土器である。手づくねによる指頭痕が明瞭に残り、底部内外面にはハケ状の工具痕が見られる。633~647は弥生土器である。633~644は甕である。

(633、口縁2-B-1・634、口縁7-C)は突帯状に粘土を貼り付けて形成する断面逆L字状の口縁を呈する。635は口唇部に沈線を持つ。(636、口縁1-D-3・637・638・639、口縁1-D-2・640、口縁1-B-3)は口唇部に刻み目と、その下に刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。(641、口縁1-D-1)と(642、口縁1-E)は口唇部の3cm下に刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。643と644は甕の底部である。(643、底部3-B)は上げ底で外器面に縦方向のハケ目が見られる。(644、底部3-A)は平底である。645・647は壺である。645は壺の口縁である。647は口縁上部に縦方向の刻みを有し、口縁端部に沈線を持つ。646は甕で口唇部に縦方向の刻みを有する。648は凝灰岩製の磨製石鏃である。649~661は古代の土器である。649は平底の小型壺である。胎土が精良で、焼成も良好で硬質であるが、器面調整粗なナデである。650は壺の頸部である。器面調整時に付いたと思われる工具痕が外器面に見られる。651は土師質の鉢である。外器面はヘラナデ、内器面はナデである。底部はヘラ切り後丁寧なナデ仕上げをしている。652~661は土師質の杯である。いずれも、底部はヘラ切りである。652~654は円盤状の底部を有し、いずれも外に張り出す。652・653は体部~口唇部にかけて直線的に延びるが、652は若干口唇部が外反する。655・660は高台付き杯である。660は粘土を貼り付け、つまみ仕上げを行った粗な高台部である。655は風化も著しいが、かなり薄手でもろい杯である。高台内には、高台をヘラ状の工具で貼り付けたとと思われる工具痕が見られる。体部~口唇部にかけて若干外反しながら直線的に延びる。656と657は内湾気味に、658は直線的に立ち上がると思われる。659若干口唇部が外反している。622は砂岩製の敲石である。663・664は砂岩製の台石である。663は赤変している。

#### SA6 (第47図)

上段テラスの中央に位置する。SA5と同じく東側は削平されている。南北約5.3m、東西約4m主柱穴の配置から推定すると約4.8m程になると考えられる)、検出面からの深さが約0.6mの隅丸方形プランである。主柱穴は4本で、一部に硬化面を残す。出土遺物は弥生時代中期と古墳時代後期の遺物が混在する。遺物量が少ないため時期決定が難しい。SA7と切り合いを見せていることからSA7より新しい時期に位置付けができる。

出土遺物を第48図に示した。665~668・670は弥生土器の甕である。(665、口縁1-D-3・666、口縁1-D-2)は口縁部とその下2cmに刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。665は外器面は縦・斜のハケ目、内器面はナデ調整で、外器面にはススが附着している。(667、口縁1-D-3)は口縁に刻み目とその下2cmに刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。(668・670、底部3-A)は甕底部で、平底で外器面に縦ハケ目が見られる。669・671~674は土師器である。669は甕の底部で、木の葉底を呈する。671は壺である。胎土に2~3mmの小石粒を多く含む。672は高坏の裾部である。673は鉢形土器である。外器面は風化が著しいが、内器面は横ミガキが見られる。674は脚付き鉢などの脚部であると思われる。外器面には多くの指頭痕が見られる。675は古代の鉢である。676は砂岩製の台石である。679~681は砂岩製の敲石である。682は砂岩製の磨製石斧の基部である。677・678は砂岩製の台石である。

#### SA7 (第49図)

上段テラスの南側に位置する。長軸約4.6m、短軸約4.4m、検出面からの深さ約0.5mの隅丸方形プランである。主柱穴は4本である。やや西側寄りの中央部床面に焼土が検出された。出土遺物は弥生土器

である。住居の北東側上部には直径60～70cmの範囲に弥生中期の土器が集積した落ち込み（第54図、SC2・3）が検出されている。SC3とSA6の遺物が接合されたことからSA7よりSA6が新しい時期に位置すると考えられる。

出土遺物を第50図に示した。683～690は弥生土器である。683～689は甕である。（683、口縁1-D-3・684、口縁1-D-2）は直行する口縁端部に刻み目と、その下に刻み目の付いた貼り付け突帯を有する。外器面の調整は縦ハケである。（685・686、口縁1-B-1）は直行する口縁部下に刻み目の付いた貼り付け突帯を有する。（687、口縁2-B-2）は口縁端部に突帯を持ち、その下に数条の貼り付け突帯を有する。688はつまみ出しによって突帯を成形しており、外器面胴部に櫛描の波状文と横線が施される。689は口縁端部に突帯を持ち、突帯上面と胴部に櫛描による施文が見られる。690は壺である。大きく開く口縁で、口唇部に沈線を有する。691は凝灰岩製？の磨製石鏃である。692は縄文土器である。外器面に貝殻腹縁の刺突と貝殻痕が施される。

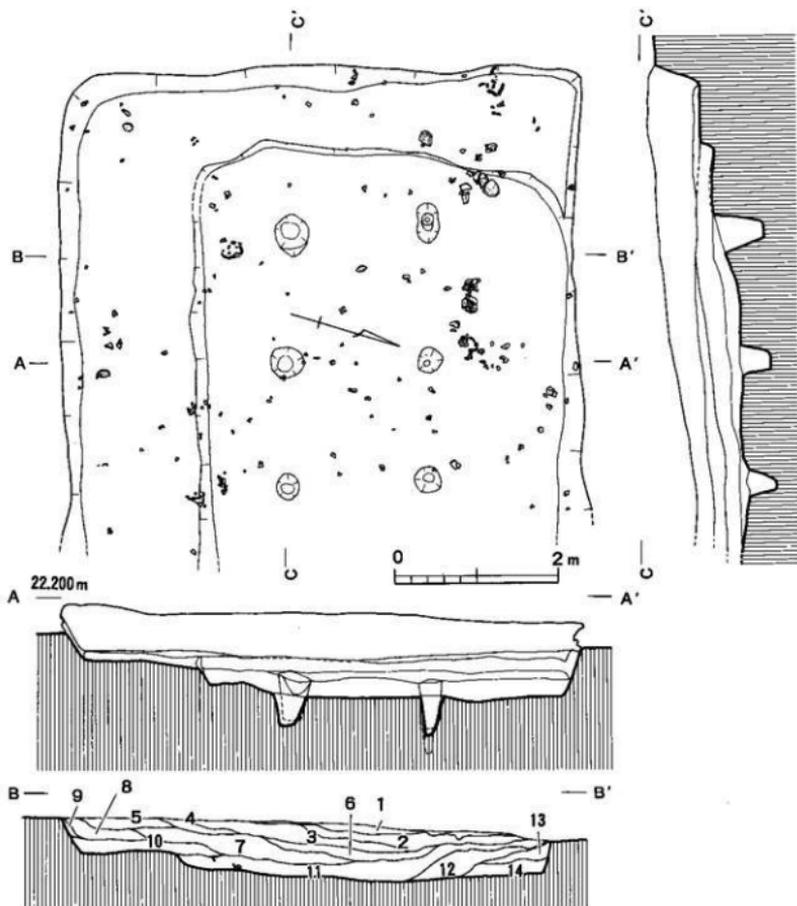
#### SA8（第51・52図）

下段テラスの北側に位置する。西側中央壁際にカマドが造りつけられた平安時代の竪穴住居である。長軸約4.4m、短軸約4.1m、検出面からの深さ約0.15mの方形プランを呈する。主柱穴は4本である。耕作土と竹根などの攪乱によって住居とカマドの上部は殆ど壊されている。斜面に立地していることから、縄文土器や弥生土器、土師器などが多く流れ込んでいる。カマドは、逆U字状に土を盛り、その上に粘土を積んでいることが断面から観察できるが、その上部構造については不明である。また、カマドに煙道が取り付けられているが、煙道にも粘土が貼り付けられていたことが観察できる。土層断面から筒状の煙道の天井部が押しつぶされて、落ちていることが解る。また、煙道の先端部には、柱穴状の落ち込みがある。煙突状のものが差し込まれていたことが考えられる。

出土遺物を第53図に示した。693・694は古代の土器である。693は甕で、頸部が緩やかに屈曲する厚手の土器である。内外器面の調整はナデである。694は平安時代の土師器杯である。体部から口唇部にかけてわずかに外反しながら立ち上がる。内面に粘土の輪積み痕が明瞭に残る。695～707は弥生土器である。695～704は甕である。695は動先状口縁を呈する。696はつまみ出しによって口縁を成形している。（697、口縁2-B-3）は口縁端部に突帯を有する。698は口縁端部に張り付けられた突帯部で、端部に沈線を持つ。699は刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。700は断面M字状の貼り付け突帯を持つ。701は外器面に縦ハケと工具端部の圧痕が見られる。702～703は壺底部である。（702、1-A）は外器面に縦ミガキ、内面に工具端部痕が見られる。平底である。（703、1-B）は平底で外器面に縦ミガキを呈する。704は甕の底部である。705～707は壺である。705は口唇部に沈線を持つ。706は大きく開く口縁で、口唇部に沈線を持つ。（707、8-D-1）は肩部に数条の三角貼り付け突帯を有する。780は凝灰岩製の磨製石鏃で、709は磨製石鏃の未製品（凝灰岩製）である。710は土師器の甕胴部で、内器面に粘土の輪積み痕が見られる。調整は内外器面ともハケ目である。711・712は縄文土器である。711は外器面に貝殻腹縁、内器面はナデ、712は口縁部外面に刺突文をもつ。713は砂岩を用いた磨石である。

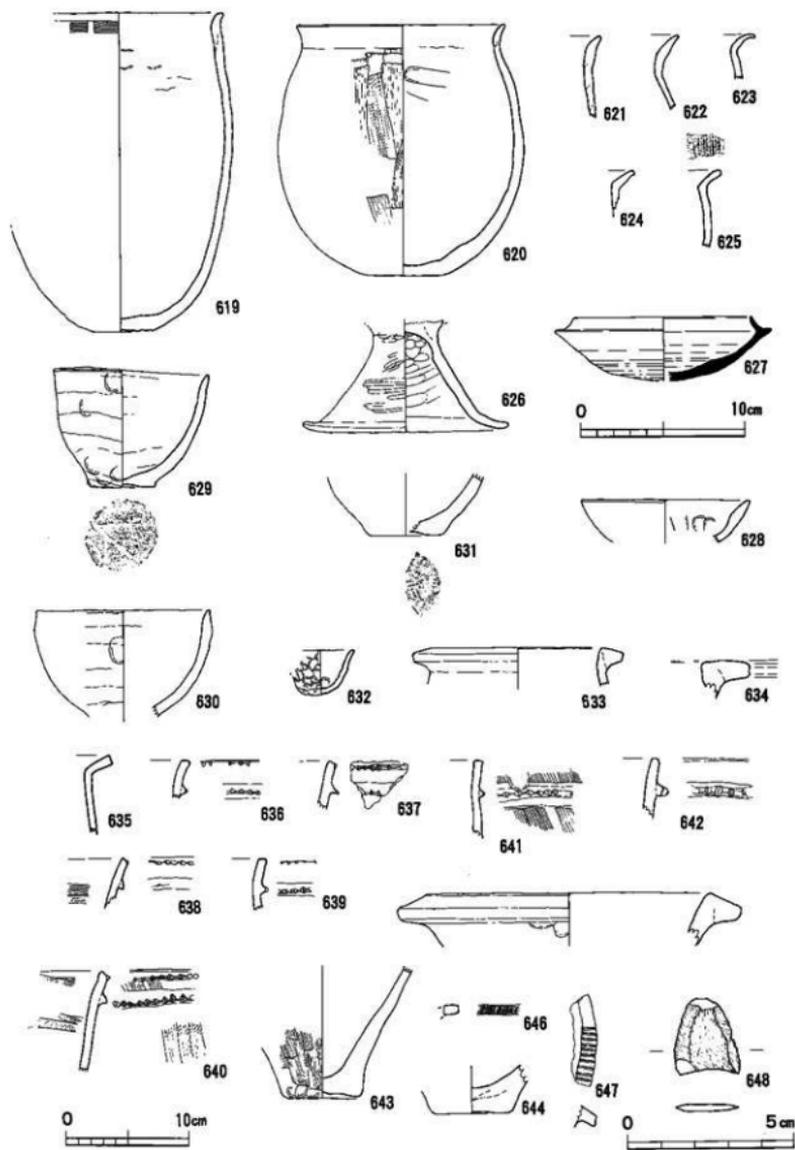
#### SC2（第54図）

SA7の北東側上面に位置する。直径85cm、深さ15cm程の落ち込みに、弥生中期の土器が集積してい

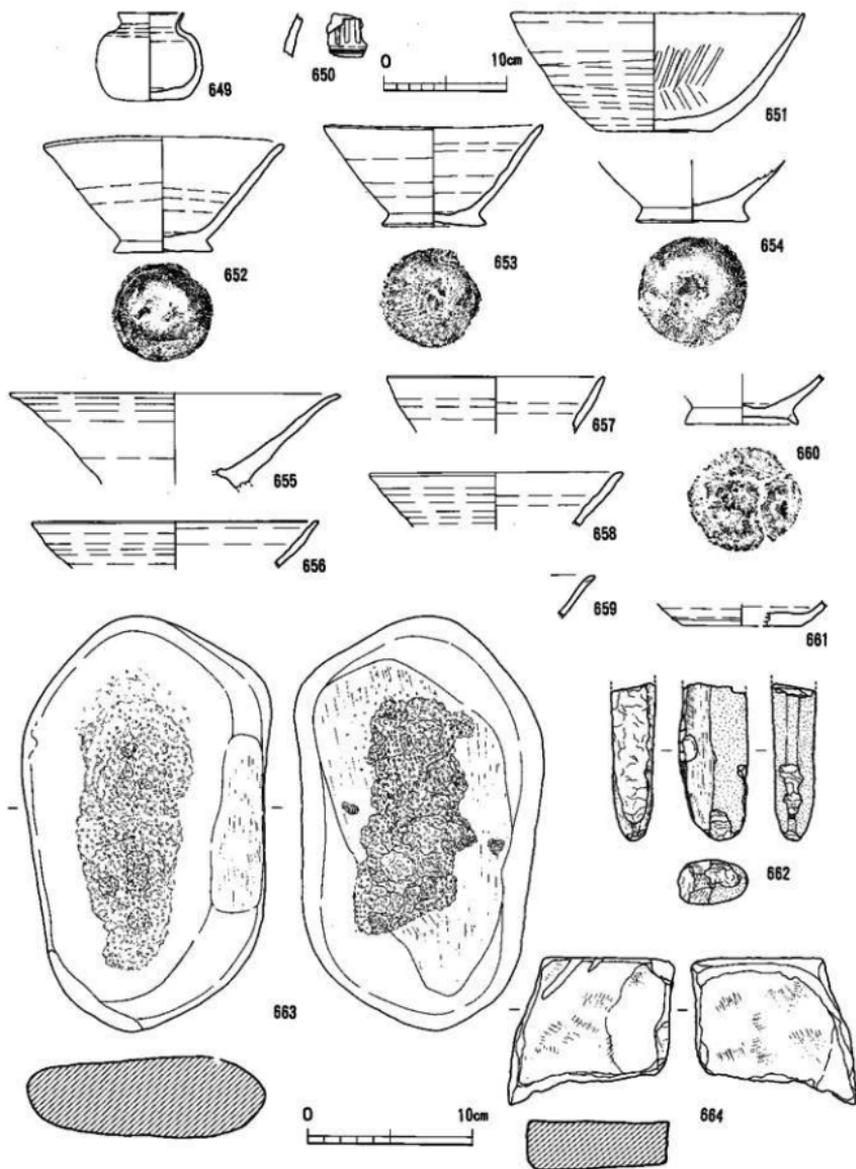


- 1 赤褐色土・黒褐色土～しまり有り。黒褐色土は粒子が細かい。黄褐色粒（1mm程）、小土器片、白色粒子をわずかに含む。
- 2 褐色土～しまり有り。黒褐色土、土器小片、白色粒子・黄褐色粒子を若干含む。土器片（1～2cm）を含む。
- 3 赤褐色土～しまり有り。黄褐色粒・白色粒子・炭化物粒を多く含む。
- 4 赤褐色土～硬質。黄褐色粒・白色粒子・炭化物粒を多く含む。土器片（2cm程）を含む。
- 5 赤褐色土～4層より若干軟質。黄褐色粒・白色粒子・炭化物粒を若干多く含む。
- 6 褐色土～3層よりやや軟。黄褐色粒・白色粒子・炭化物粒を若干含む。
- 7 褐色土～6層よりやや軟。黄褐色粒・白色粒子を若干、炭化物粒を多く含む。
- 8 褐色土～7層よりやや軟。
- 9 褐色土～軟質。黄褐色粒を含む。
- 10 暗褐色土～硬質。黄褐色粒・炭化物粒を多く含む。土器片を含む。
- 11 褐色土～2層よりやや軟質。黄褐色粒・白色粒子（1～2mm）、炭化物粒（5mm程）をやや多く含む。
- 12 褐色土～やや硬質。黄褐色粒・炭化物粒（3～5mm）を多く含む。土器片を含む。
- 13 暗褐色土～やや軟質。黄褐色粒・炭化物粒（3～5mm）を若干含む。

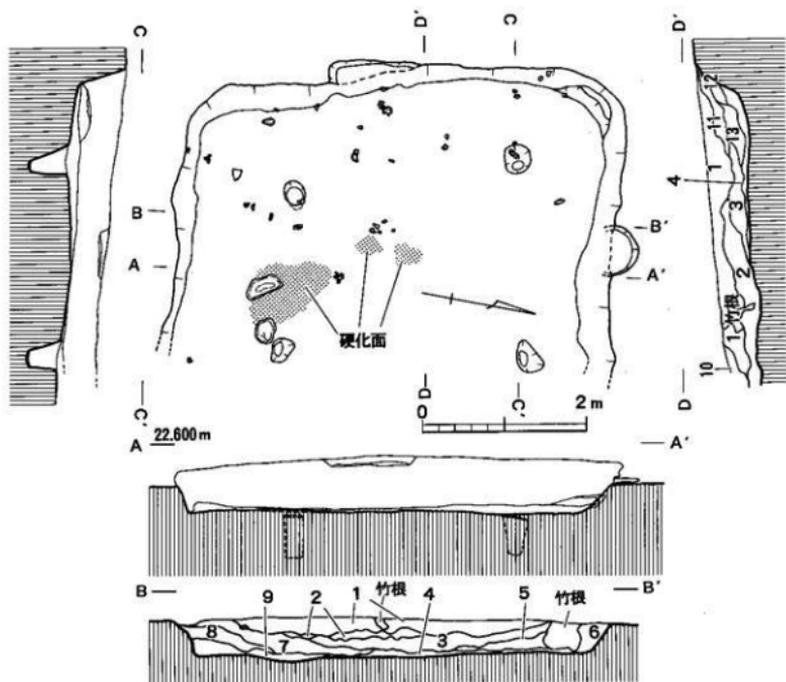
第44図 SA5実測図（1/60）



第45图 SA5出土遺物実測図(1) (619~647 1/4、627 1/3、648 2/3)



第46圖 SA5出土遺物実測圖(2)(649・650 1/4、651~644 1/3)



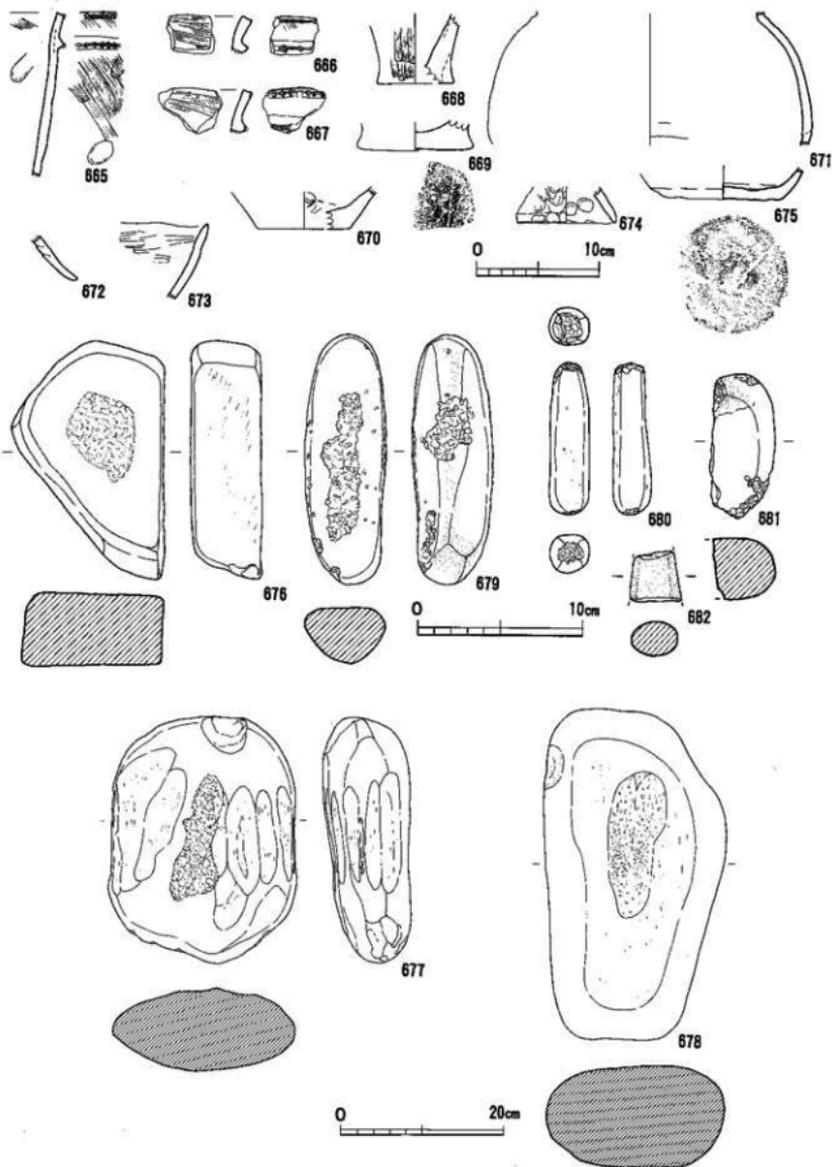
#### SA 6 土層注記

- 1 暗褐色 土～やや軟質。明黄褐色粒をやや多く、炭化物粒 (0.5~1mm) を若干含む。
- 2 褐色 土～1層よりしまり有り。明黄褐色粒・炭化物粒 (0.3~1mm) をわずかに含む。
- 3 暗褐色 土～1層よりしまり有り。明黄褐色粒 (1~5mm) をやや多く、炭化物粒 (3mm程) をわずかに含む。土器片を含む。
- 4 褐色 土～ややしまり有り。明黄褐色粒を若干含む。
- 5 褐色 土～3層より硬くしまっている。炭化物粒を若干含む。
- 6 褐色 土～しまりあり。ややにおい暗褐色土を混在する。明黄褐色粒をやや多く、炭化物粒を若干含む。土器小片を含む。
- 7 暗褐色 土～しまり有り。硬質。2層土のブロックが混在。明黄褐色粒 (3mm程)・炭化物粒 (3mm程) をやや多く含む。土器小片若干含む。
- 8 褐色 土～7層よりややしまり有り、硬質。暗褐色土が混在する。明黄褐色粒・炭化物 (2mm程) を若干含む。
- 9 暗褐色 土～7層より軟質。黒色土若干混在。明黄褐色粒・炭化物 (1~2mm程) を若干含む。
- 10 暗褐色 土～軟質。
- 11 褐色 土～1層よりやや軟質。明黄褐色粒・炭化物 (1~3mm程) をやや多く含む。
- 12 褐色 土～しまり有り。明黄褐色粒をやや多く、炭化物を若干含む。
- 13 におい黄褐色土～11よりやや軟。明黄褐色粒・炭化物 (2~3mm程) を若干含む。

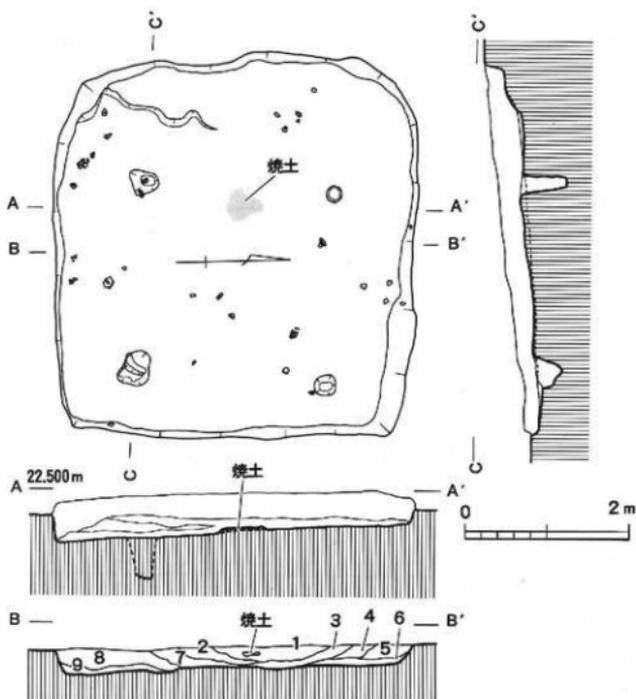
第47図 SA 6 実測図 (1/60)

る。

出土遺物を第55図に示した。714~718は弥生土器である。(714、口縁4-B)は甕である。口縁部をつまみ出して成形している。(715・716、8-D-1)は肩部に数條の突帯を持つ壺である。(717・718、1)は壺の胴部である。717はA区出土であるが、718と同一固体と思われる。内外面調整はハケ目で、ヘラによる刻線が施されている。719は磨製石畿の母材となったと思われる頁岩の剥片である。



第48図 SA 6出土遺物実測図  
 (665~675 1/4、676・679~682 1/3、677・678 1/6)



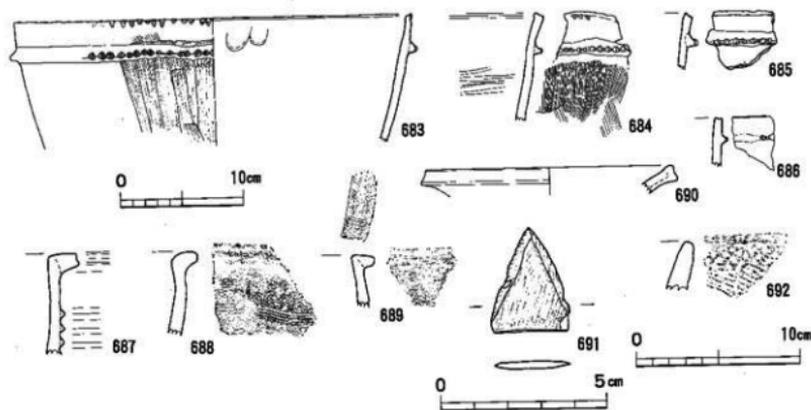
- 1 褐色 土～硬質。明黄褐色粒をわずかに含む。焼土ブロックを混在する。
- 2 褐色 土～硬質。黄褐色土の小ブロック混在。
- 3 褐色 土～1層よりやや軟。黄褐色土の小ブロックが混在。
- 4 暗褐色 土～やや軟。炭化物粒を含む。
- 5 褐色 土～4層よりややしまっている。炭化物粒を若干含む。
- 6 褐色 土～やや軟。炭化物粒を若干含む。
- 7 褐色 土～やや軟。暗褐色土ブロックが混在。明黄褐色粒(3mm程)と炭化物粒を若干含む。
- 8 褐色 土～軟質。明黄褐色粒・炭化物粒をわずかに含む。
- 9 褐色 土～8層よりしまりが有る。炭化物粒を含む。

第49図 SA7実測図(1/60)

### SC3 (第54図)

SC2の東側に隣接する。直径70cm、深さ23cmの落ち込みに弥生中期の土器が集積している。土器量はSC2よりも多い。

出土遺物を第56図に示した。720～733は弥生土器である。720～725は甕である。720は口縁端部に断面台形の突帯と、その下に断面三角の突帯を持つ大甕である。器壁が薄く、調整は外器面に縦ハケ目、内器面に斜のハケ目である。外器面の口縁部からその下20cmのところにもススが附着している。721も同一固体と思われる。722はわずかに外反する口縁端部に刻み目と、その下に刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。調整は外器面に縦ハケ目である。(723、口縁1-D-2)は胴部から口縁部に直行する口縁



第50図 SA7出土遺物実測図(683~690 1/4、691 2/3、692 1/3)

端部に刻み目と、その下に刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。調整は、外器面は縦ハケ目、内器面は横ハケ目である。(724、口縁2-B-2)は口縁端部に貼り付け突帯を持ち、口唇部は沈線を持つ。725は外器面に縦ハケ目調整のある薄手の甕胴部である。726~731は壺である。726・727は口縁端部に突帯を付けたもので、口唇部に沈線を持つ。(728、8-D-1・729)は同一固体と思われる。肩部に3条の三角突帯を持つ壺である。器壁が薄く、風化も著しいが、器面調整は外器面は横ミガキで内器面は横・斜のハケ目である。(730・731、4)は口縁が大きく開く壺である。口唇部に沈線を持つ。732は風化が著しいが、内面に丹塗りが見られる。壺の口縁部である。(733、2-C)は壺の胴部と思われる。内面は剥離しているが、外器面には櫛描波状文が施されている。734は砂岩製の台石である。736は磨製石鐮の未製品(凝灰岩)である。

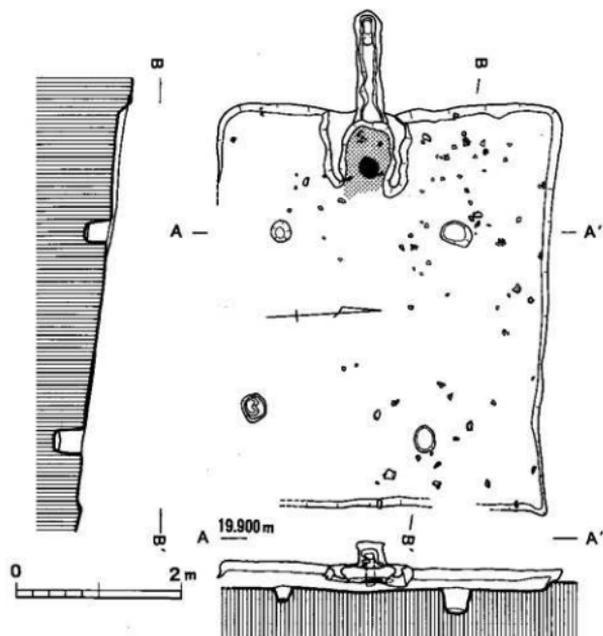
#### SC4 (第54図)

上段テラス南側の西壁際に位置する。壁際にあるため半分しか確認できなかったが、直径約1.65mの円形プランになると思われる。検出面からの深さは0.75mである。

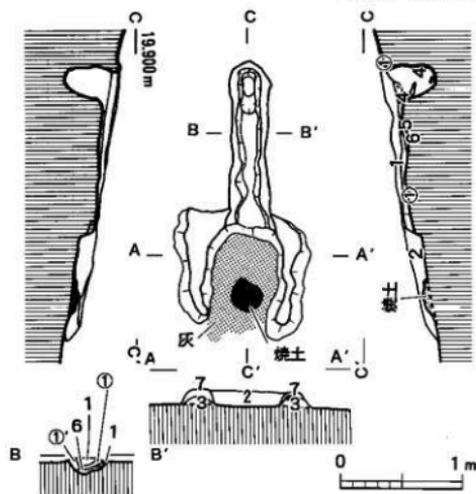
出土遺物735(第56図)は土師器である。外器面横ミガキ調整で丹塗りが施された小型壺の肩部である。その他、弥生土器なども出土しているが、遺物量も少なく、流れこみの可能性もあるので、遺構の時期は不明である。

#### SC5 (第54図)

下段テラス、SA8の東側に位置する。長軸1.13m、短軸1mのほぼ円形プランである。検出面からの深さは0.65mである。遺物は出土していない。

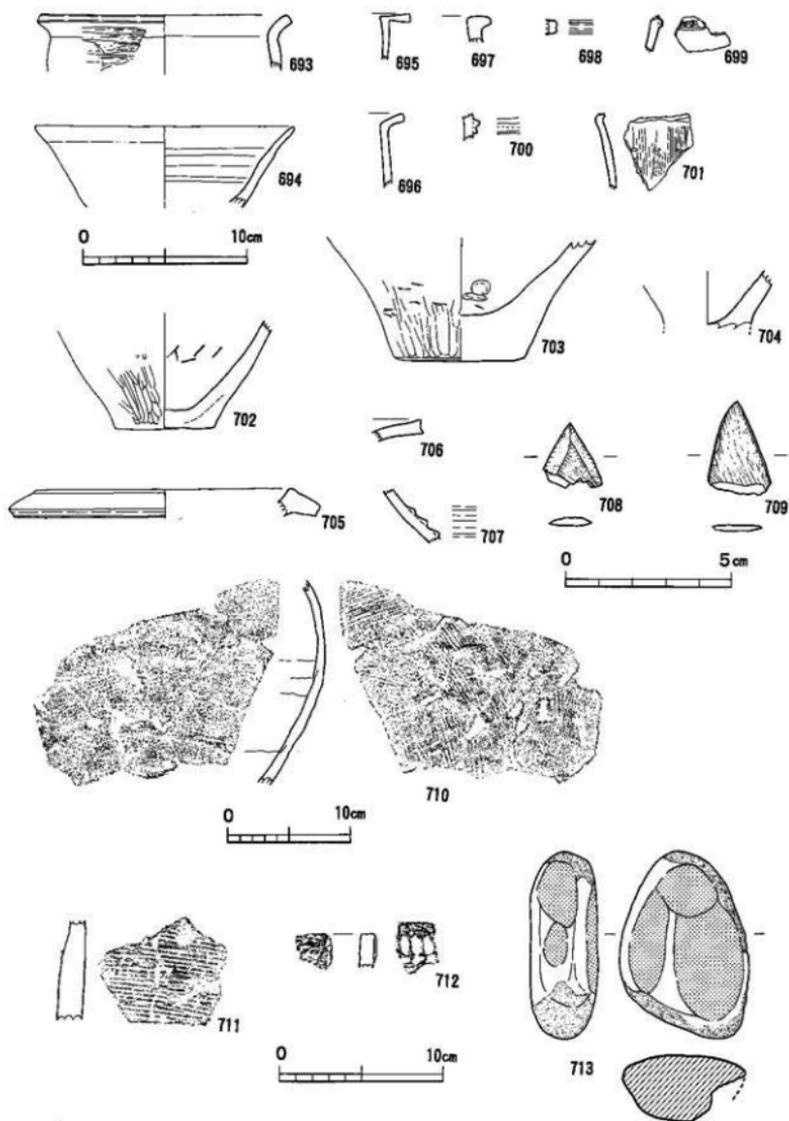


第51図 SA8実測図 (1/60)

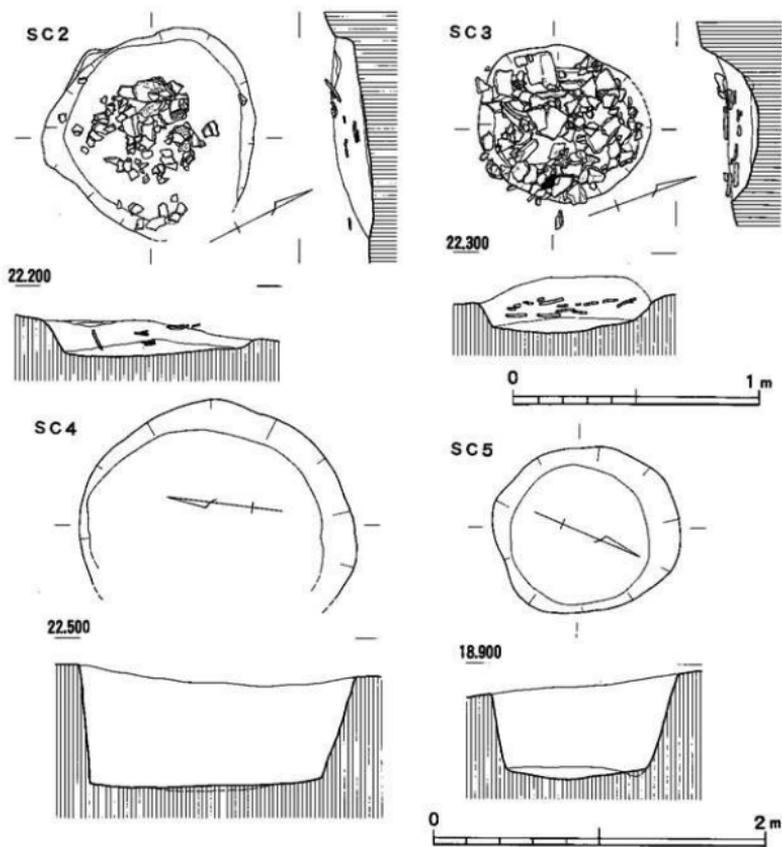


- 1 におい貴褐色粘土～粘土塊 (1～2cm角) が混じっている。焼けて赤変し、硬化している。煙道部の上部の粘土が圧しつぶされたものか？ 炭化物を含む。
- ① 赤褐色粘土～焼けてレンガのように硬化している。赤褐色の粘土塊 (0.5～1cm角) や、炭化物、灰の塊が混じっている。煙道下部面。
- ①' 赤褐色粘土～①層がもろくなっている。
- 2 赤灰色土～やや硬質。土器片を出土し、炭化物粒を多く含む。
- 3 褐色土～しまっていて硬質。カマド本体の土台に盛ったものか？
- 4 褐色土～軟質。炭化物粒 (3～5mm) を多く含む。灰の塊 (1～3cm) を含む。
- 4' 褐色土～やや硬質。1層の粘土ブロックが混じる。灰・炭化物粒を多く含む。
- 5 赤褐色粘土+褐色土～灰の塊や炭化物粒を多く含む。粘土がもろく崩れやすい。
- 6 炭溜まりの層
- 7 におい貴褐色粘土～硬化している。部分的に赤変し炭化物を含む。

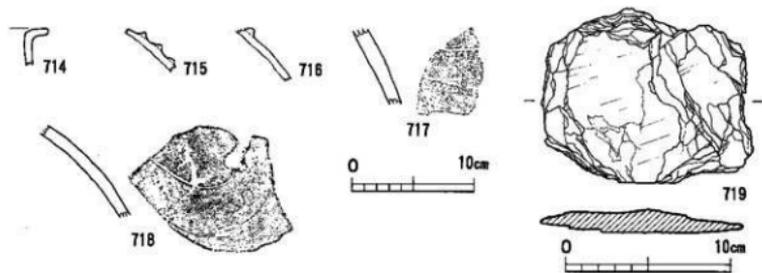
第52図 SA8カマド実測図 (1/40)



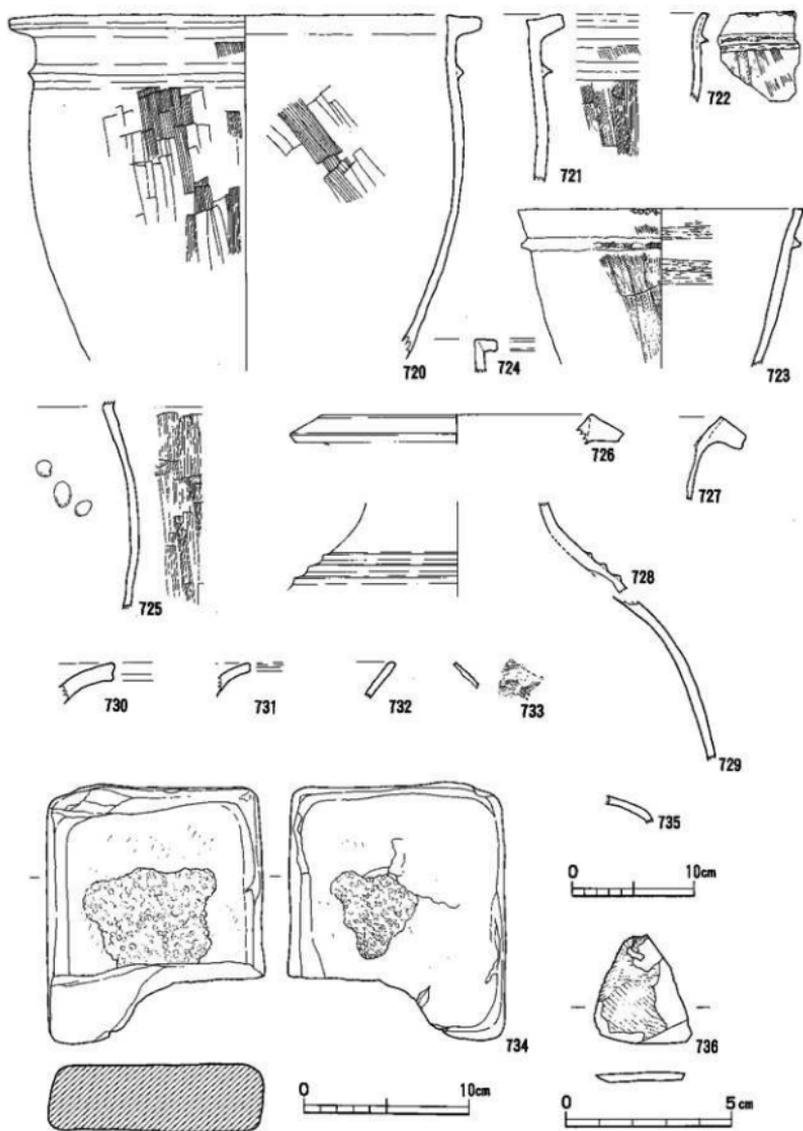
第53図 SA8出土遺物実測図  
 (693・694・711~713 1/3、695~707・710 1/4、708・709 2/3)



第54図 SC2・3 (1/20)、SC4・5 (1/30) 実測図



第55図 SC2出土遺物実測図 (714~718 1/4、719 1/3)



第56图 SC3出土遺物実測図 (720~733・735 1/4、734 1/3、736 2/3)

## 集石遺構 S I 1～S I 8 (第57図)

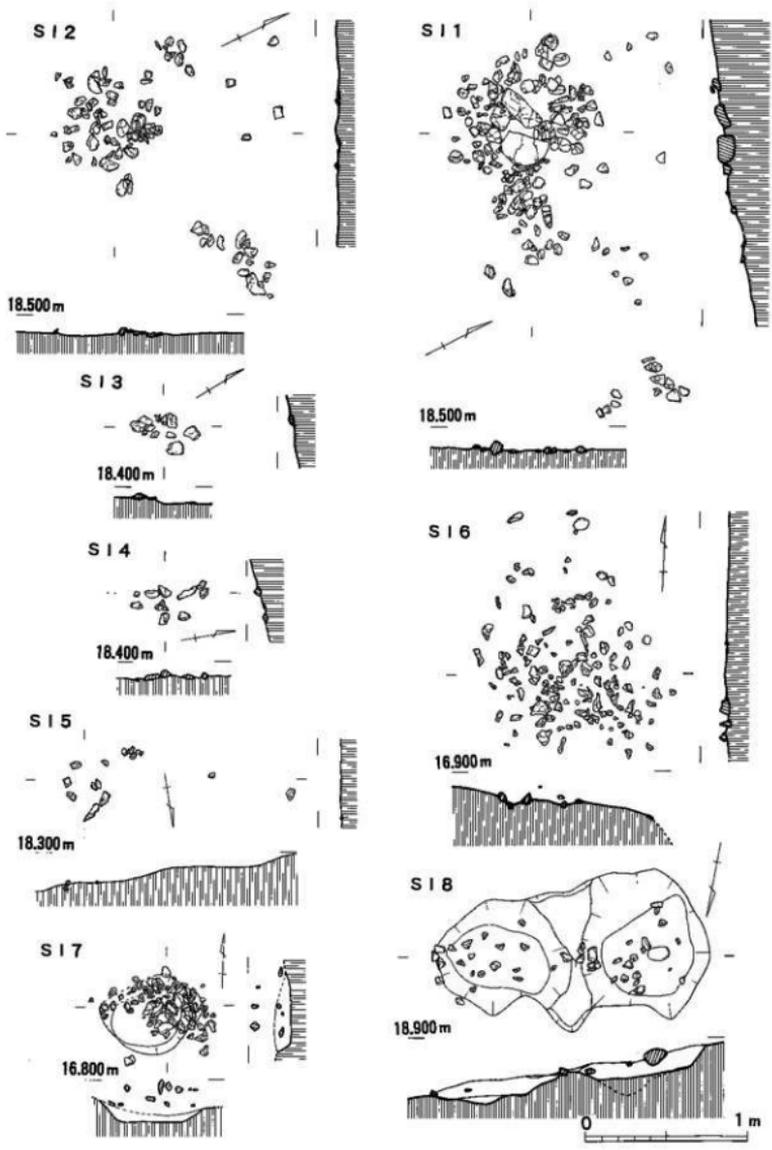
集石遺構は下段テラス、丘陵地先端部の第Ⅲ層上で確認された。しかし、その殆どは上部の耕作土と竹根によって攪乱を受け、残存状況は良好でなかった。集石遺構の時期については、遺構に共存する遺物が少なく、斜面に立地することから上部からの遺物の流れ込みも否めないが、遺構検出面の丘陵先端部に貝殻条痕を持つ縄文早期の土器が多く出土していることから、縄文早期の遺構と推定される。

S I 1・S I 2は隣接して検出された。S I 1は他の集石遺構に比べて一番残りが良く、大きなものである。赤変した30cmほどの大きな石が中央にある。石はもろく割れている。石の中に赤変した磨石(第58図～740)や風化して部位不明であるが、内外面に貝殻条痕を持つ土器片(第58図・738)が見られた。入っていた。下部に掘り込みは見られない。S I 2の石は殆どもろく割れており、部分的に赤変している。礫周辺に安山岩製のスクレイパー(第58図～741)が出土している。下部に掘り込みは見られない。S I 3～S I 5は10cm程の石が10個程集まったものである。下部に掘り込みが無く、規模も小さいため、遺構としての認定は難しい。S I 6・S I 7はテラスの最先端部に検出された。S I 6は約1mの範囲に5～10cm程の石が散乱した状態で確認された。下部に掘り込みは見られない。S I 7は5～10cm前後の石が直径80cm程に集積している。礫下の柔らかい土を除去したところ楕円形の落ち込みとなった。S I 8は検出面においては散石の状態であったが、礫下のじみ部を掘り下げると2つの落ち込みとなった。散石中に外器面に貝殻条痕を持つ土器片(第58図～737)や砂岩製の敲石(第58図～739)が出土している。

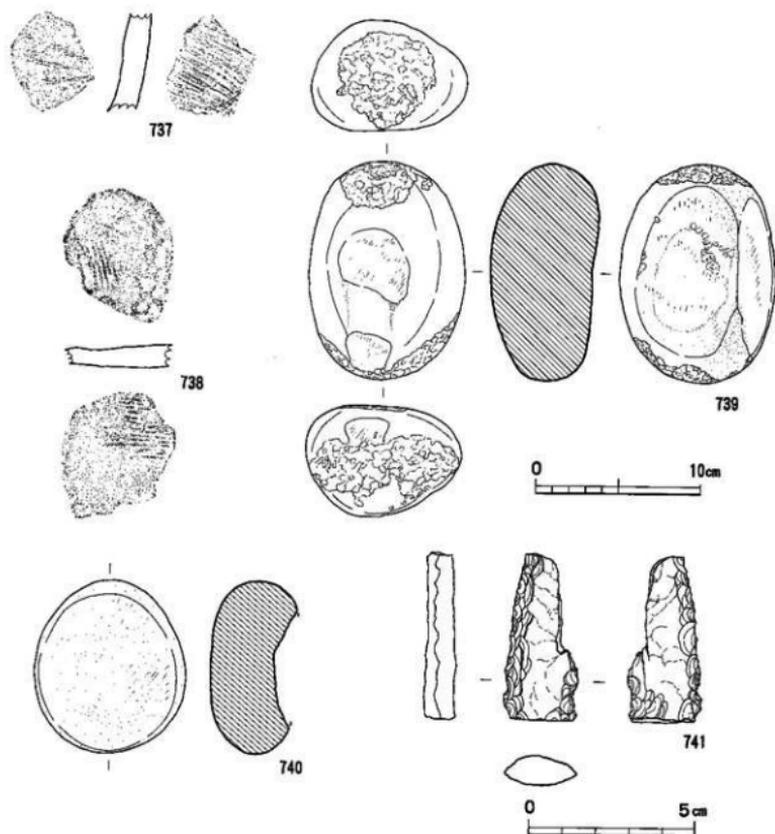
## 遺構外出土の遺物 (第59・60図)

742～750は縄文土器である。742～746は外器面口縁部に貝殻条痕と貝殻腹縁の刺突を持つ。いずれも内器面は丁寧なナデである。747～750の調整は、外器面に貝殻条痕、内器面に丁寧なナデである。いわゆる円筒系土器の前平式土器であると思われる。742は胎土と器壁の厚さが他とは異なる。751は安山岩を用いた打製石鏝である。752～772・775～779は弥生土器である。752～764は甕である。752は外器面に幅の広い縦ミガキが見られる。753～755は口縁端部に突帯を持つ、断面逆L字状の口縁を呈する。(756口縁1-B-3・757口縁1-D-3)は口唇部に刻み目を持ち、その下に刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。757は外器面調整は縦ハケ目である。(758、口縁1-B-1・759、口縁1-D-1・760、口縁1-B-1)は直行する口縁の下に刻み目を持つ貼り付け突帯を持つ。761は口縁が外に開いた甕で、口縁端部に刻みを持つ。くびれ部に突帯が付いていたと思われる痕跡がある。762は口縁の下に貼り付け突帯を持つ。763は甕胴部で、外器面調整が縦ハケ目である。上部に爪の痕跡を持つ。764は甕底部である。(764、底部1-B)は上げ底である。765～772は甕である。(765・766、1-B)は甕の底部で、平底である。765の外器面調整は縦ミガキである。767・768は口縁が大きく開く甕で、767は口唇部に沈線を持つ。769は口唇部に沈線を持つ。770は粘土をつまみ出して突帯をつくっている。内外器面調整はナデである。(771・772、8-D-1)は頸部下や肩部に数条の突帯を持つものである。773は凝灰岩製、774は頁岩製の磨製石鏝である。両面に細かな擦痕を残す。775は外器面横ミガキで丹塗りが施された小型甕の肩部である。776・777は高坏の脚柱部である。776は外器面に縦ミガキ、777は割れ口断面に透かしの一部が確認できる。778・779は高坏の杯部である。778は内外器面調整は横ミガキである。

780は黒曜石製の三稜尖頭器の基部であると思われる。主要剥離面と基部先端部に剥離痕が見られることから、尖頭器の刃部が欠損した際に刃程を切断し、基部先端部の加工を行い、二次の利用がなされ



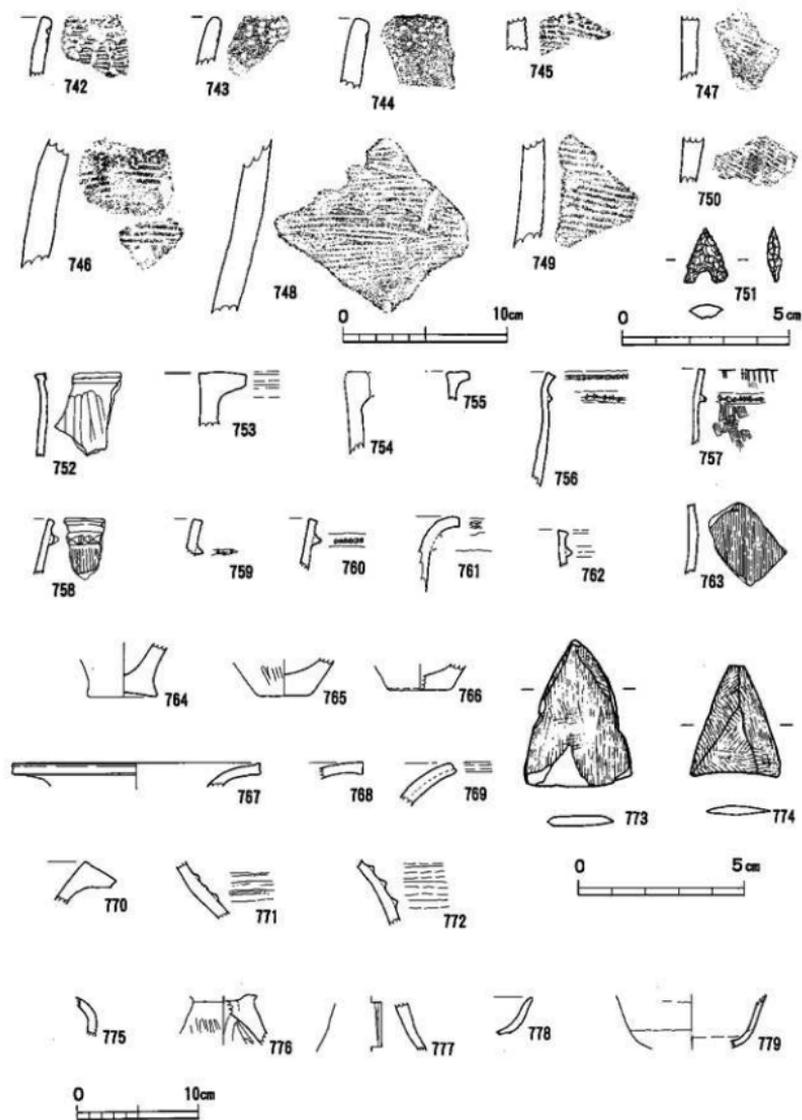
第57图 S11~8実測図 (S=1/30)



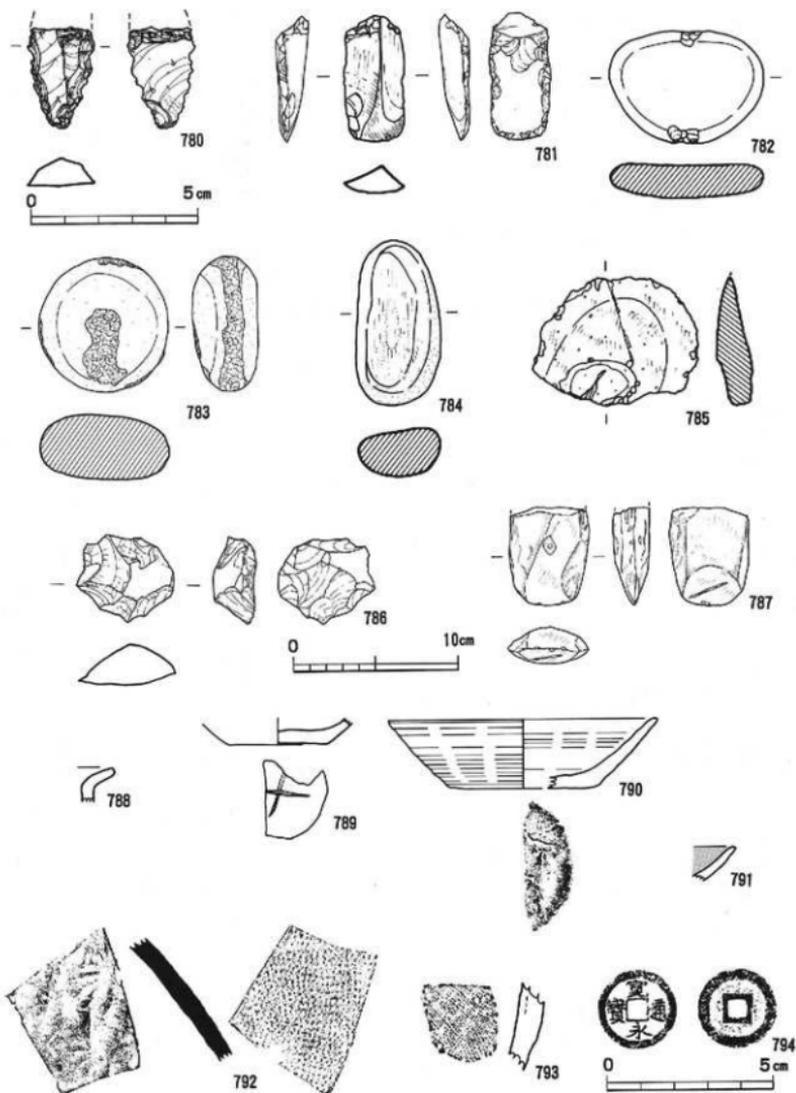
第58図 集石遺構出土遺物実測図 (737~740 1/3、741 2/3)

たことも推測される。781は断面三角形を呈する神子柴系の局部磨製石斧と思われる。頁岩製。

782は砂岩製の両端打ち欠き石錘である。783は砂岩製の敷石である。784は砂岩製の磨石である。785は尾鈴山系酸性凝灰岩製の磨石の剥離片である。786は石核で、石材は頁岩である。787は頁岩製の局部磨製石斧である。788~793は古代の土器である。788は壺である。789・790は平安時代の土器器杯である。789はヘラ切りによる底部切り離し後、ナデ仕上げをし、「+」のヘラ記号を持つ。790は底部ヘラ切りで、体部~口唇部が直行する。791は黒色土器である。792は須恵器大甕胴部である。外面に格子目タタキ、内面に放射状の当て具痕を持つ。793は布痕土器である。外面は粗いナデ、内面に布目汗痕を残す。794は寛永通寶である。



第59图 B2区遺構外出土遺物実測図(1)  
 (742~750 1/3、751・773・774 2/3、752~779 1/4)



第60图 B2区遺構外出土遺物実測図(2) (780・794 2/3、781~793 1/3)

第16表 B区出土土器観表(3)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	位置 (m)			手法・調整・文様ほか		色割			土器の特徴	備考
				口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面			
620	土師器	甕口縁	B2E SA5				ナデ	ナデ、工具痕	浅黄褐色	浅黄褐色	5mm以下の灰・赤褐色・乳白色の砂粒		
621	土師器	甕口縁	B2E SA5				ナデ	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	1~2.5mmの高橋・こげ茶色の砂粒		
624	土師器	甕口縁	B2E SA5				ナデ	ナデ、削り	明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の乳白・こげ茶・茶褐色の砂粒		
625	土師器	甕口縁	B2E SA5				ナデ、スス付帯	工具ナデ、削り	明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の褐色の砂粒 0.5mm以下の褐色光沢の砂粒		
626	土師器	甕口縁	B2E SA5				ナデ、削り、横ナデ、底痕	ナデ、指痕、削り	明黄褐色	明黄褐色	1~5mmの赤褐色の砂粒、2mm以下の灰黄・白・茶色・透明光沢の砂粒		
627	須恵器	甕口縁	B2E SA5	10.8		3.85	横ナデ、回転ヘラ削り、自然磨	横ナデ、仕上げナデ	灰褐色	灰褐色	3mm以下の灰黄・白色の砂粒 2mm以下の黒・白・灰黄の砂粒		
628	土師器	甕口縁	B2E SA5	13.3			横ナデ、風化灰味	横ナデ、指痕	黄褐色	黄褐色	0.3~1mm以下の黒色の砂粒		
629	土師器	甕口縁	B2E SA5	12.3	5.6	9.5	横ナデ、削り、指痕、スス付帯、水磨痕	横ナデ、指ナデ、指痕	明黄褐色	明黄褐色	0.5~2mm以下の黒・黒・灰黄色の砂粒		
630	土師器	甕口縁	B2E SA5	13.7			ナデ、指痕、粘土のつなぎ目	ナデ、粘土のつなぎ目	明黄褐色	明黄褐色	0.5~0.8mm以下の黒・黒・灰黄色の砂粒		
631	土師器	甕口縁	B2E SA5	5.7			ナデ、木の炭痕	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	2~0.8mmの褐色の砂粒、2mm以下の灰黄色の砂粒、0.5mm以下の黒色の砂粒		
632	土師器	甕口縁	B2E SA5				手摺ね	横ナデ、ナデ、指痕	黄褐色	黄褐色	2.5mm以下の黒・褐色の砂粒		
633	赤生土器	甕口縁	B2E SA5	13.4			風化灰味	風化灰味	黄褐色	黄褐色	0.5~2mmの黒・赤・褐色の砂粒 0.5mm以下の透明光沢の砂粒	口縁 1-2-1	
634	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				ナデ、風化著しい	指痕、風化著しい	黄褐色	黄褐色	2mm以下の明黄褐色・褐色の砂粒 1mm以下の無色透明光沢の砂粒	口縁 7-3-C	
635	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				ナデ、削り	削りナデ、指痕	明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の灰・黄・褐色・黒色透明の砂粒		
636	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				削り目、ナデ、削り目貼付突帯	ナデ	黄褐色	黄褐色	1.5mm以下の黒・灰・褐色・明黄褐色・褐色光沢の砂粒	口縁 1-2-1	
637	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				削り目、横ナデ、削り目貼付突帯	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	0.5~3mmの黒・乳白色の砂粒 3~0.8mmの褐色の砂粒	口縁 1-2-1	
638	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				横ナデ、ナデ、削り目貼付突帯、スス付帯	横ナデ、ハケ目	明黄褐色	明黄褐色	0.5~0.8mmの赤・褐色の砂粒	口縁 1-2-1	
639	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				ナデ、削り目、削り目貼付突帯	ハケ目、指痕	明黄褐色	明黄褐色	3.5mm程の灰白色の砂粒 1mm以下の無色透明光沢の砂粒	口縁 1-2-1	
640	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				ナデ、削り目、ハケ目、削り目貼付突帯	ハケ目	明黄褐色	明黄褐色	0.5~3mm以下の黒・乳白色の砂粒	口縁 1-2-1	
641	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				横ナデ、ハケ目、削り目貼付突帯、スス付帯	横ナデ、ハケ目、指痕	明黄褐色	明黄褐色	2~3mm以下の乳白・黄褐色の砂粒 0.5mm以下の褐色の砂粒	口縁 1-2-1	
642	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				ナデ、削り目貼付突帯、スス付帯	横ナデ	明黄褐色	明黄褐色	0.5~2mmの黒・白色の砂粒	口縁 1-2-1	
643	赤生土器	甕口縁	B2E SA5	6.2			ハケ目、削りナデ、指痕、スス付帯	ナデ、指ナデ	明黄褐色	明黄褐色	2~0.8mmの黒・乳白色・透明光沢の砂粒、1mm以下の無色透明光沢の砂粒	口縁 3-1	
644	赤生土器	甕口縁	B2E SA5	6.3			ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	0.3~1mmの黒・白色の砂粒	底部 3-A	
645	赤生土器	甕口縁	B2E SA5	22.8			横ナデ、指痕	ナデ	黄褐色	黄褐色	1mm以下の黒・褐色・灰白・黒色光沢の砂粒		
646	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				削り目、ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の黒・褐色光沢の砂粒		
647	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				ナデ、沈跡、横ナデ、スス付帯	指痕	明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の黒・褐色の砂粒		
649	土師器	甕口縁	B2E SA5	5.3	5.85	7.25	横ナデ、ナデ、指痕	横ナデ、指ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	0.5mm以下の黒・茶色の砂粒		
650	土師器	甕口縁	B2E SA5				ナデ、横ナデ	ナデ、工具痕	明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の茶色の砂粒		
651	土師器	甕口縁	B2E SA5	23.6	9.3	9.7	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の灰白・黒・灰色の砂粒		
652	土師器	甕口縁	B2E SA5	14.8	5.95	6.95	横ナデ、黒痕、円筒状高台	横ナデ、底部押圧	黄褐色	黄褐色	2mm以下の赤褐色・灰白・黒色の砂粒		
653	土師器	甕口縁	B2E SA5	13.2	6.3	6.0	横ナデ、黒痕、スス付帯、円筒状高台	横ナデ、工具痕、黒痕、底部押圧	明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の黒・灰白色の砂粒		
654	土師器	甕口縁	B2E SA5	8.4			ナデ、横ナデ、指ナデ、スス付帯、円筒状高台	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	0.5mm以下の黒・黄褐色の砂粒		
655	土師器	甕口縁	B2E SA5	19.8			横ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の赤褐色・灰白・褐色の砂粒		
656	土師器	甕口縁	B2E SA5	17.2			回転ナデ	横ナデ	黄褐色	黄褐色	2mm以下の黒・褐色の砂粒		
657	土師器	甕口縁	B2E SA5	13.1			回転ナデ	横ナデ	黄褐色	黄褐色	2mmの黒・灰褐色の砂粒 1mm以下の白・黒・灰褐色の砂粒		
658	土師器	甕口縁	B2E SA5	15.3			回転ナデ	横ナデ	黄褐色	黄褐色	1mm以下の黒・黒・黄白色の砂粒		
659	土師器	甕口縁	B2E SA5				横ナデ	横ナデ	明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の白色・透明・褐色光沢の砂粒		
660	土師器	甕口縁	B2E SA5	6.8			ナデ、指ナデ、高台内ナデ、円筒状高台	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の褐色の砂粒		
661	土師器	甕口縁	B2E SA5	7.3			ナデ	横ナデ	黄褐色	黄褐色	1mm以下の黒・黒・白色の砂粒		
666	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				ナデ、ハケ目の横ナデ、指痕	横ナデ、ハケ目の横ナデ、指痕	明黄褐色	明黄褐色	0.5mm以下の透明光沢・黒・褐色・褐色の砂粒	口縁 1-2-1	
666	赤生土器	甕口縁	B2E SA5				ハケ目の横ナデ、削り目貼付突帯、口縁部削り目	ハケ目の横ナデ	明黄褐色	明黄褐色	4mmの透明な黒・褐色の砂粒 1mm以下の白・褐色の砂粒	口縁 1-2-1	

第17表 B区出土土器観察表(4)

遺物 番号	種類	器種 部位	出土 地点	注量 (cm)			手法・装飾・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	高さ	外 形		外面	内面		
							外 面	内 面				
667	弥生土器	甕 口縁	B2R SA6				ナデ、スス付着、刻み目 貼付突帯、口唇部刻み目	ハケ目の横ナデ	横 横	黄灰	0.5m以下の褐色の礫 2.5m以下の白色の砂粒	下城系 1-3-1
668	弥生土器	甕 底部	B2R SA6	6.0			ハケ目、口唇のつぎ目	ナデ	横 横	黄灰	0.5m以下の褐色の礫 3.0m以下の黄・黒・白色の砂粒	下城系 3-A
669	弥生土器	甕 底部	B2R SA6	9.2			ナデ、水の蒸気	ナデ	横 横	黄灰	4.5m以下の褐色・透明光沢・黒色の砂粒 0.5m以下の赤褐色の礫	下城系 3-A
670	弥生土器	甕 底部	B2R SA6	7.5			ナデ、風化著しい、黒灰	ナデ、工具痕、黒灰	横 横	黄灰	0.5m以下の赤褐色の礫 3.5m以下の白・黄・褐色の砂粒	下城系 3-A
671	弥生土器	甕 頸部～腹部	B2R SA8				粗いナデ	ナデ、粘土のつぎ目	横 横	黄灰	3.5m以下の灰・黒・乳白色の砂粒	
672	弥生土器	甕 高坏 腹部	B2R SA8				横ナデ	横ナデ、粘土のつぎ目	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色・黒色の砂粒	
673	弥生土器	甕 口縁～腹部	B2R SA8				ナデ、風化著しい	ミガキ	横 横	黄灰	4.5m以下の透明光沢・褐色光沢・黒・赤褐色の砂粒	
674	弥生土器	甕 腹部	B2R SA8				ナデ、指頭痕	ナデ、指頭痕	横 横	黄灰	1.5m以下の白・黄・赤色の砂粒	
675	弥生土器	甕 底部	B2R SA8	9.5			ナデ、黒灰、ヘラ切り	ナデ	横 横	黄灰	0.5m以下の赤褐色・黒・灰白の砂粒	
683	弥生土器	甕 口縁～腹部	B2R SA7	31.8			ハケ目、ナデ、スス付着、刻み 目貼付突帯、口唇部刻み目	ついでないナデ、指頭痕	横 横	黄灰	2.5m以下の赤褐色・透明光沢・乳白色の砂粒	下城系 1-3-1
684	弥生土器	甕 口縁～腹部	B2R SA7				刻み目貼付突帯、口唇部刻み 目、横ナデ、ハケ目、黒灰	横ナデ、ハケ目	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色の礫 3.0m以下の黒・褐色光沢・褐色の砂粒	下城系 1-3-1
685	弥生土器	甕 口縁	B2R SA7				ナデ、ハケ目、刻み目貼付 突帯	ハケ目の横ナデ	横 横	黄灰	3.5m以下の灰白・赤色の砂粒	下城系 1-3-1
686	弥生土器	甕 口縁	B2R SA7				刻み目貼付突帯、横ナデ、 ハケ目	ハケ目	横 横	黄灰	1.5m以下の灰白色の砂粒	下城系 1-3-1
687	弥生土器	甕 口縁～腹部	B2R SA7				口唇部刻線、横ナデ、刻み 目貼付突帯	ナデ、風化気味	横 横	黄灰	2.5m以下の赤褐色・灰・透明光沢・赤 褐色の砂粒	下城系 1-3-1
688	弥生土器	甕 口縁～腹部	B2R SA7				横ナデ、縦線状文	ナデ	横 横	黄灰	2.5m以下の褐色・乳白色・透明光 沢な砂粒	
689	弥生土器	甕 口縁	B2R SA7				口縁上に3本の沈線、ナ デ、縦線状文	ナデ、指頭痕	横 横	黄灰	2.5m以下の白・灰・オリーブ褐色の砂粒	
690	弥生土器	甕 口縁	B2R SA7	19.8			ナデ	ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の乳白色・褐色光沢な砂粒	
692	縄文土器	甕 口縁	B2R SA7				貝殻灰質、ナデ、貝殻灰質 による連続刻文	ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の浅褐色透明光沢な砂粒	
693	弥生土器	甕 口縁	B2R SA8	30.01			横ナデ、ナデ	横ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の透明光沢・褐色光沢の 砂粒	
694	弥生土器	甕 口縁～腹部	B2R SA8	31.1			風化気味	ナデ、同輪ナデ、風化気 味	横 横	黄灰	0.5m以下の黒色・赤褐色の砂 粒	
695	弥生土器	甕 口縁～腹部	B2R SA8				ナデ、横ナデ、黒灰、ハ ケ目横ミガキ	横ナデ、ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色の砂粒 2.5m以下の灰白色の砂粒	
696	弥生土器	甕 口縁～腹部	B2R SA8				ナデ、横ナデ、ハケ目、 黒灰	横ナデ、ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色・褐色の砂粒	
697	弥生土器	甕 口縁	B2R SA8				ナデ	ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色光沢砂粒 2.5m以下の褐色・灰色・赤黄の砂粒	下城系 1-3-1
698	弥生土器	甕 口縁	B2R SA8				ナデ、沈線	ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色・褐色の砂粒	
699	弥生土器	甕 口縁付近	B2R SA8				刻み目貼付突帯、横ナデ	ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色・白色・褐色の砂粒	
700	弥生土器	甕 腹部	B2R SA8				横ナデ、貼付突帯	ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色光沢の砂粒 1.5m以下の黒色・褐色砂粒	
701	弥生土器	甕 頸部～腹部	B2R SA8				ナデ、ハケ目、スス付着	ナデ	横 横	黄灰	2.5m以下の褐色・褐色の砂粒	
702	弥生土器	甕 腹部～底部	B2R SA8	7.95			ナデ、風化気味、工具痕	ナデ、風化気味、工具痕	横 横	黄灰	1.5m以下の黒色・褐色・灰白の砂粒	1-A
703	弥生土器	甕 腹部～底部	B2R SA3	10.5			ミガキ、工具痕、縦線、 ナデ	ナデ、指頭痕、工具痕	横 横	黄灰	2.5m以下の赤褐色・灰白・褐色光沢・ 透明光沢の砂粒	1-B
704	弥生土器	甕 底部付近	B2R SA2				ハケ目、風化気味	ナデ、風化気味	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色・灰白色・黒色の砂 粒	
705	弥生土器	甕 口縁	B2R SA8	20.4			ナデ、指頭痕	ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色光沢の砂粒 2.5m以下の褐色・灰色の砂粒	
706	弥生土器	甕 口縁	B2R SA8				ナデ、風化気味、口唇部 に沈線	ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色・褐色光沢・透明光 沢の砂粒 3.5m以下の赤褐色・灰色の砂粒	
707	弥生土器	甕 腹部	B2R SA8				横ナデ、貼付突帯	ナデ、スス付着	横 横	黄灰	1.5m以下の赤褐色・透明光沢の砂粒 3.5m以下の黒色砂粒	8-D-1
710	弥生土器	甕 腹部	B2R SA8				ハケ目、風化気味	ナデ、ハケ目	横 横	黄灰	4.5m以下の赤褐色・褐色の砂 粒	
711	縄文土器	甕 腹部	B2R SA8				貝殻灰質	工具、ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の透明光沢の砂粒 2.5m以下の褐色の砂粒	
712	縄文土器	甕 口縁	B2R SA8				工具による押汗、刻文	ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の透明光沢・褐色光沢の砂 粒	
714	弥生土器	甕 口縁部	B2R SC2				ナデ、横ナデ、黒灰	横ナデ	横 横	黄灰	1.5m以下の灰白色・乳白色の砂粒	下城系 4-B
715	弥生土器	甕 腹部	B2R SC2				ナデ、貼付突帯	風化気味	横 横	黄灰	1.5m以下の褐色・褐色・透明光沢の 砂粒	8-D-1
716	弥生土器	甕 腹部	B2R SC2				ミガキ、ナデ、貼付突帯	風化気味	横 横	黄灰	1.5m以下の透明光沢の砂粒 2.5m以下の褐色砂粒	8-D-1
717	弥生土器	甕 腹部	B2R SC2				ハケ目、ヘラによる刻線	ハケ目の横、ナデ風化気 味	横 横	黄灰	1.5m以下の半透明光沢の砂粒	
718	弥生土器	甕 腹部	B2R SC2				ナデ、重畳文、黒灰	ナデ	横 横	黄灰	2.0m以下の褐色・黒色・透明光沢の 砂粒	下城系 1

第18表 B区出土土器観察表(5)

遺物番号	類別	産地・部位	出土地点	法量 (cm)			形状・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口徑	底徑	器高	外面		内面			
							外面	内面	外面	内面		
720	弥生土器	壺	B2区 口縁~胴部	32.7			横ナデ、スス付着、貼付突帯、ハケ目	横ナデ、ハケ目、風化気味	灰黄 黄灰	灰黄 黄灰	1.5mm以下の半透明光沢の砂粒 3mm以下の褐色の砂粒	
721	弥生土器	壺	B2区 口縁~胴部				横ナデ、貼付突帯、ハケ目、スス付着	横ナデ、ナデ、ハケ目、風化気味	灰黄 黄灰	灰黄 黄灰	2mm以下の褐色・灰色・褐色の砂粒	
722	弥生土器	壺	B2区 口縁~胴部				ナデ、胴部に沈線、ハケ目、口縁に貼付突帯、ハケ目、貼付突帯	ナデ、横ナデ	灰黄 黄灰	灰黄 黄灰	1mm以下の褐色・灰色砂粒、3mm以下褐色・灰色の砂粒、1.5mm以下褐色・灰色の砂粒	下層系
723	弥生土器	壺	B2区 口縁~胴部	21.7			ナデ、胴部に沈線、口縁部にハケ目、ハケ目、貼付突帯	横ナデ、ナデ	黄褐 黄褐	黄褐 黄褐	5.5mm以下の白色・褐色の塵	下層、 1-2-1
724	弥生土器	壺	B2区 口縁				横ナデ	横ナデ、指頭痕、ナデ	黄	黄	4mm以下の褐色・黒色・灰白色・白色・透明光沢の塵	口縁 2-8-2
725	弥生土器	壺	B2区 口縁~胴部				ナデ、ハケ目、スス付着	ナデ、指頭痕	黄	黄	2mm以下の灰黄色・白色・黒色の砂粒	下層系
726	弥生土器	壺	B2区 口縁	21.9			ナデ、指頭痕	ナデ	黄	黄	1mm以下の褐色光沢・透明光沢の砂粒、2mm以下の褐色色の砂粒	
727	弥生土器	壺	B2区 口縁~胴部				横ナデ、黒炭、指頭痕、スス付着	横ナデ	黄	黄	0.5mm以下の褐色光沢・灰白色の砂粒、3mm以下の褐色・褐色・黒色の砂粒	8-D-1
728	弥生土器	壺	B2区 口縁~胴部				ナデ、貼付突帯、貼付突帯、スス付着	ナデ、ハケ目、風化気味	黄	黄	1mm以下の褐色光沢・白色光沢の砂粒、2mm以下の褐色・褐色・黒色の砂粒	
729	弥生土器	壺	B2区 口縁				ミダキ、黒炭	ハケ目、黒炭	灰	灰	3mm以下の褐色光沢・白色光沢の砂粒、2mm以下の褐色・褐色・黒色の砂粒	
730	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、口縁部に沈線、風化気味	ナデ	黄	黄	1mm以下の褐色・灰色・褐色の砂粒	4
731	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、口縁部に沈線	ナデ	黄	黄	1mm以下の褐色・褐色の砂粒	4
732	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、肉線	ナデ	黄	黄	3mm以下の褐色の砂粒	
733	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、指頭痕	風化気味	黄	黄	1mm以下の乳白色・透明光沢の砂粒	2-B
734	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、指頭痕	風化気味	黄	黄	1mm以下の白色・透明光沢の砂粒	
735	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、指頭痕	風化気味	黄	黄	1mm以下の褐色光沢・透明光沢の砂粒、2mm以下の褐色・褐色・黒色の砂粒、4.5mm以下の褐色の塵	
736	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、指頭痕	風化気味	黄	黄	1mm以下の褐色光沢・透明光沢の砂粒、2mm以下の褐色・褐色・黒色の砂粒	
742	弥生土器	壺	B2区 口縁				貝殻線刻突文、貝殻線痕、沈線、ナデ	ていねいなナデ	黄	黄	1mm以下の灰黄・黒色光沢な砂粒	
743	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、貝殻線刻突文	貝殻線痕の横ナデ	黄	黄	2mm以下の白・灰・黒色光沢・透明光沢な砂粒	
744	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、貝殻線痕、貝殻線刻突文	ナデ	黄	黄	3mm以下の灰黄・灰・黒色光沢な砂粒	
745	弥生土器	壺	B2区 口縁				貝殻線刻突文、貝殻線痕	ナデ	黄	黄	1mm以下の褐色光沢・透明光沢な砂粒	
746	弥生土器	壺	B2区 口縁				貝殻線刻突文、貝殻線痕	貝殻線痕の横ナデ	黄	黄	4mm以下の灰黄色の塵、1mm以下の白・灰・黒・透明光沢な砂粒	
747	弥生土器	壺	B2区 口縁				貝殻線痕	ていねいなナデ	赤褐	明黄褐	1mm以下の灰黄・灰・黒・黒色光沢な砂粒	
748	弥生土器	壺	B2区 口縁				貝殻線痕	ナデ	明黄褐	明黄褐	1.5mm以下の黒・褐色・乳白色・赤・透明光沢な砂粒	
749	弥生土器	壺	B2区 口縁				貝殻線痕、風化気味	ナデ	黄	黄	1mm以下の透明光沢・褐色光沢な砂粒	
750	弥生土器	壺	B2区 口縁				貝殻線痕の横ナデ	ていねいなナデ	赤褐	明黄褐	0.5mm以下の灰・黄・黒・透明光沢な砂粒	
752	弥生土器	壺	B2区 口縁~胴部				横ナデ、ミダキ、黒炭	ナデ、工具痕、指頭痕	黄	黄	2mm以下の灰白・明黄褐の砂粒	
753	弥生土器	壺	B2区 口縁				横ナデ	横ナデ	黄	黄	3mm以下の褐色・灰黄・黒・黄・透明光沢な砂粒	
754	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ	横ナデ、ナデ	黄	黄	1.5mm以下の黄・黒・灰色の砂粒、2.5mm以下の白色光沢の砂粒	
755	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、黒炭、工具痕、スス付着	ナデ、黒炭	明黄褐	明黄褐	2mm以下の褐色光沢・灰色砂粒、2mm以下の灰白色砂粒、1.5mm以下の赤褐色の塵	
756	弥生土器	壺	B2区 口縁~胴部				口縁部に貼り付、刻み目、刻み目、貼付突帯、ハケ目、ナデ	ナデ	灰黄	灰黄	2.5mm以下の褐色・黒色・灰色の砂粒	下層、 1-3-3
757	弥生土器	壺	B2区 口縁~胴部				口縁部に貼り付、刻み目、ナデ、刻み目、貼付突帯、ハケ目	指頭痕、ナデ	灰黄	灰黄	1mm以下の褐色光沢砂粒、2mm以下の乳白色・透明光沢砂粒、5mm以下灰・褐色の塵	下層、 1-3-3
758	弥生土器	壺	B2区 口縁				横ナデ、刻み目、貼付突帯、ハケ目	横ナデ	黄	黄	3mm以下の白色・褐色の塵	下層、 1-2-1
759	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、横ナデ、刻み目、貼付突帯	横ナデ	黄	黄	2mm以下の乳白色・黄褐色の砂粒	下層、 1-2-1
760	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、粘土のつなぎ目、刻み目、貼付突帯、スス付着	ナデ	黄	黄	1mm以下の透明光沢の砂粒、2mm以下の乳白色の砂粒	下層、 1-3-1
761	弥生土器	壺	B2区 口縁				口縁部に貼り付、工具痕、ナデ	ナデ	黄	黄	1mm以下の褐色・黄褐色の砂粒	
762	弥生土器	壺	B2区 口縁				ナデ、貼付突帯、スス付着	ナデ	黄	黄	2mm以下の褐色・褐色・透明光沢の砂粒	
763	弥生土器	壺	B2区 口縁				ハケ目、スス付着	ナデ	黄	黄	4mm以下の褐色・赤・黒色・透明光沢の砂粒	
764	弥生土器	壺	B2区 口縁	5.2			ていねいなナデ	黄	黄	黄	2.5mm以下の褐色・灰褐色・黒色・褐色透明光沢の砂粒	底部 1-B
765	弥生土器	壺	B2区 口縁	5.2			黄	粗いナデ	黄	黄	1.5mm以下の灰・黄褐色の砂粒	1-B
766	弥生土器	壺	B2区 口縁	5.2			ナデ	ナデ、風化気味	黄	黄	1mm以下の黄・灰色・透明光沢の砂粒	1-B

第19表 B区出土土器観察表(6)

遺物 番号	種類	高橋・ 前位	出土 地点	法量 (cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴		備考
				口径	底径	高さ	外 面	内 面	外面	内面	外面	
767	弥生土器	遺 口縁	B-2 区	13.9			ナデ	ナデ	浅黄緑	浅黄緑	1mm以下の茶・黒・褐色・黒色光沢の砂粒	
768	弥生土器	遺 口縁	B-2 区				ナデ	ナデ	灰黄	黄	2mm以下の褐色・半透明・黒色光沢の砂粒	
769	弥生土器	遺 口縁	B-2 区				横ナデ、ナデ、指押入	横ナデ、指押入	灰黄	灰黄	3mm以下の褐色・灰濁・灰白・灰黄色の砂粒	
770	弥生土器	遺 口縁	B-2 区				ナデ、削い工具ナデ	ナデ	灰黄	灰黄	3mm以下の褐色・透明光沢・黒色光沢の砂粒	
771	弥生土器	遺 縁部へ割断	B-2 区				黒化著しい、削付突帯	ナデ	灰黄	灰黄	3mm以下の茶色・黒色光沢の砂粒	8-D-1
772	弥生土器	遺 胴部	B-2 区				横ナデ、削付突帯	ナデ	黄	黄	1.5mm以下の茶・黒色・透明光沢の砂粒	8-D-1
775	弥生土器	遺 胴部	B-2 区				ミガキ、円盤	ナデ	黄	黄	精良	
776	弥生土器	高坏 胴部	B-2 区				ミガキ、黒化斑味	ナデ	灰黄	灰黄	1mm以下の褐色・黒色光沢の砂粒	
777	弥生土器	高坏 胴部	B-2 区				ナデ、透かし	横いナデ	灰黄	灰黄	1mm以下の褐色・灰濁・黒色・無色透明な砂粒	
778	弥生土器	高坏 胴部	B-2 区				ミガキ	ミガキ、黒化	黄	黄	8の細か	
779	弥生土器	高坏 胴部	B-2 区	12.0			ナデ	ナデ	灰黄	灰黄	2mm以下の赤褐色・透明光沢の砂粒	
788	土師器	遺 口縁	B-2 区				横ナデ、スス付帯	横ナデ、ナデ、削り	黄	黄	2.5mm以下の茶・褐色の砂粒	
789	土師器	坏 底部	B-2 区	6.0			ナデ、ヘア記号	ナデ	黄	黄	2.5mm以下の褐色・灰白色・黒色光沢の砂粒	
790	土師器	坏 口縁へ透断	B-2 区	16.0	9.0		横ナデ、黒化斑味、ヘア 切り	横ナデ、黒化著しい	灰黄 黒、灰	灰黄	精良	
791	黒色土器	遺 口縁	B-2 区				ナデ、ミガキ	ミガキ、内蓋	灰黄濁	黒	1mm以下の乳白色・黒色光沢の砂粒	
792	須恵土器	遺 胴部	B-2 区				捺子目タナキ	捺子状出て具柄の上モノ	灰黄	灰黄	3mm以下の灰・黒・白色の砂粒	
793	布原土器	鉢 胴部	B-2 区				ナデ、指押痕	布目模	黄	黄	3mm以下の褐色・白色の砂粒	

第20表 B区出土土器計測表

4771 号	出土 地点	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
547	B1区 S17	石鏝	3	2.05	0.3	2.6	頁岩	
567	B1区 S18	砥石	8.5	8.05	3	307.4	砂岩	
568	B1区 S17	砥石	9.2	7.5	2.8	232.2	砂岩	
569	B1区 S18	砥石	8.15	2.9	2.3	70.6	砂岩	
590	B1区 S18	磨製石鏝	2.3	1.8	0.3	1.9	頁岩	
591	B1区 S18	使用済みの ある削片	3.65	3.85	1.0	14.1	頁岩	
610	B1区	削片	2.75	4.85	0.9	11.1	頁岩	
611	B1区	使用済みの ある削片	4.2	1.9	0.55	4.8	頁岩	
612	B1区	使用済みの ある削片	3.45	3.6	0.85	11.1	シルト 岩	
613	B1区	削片	2.8	2.7	0.95	6.2	黒曜石	
614	B1区	削片	4.7	2.0	1.8	11.9	頁岩	
615	B1区	磨製石鏝木	4.1	3.2	0.3	5.4	緑色凝 灰岩	
616	B1区	磨製石鏝	2.55	2.45	0.13	1.4	緑色凝 灰岩	
617	B1区	石包丁	3.15	7.15	0.9	23.4	頁岩	
618	B1区	くぼみ石	10.5	9.5	4.0	740	尾跡 削片	
648	B2区 S15	磨製石鏝	2.3	2.0	0.2	1.4	瀬灰岩	
662	B2区 S15	砥石	9.6	4.3	2.65	159.0	砂岩	表面に砥 屑が付
663	B2区 S15	台石	33.55	21.5	6.2	1,900	砂岩	
664	B2区 S15	台石	8.9	10.05	3.05	370	砂岩	
676	B2区 S15	台石	14.55	9.25	4.3	940	砂岩	
677	B2区 S15	台石	30.4	22.95	10.65	5,850	砂岩	砥石兼用 か?
678	B2区 S16	台石	40.8	22.0	12.5	18,300	砂岩	
679	B2区 S16	砥石	15.2	5.0	3.4	400	砂岩	
680	B2区 S16	砥石	9.38	2.46	2.30	90	砂岩	

4771 号	出土 地点	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
681	B2区 S16	砥石	8.82	3.8	4.1	190	砂岩	
682	B2区 S16	磨製石弁	3.15	3.2	2.1	30	砂岩	
691	B2区 S17	磨製石鏝	3.15	2.43	0.22	2.0	瀬灰岩?	
708	B2区 S18	磨製石鏝	1.95	1.75	2.0	0.6	瀬灰岩	
709	B2区 S18	磨製石鏝の 未製法	2.85	2.9	2.0	1.2	瀬灰岩	
713	B2区 S18	砥石	11.25	7.9	4.0	435	砂岩	
719	B2区 S17	削片	10.6	12.8	1.45	250	頁岩	
724	B2区 S17	穴石	15.7	13.0	4.0	1,500	砂岩	
736	B2区 S17	磨製石鏝の 未製法	3.3	3.0	0.25	2.9	瀬灰岩	
739	B2区	砥石	13.3	9.45	6.78	1,600	砂岩	
740	B2区	砥石	10.5	9.2	4.8	680	砂岩	
741	B2区	スクレイパー	5.0	2.25	0.9	12.9	安山岩	
751	B2区	石鏝	1.65	1.3	0.4	0.5	安山岩	
773	B2区	磨製石鏝	4.5	3.25	0.3	5.9	瀬灰岩	
774	B2区	磨製石鏝	3.45	2.7	2.5	2.4	頁岩	
780	B2区	三稜尖頭器	31.28	20.28	8.19		黒曜岩	
781	B2区	局部磨製石 弁	7.7	3.7	1.75	50	頁岩	
782	B2区	石鏝	4.4	7.0	2.1	195	砂岩	
783	B2区	砥石	8.2	7.75	4.65	340	砂岩	
784	B2区	砥石	10.05	5.3	3.05	240	砂岩	
785	B2区	砥石?	7.8	10.1	2.2	180	尾跡 削片	
786	B2区	石核	5.3	5.9	2.55	70	頁岩	
787	B2区	局部磨製石 弁	5.9	4.9	2.25	90	頁岩	

## 第V章 自然科学分析の結果

株式会社 古環境研究所

### 第1節 市位遺跡のテフラ

#### 1. はじめに

宮崎県域には、始良カルデラや霧島火山さらに阿蘇カルデラなど、南九州や中九州の火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が広く分布している。これらのテフラの多くについてはすでに噴出年代が明らかにされており、層位関係を求めることによって、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代に関する資料を収集できるようになっている。そこで年代が不明な石器が検出された市位遺跡において、地質調査と屈折率測定を合わせて行い、過去の年代や空間の指標となる示標テフラの層位を明らかにして、石器の年代に関する資料を得ることになった。調査の対象となった地点は、B2区である。

#### 2. 土層の層序

石器が検出されたB2区東では、下位より良く発泡した黄色細粒軽石に富む淘汰の良い黄色砂層（層厚3cm以上）、灰色がかった暗褐色砂質土（層厚41cm、軽石の最大径6mm）、褐色土（層厚36cm）、灰色がかった暗褐色土（層厚10cm）、黄色粗粒火山灰混じり黒灰色土（層厚17cm、試料番号1）、褐色土（層厚60cm）が認められる（図1）。これらの土層のうち、最下位の黄色砂層は層相や含まれる軽石の岩相などから、約2.2-2.5万年前に始良カルデラから噴出した始良入戸火砕流堆積物（Ito, 荒牧, 1969, 町田・新井, 1976, 1992）の再堆積層と考えられる。発掘調査では、中位の褐色土中から黒曜石製の石器が検出されている。

#### 3. 屈折率測定

##### (1) 測定試料と測定方法

試料番号1に含まれる黄色粗粒火山灰の起源を明らかにするため、屈折率測定を行い示標テフラとの同定を行った。屈折率の測定は、位相差法（新井, 1972）による。

##### (2) 測定結果

屈折率測定の結果を表1に示す。この試料には、斜方輝石のほか単斜輝石や磁鉄鉱さらに少量の角閃石が含まれている。そして斜方輝石の屈折率( $n$ )のrangeは1.705-1.707、modeは1.706である。重鉱物の組み合わせや斜方輝石の屈折率は、これらテフラ粒子が約1.6万年前以降に霧島火山から噴出した霧島小林軽石（Kr-Kb, 伊田ほか, 1956, 町田・新井, 1992）に由来していることを示している。なお、Kr-Kbは約1.05万年前に桜島火山から噴出した桜島薩摩テフラ（Sz-S）の低位にあることが知られている（町田・新井, 1992）。

以上の結果、市位遺跡において検出された石器の層位は、始良入戸火砕流堆積物の上位でKr-Kbの低位にあることが明らかになった。

#### 4. まとめ

市位遺跡において地質調査と屈折率測定を行った。その結果、下位より始良入戸火砕流堆積物の再堆積層（約2.2-2.5万年前）と霧島小林軽石（Kr-Kb, 約1.6-1.05万年前）が検出された。市位遺跡の年代が不明な石器の層位は、始良入戸火砕流堆積物の再堆積層とKr-Kbの間にある。

〈参考文献〉

- 新井房夫 1972 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究, 第四紀研究, 11, p.254-269.
- 荒牧重雄 1969 鹿児島県分地域地質と火砕流堆積物, 地質雑報, 75, p.205-222. 伊田一善・本島公司・安国 昇 (1966) 宮崎県小林市付近の天然ガス調査報告, 地調報告, 168, p.1-44.
- 町田 洋・新井房夫 1976 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—, 科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 1992 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 276p.

表1 市位遺跡の屈折率測定結果

地点	試料	重鉱物	屈折率
B2区	1	opx>cpx,mt (ho)	opx (γ) : 1.705-1.707 (1.706)

屈折率の測定は、位相差法（新井, 1972）による。

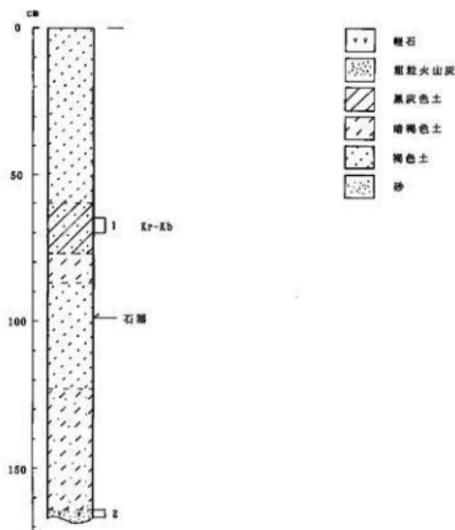


図1 市位遺跡B2区の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

## 第2節 放射性炭素年代測定結果

### 1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種 類	前処理・調整	測定法
Na 1	5号住居跡床面	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	$\beta$ 線法

### 2. 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代 交点 ( $1\sigma$ )	測定No. (Beta <sup>-</sup> )
Na 1	1760 $\pm$ 60	-29.7	1680 $\pm$ 60	AD395 (AD330~430)	85714

#### 1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は5,568年を用いた。

#### 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

#### 3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

#### 4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動を補正することにより算出した年代(西暦)。補正には年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い試料には適用できない。暦年代の交点とは、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。 $1\sigma$ は補正 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の $1\sigma$ 値が表記される場合もある。

### 第3節 市位遺跡出土炭化物の樹種同定

#### 1. 試料

試料は、5号住居跡から出土した炭化物3点である。

#### 2. 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面・放射断面・接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75~750倍で観察した。樹種同定はこれらの試料標本をその解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

#### 3. 結果

結果を表1に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

##### a. ヒノキ科 Cupressaceae

横断面、放射断面、接線断面共にヒノキ科の特徴を示すが、分野壁孔の型及び1分野に存在する個数が不明瞭なのでヒノキ科とした。

##### b. タイミンタチバナ *Rapanea neriifolia* Mez. ヤブコウジ科

横断面：小型のやや角張った道管が、単独および2~3個放射方向、または不規則に複合して散在し、全体として放射方向に配列する傾向を示す散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、5細胞幅前後の多列のものと単列のものが存在する。単列のものは少ない。

以上の形質よりタイミンタチバナに同定される。タイミンタチバナは本州（千葉県以西）、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の大低木または高木で、通常高さ10m、径25cmである。材は堅く強さ中庸で、耐朽性および保存性は高いが、反りなどの狂いが生じやすい。建築、家具、器具などに用いられる。

##### c. ハイノキ属 *Symplocos* ハイノキ科

横断面：小型で丸い道管が、単独および不規則に複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は30~40本ほどで、道管の内壁にらせん肥厚が存在する。性放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、1~3細胞幅である。

以上の形質よりハイノキ属に同定される。ハイノキ属にはハイノキ、クロバイ、サワフタギなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉または常緑の低木から高木である。

#### 〈参考文献〉

- 佐伯浩・原田浩 1985 針葉樹材の細胞、木材の構造。文永堂出版、p.20-48。  
佐伯浩・原田浩 1985 広葉樹材の細胞、木材の構造。文永堂出版、p.49-100。

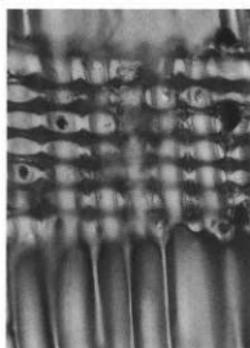
表1 市位遺跡出土炭化物の樹種同定結果一覧表

試料	樹種	(和名/学名)
5号住居 炭1	タイミンタチバナ	<i>Rapanea neriifolia</i> Mez.
5号住居 炭2	ハイノキ属	<i>Symplocos</i>
5号住居 炭3	ヒノキ科	Cupressaceae

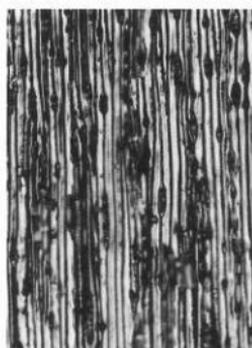
市位遺跡出土炭化物の顕微鏡写真 I



横断面 ————— :0.2mm



放射断面 ————— :0.04mm

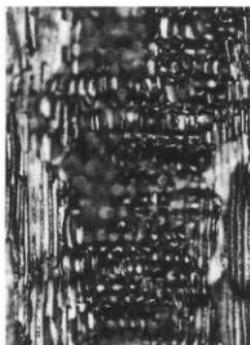


接線断面 ————— :0.2mm

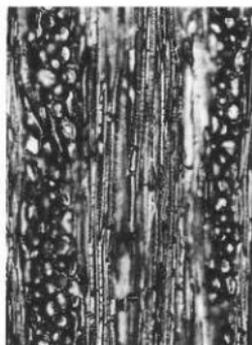
1. 5号住居 炭3 ヒノキ科



横断面 ————— :0.4mm

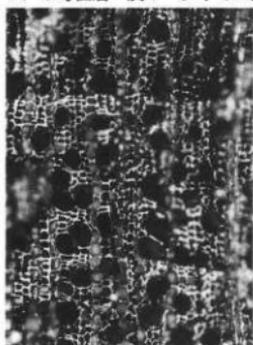


放射断面 ————— :0.2mm

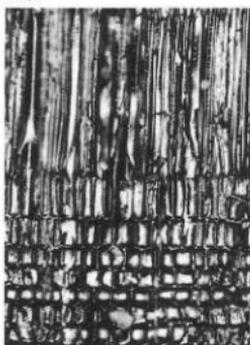


接線断面 ————— :0.2mm

2. 5号住居 炭1 タイミンタチバナ



横断面 ————— :0.2mm



放射断面 ————— :0.2mm



接線断面 ————— :0.2mm

3. 5号住居 炭2 ハイノキ属

## 第4節 市位遺跡の植物珪酸体分析

### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 1987)。

### 2. 試料

分析試料は、B2区地点で採取された13点のうち、試料1'、1、3、5、6、8、9、11、13の9点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

### 3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾 (105°C・24時間)
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスビーズ添加 (直径約40 $\mu\text{m}$ ・約0.02g)  
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法 (550°C・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散 (300W・42KHz・10分間)
- 5) 沈底法による微粒子 (20 $\mu\text{m}$ 以下) 除去、乾燥
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10<sup>-5</sup>g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。

### 4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

#### [イネ科]

機動細胞由来: キビ族型、スキ属型 (スキ属、チガヤ属)、ウシクサ族型、クマザサ属型 (おもにクマザサ属)、タケ亜科 (未分類等)

その他: 表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等 (樹木)

ブナ科 (シイ属)、クスノキ科 (バリバリノキ?), その他

始良入戸火砕流堆積物の再堆積層の上層(試料13)から鬼界アカホヤ火山灰の下層(試料1')までの層準について分析を行った。

その結果、始良入戸火砕流堆積物の再堆積層の上層(試料13、11)では、クマザサ属型や棒状珪酸体が多量に検出され、ウシクサ族型なども検出された。棒状珪酸体はおもにイネ科植物の結合組織細胞に由来しているが、イネ科以外にもカヤツリグサ科やシダ類なども形成される。棒状珪酸体の形態についてはこれまであまり検討がなされていないことから、その給源植物の究明については今後の課題としたい。

石器が出土した層準(試料9、8)でも同様の分類群が検出されたが、植物珪酸体密度は全体的に減少している。霧島小林軽石混層(試料6)より上層でもおおむね同様の結果であるが、試料3ではススキ属型やブナ科(シイ属)が出現し、試料1より上位ではクスノキ科も見られた。樹木はイネ科と比較して一般に植物珪酸体の生産量がかなり低いことから、植物珪酸体分析の結果から古植生を復原する際には、他の分類群よりも過大に評価する必要がある。

おもな分類群の推定生産量(図の右側)によると、全体的にクマザサ属型が卓越していることが分かる。

#### 5. 植物珪酸体分析から推定される植生・環境

以上の結果から、市位遺跡における堆積当時の植生と環境について推定すると次のようである。

始良入戸火砕流堆積物(約2.2-2.5万年前)の再堆積層の上層から霧島小林軽石(Kr-Kb、約1.6-1.05万年前)混層にかけては、クマザサ属を主体として、ウシクサ族型の給源植物なども見られるイネ科植生が継続されたものと推定される。クマザサ属は比較的寒冷なところに生育していることから、当時は寒冷な気候条件下で推移したものと推定される。また、クマザサ属は常緑性であることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカの重要な食物となっている(高槻, 1992)。

その後、鬼界アカホヤ火山灰(約6,300年前)の下層の時期には、遺跡周辺でブナ科(シイ属)やクスノキ科などの照葉樹林が成立したものと推定される。花粉分析の結果によると、南九州では約8,500年前には照葉樹林が成立していたとされており(松下, 1992)、今回の結果はこれと一致している。なお、シイ類の種実(ドングリ)は、アク抜きの必要がなく、そのままでも食用となる。

#### 〈参考文献〉

- 杉山真二 1987 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点。植生史研究, 第3号, p.27-37.
- 杉山真二 1987 タケ亜科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.
- 杉山真二・早田勉 1994 植物珪酸体分析による遺跡周辺の古環境推定(第2報) -九州南部の台地上における照葉樹林の分布拡大の様相-。日本文化財科学会第11回大会研究発表要旨集, p.53-54.
- 高槻成紀 1992 北に生きるシカたち-シカ、ササそして雪をめぐる生態学-。どうぶつ社。
- 藤原宏志 1976 プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-。考古学と自然科学, 9, p.15-29.

表1 市位遺跡の植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	1'	1	3	5	6	8	9	11	13
イネ科									
キビ族型	16		16	8	8		8		8
ススキ属型	16	32	8						
ウシクサ族型	39	127	48	23	111	24	16	93	127
タケ亜科									
クマザサ属型	94	64	119	100	150	230	179	358	286
未分類等	70	48	32	23	118	16	55	311	389
その他のイネ科									
表皮毛起源	8		16	15	24	16	8	8	8
棒状珪酸体	187	95	87	69	521	95	55	498	461
茎部起源			8						
未分類等	281	238	159	108	529	230	109	701	636
シダ類					8				
樹木起源									
ブナ科 (シイ属)	47	24	8						
クスノキ科 (バリバリノキ?)	8	8							
その他	8	24							
植物珪酸体総数	772	659	500	346	1469	612	429	1969	1915

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm)

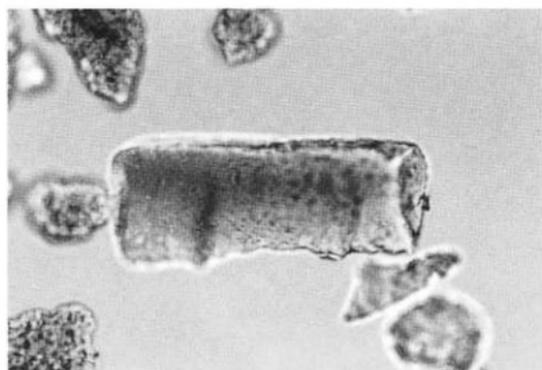
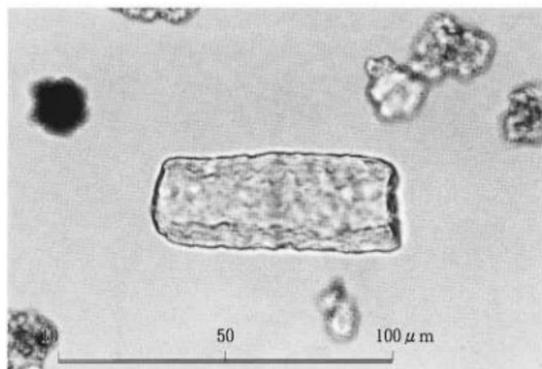
ススキ属型	0.19	0.39	0.10						
クマザサ属型	0.70	0.48	0.89	0.75	1.13	1.73	1.35	2.69	2.15

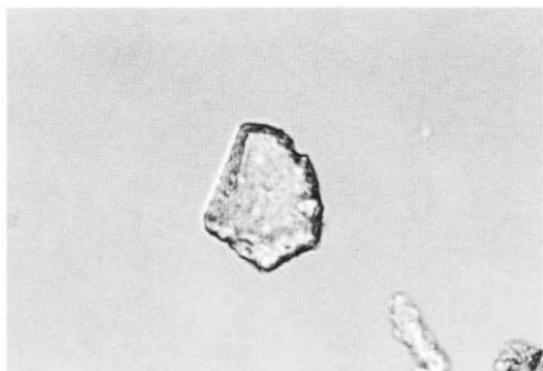
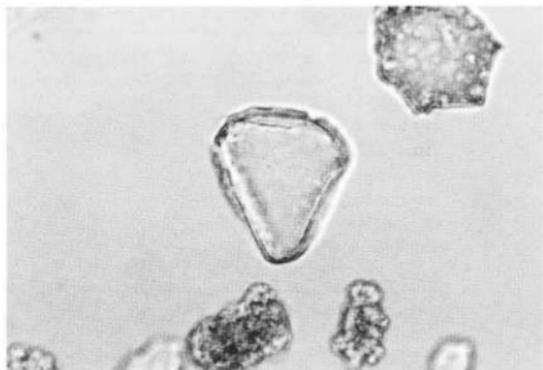
※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

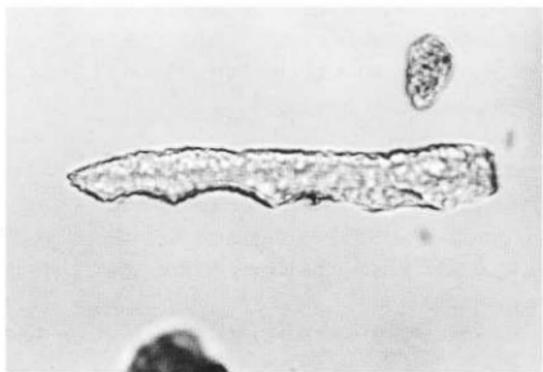
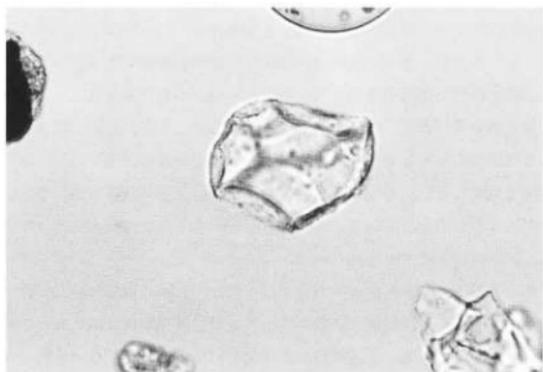
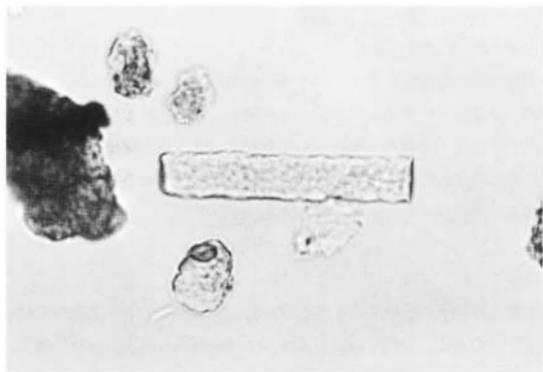


植物珪酸体の顕微鏡写真（倍率はすべて400倍）

No	分類群	試料名
1	キビ族型	9
2	キビ族型	5
3	ススキ族型	3
4	ウシクサ族型	1
5	クマザサ属型	11
6	棒状珪酸体	9
7	ブナ科（シイ属）	1
8	クスノキ科（バリバリノキ？）	1







## 第VI章 ま と め

市位遺跡では、丘陵斜面に営まれた堅穴住居8軒を検出した。弥生時代中期が4軒、古墳時代後期が2軒、平安時代中期1軒である。これまで砂丘上や台地上で確認されていた住居が、丘陵斜面や狭小なテラス面で確認されたことは、今後の調査に対して新たな視野を迫る結果となった。丘陵裾部で検出された谷地形からは、大量の弥生時代土器・古代の土器が出土した。以下では、いくつかの項目について検討を加え、市位遺跡の位置付けを行いまとめとする。

### ・縄文時代の市位遺跡

集石遺構は、動植物を調理する機能を有する石蒸料理跡や灰跡などが想定されている。市位遺跡で検出された集石遺構は8基である。遺構を構成する礫は、10cm前後の砂岩質の自然礫で、礫のほとんどは熱を受け赤変しひび割れている。遺跡周辺には段丘礫等は見られないものの、出土石器についても砂岩質の自然礫が多く使用されていることから、河川などから礫を運んできたことが想定される。約1.5km南方の清武川などが供給地として考えられる。集石遺構には掘り込みを持つもの（S I 7・8）と持たないもの（S I 1～6）がある。掘り込み内は、軟質土にまばらに礫が入っているだけで、炭化物などは見られなかった。検出された集石遺構のうち、中央に30cm程の礫が置かれているS I 1が最大規模で、他と比べると最も強く熱を受けたように礫の赤変が著しかった。また、丘陵先端部に確認されたS I 6は、小礫が散乱した状態で広がっており、廃棄礫のようにも思われる。遺構周辺には散礫が少ないことから、長期間の使用は想定し難い。隣間からは、貝殻文円筒形土器（前平式系）や、安山岩製のスクレイパー、砂岩製の磨石などが出土している。集石遺構周辺からも貝殻痕跡を持つ前平式系の土器が出土していることから、早期前葉の所産と考えられる。

出土した縄文時代の土器は、調査区による相違が見られた。A区（丘陵裾部）では後期の市来式土器や晩期の浅鉢が出土し、B区（丘陵斜面と中段のテラス面）では早期前葉のいわゆる前平式土器の範疇に含まれるものが主に出土している。A区での出土状況がいま一つ明確でないため、この相違が時期による生活域の違いに起因するのかについては明らかにし得なかった。B区では、早期の土器が第IV層（アカホヤ層と霧島小林軽石を含む層）に挟まれるから集石遺構と共に出土している。

石器については、安山岩製の打製石鏃やスクレイパー、砂岩製の石鎌などが出土している。これらの狩猟具・漁労具などによって収穫した食料を集石遺構で調理していたのであろうか。1点のみの出土であるが、草創期の神子柴系局部磨製石斧も出土している。（久木田）

### ・市位遺跡の弥生土器

市位遺跡でみられる弥生土器は、谷部からの出土で接合関係も少なく時期差もみられるため、流れ込みの可能性が高いが、量的な多さから廃棄の可能性も指摘される。主体となるのは中期であるが、前期の様相をもつものから、時間的な空白を生じるが後期後半の上層まで大きく3時期に分けられる。以下、石川悦雄氏の編年に従って分類を行う。

1期は、石川氏のII-a期に相当すると考えられる。甕は2類-Aとした小さな断面三角形の突帯を口縁にもつ26・27があげられ、同タイプが保木下遺跡で出土している。高坏252・253は受け部と脚部の

境に三角突帯を有し宮崎学園都市遺跡群内の前原北遺跡から方形透しをもつ類似の上器が出土している。北部九州編年による城ノ越式の段階と思われる。

2期は、時間的幅が大きく、A・B・Cの3小期に分けられる。

A期として壺では、2類-Bとしたやや大型化した口縁部突帯に口唇部が凹むタイプや、3類-AとしたL字に近い口縁をもつタイプがある。さらに、2類-B-1は、口縁部につく突帯は台形状を呈するが、小さく、古い要素をもつタイプである。壺は、2類-Cとした一群で、代表的な154は、口唇部に刻みをもつ古い様相を残し、肩の張る胴部をもつと考えられる。また高坏では、受け部が鉢状になる250や、脚部上端に刻目突帯を有し台形状の透かしをもつ251がこの時期にあたり、須玖I式～須玖I式新段階、石川氏のⅢ期に比定されると考えられる。

B期は、壺では3類-Bをあて、壺では、口縁部が斜め方向に朝顔形に開き、暗文をもつ4類-Aや155に代表され口縁内面に三角突帯をもつ2類-D、および壺9類-Cなどがあげられ、須玖I新～須玖II式に相当すると考えられる。

C期の壺は、くの字口縁を有する4類で、4類-Aは、刷毛目原休による連続する横方向の刺突文をもつ特徴がある。また、83は外反するやや厚手の充実した脚台状の底部をもち古い様相をもっている。壺では、8類があげられ、180は頸部に楕円形の浮文をもつ。須玖II～須玖II新式、石川氏のⅢ期～IV a期に相当すると考えられる。

下城系壺は、壺1類-Aとしたやや内湾する胴部をもち口縁直下に刻目突帯を有する古いものから、突帯の位置が下がる新しい様相をもつ1類-Eまで出土がみられる。

3期として、口縁端部に櫛波状文をもつ複合口縁壺264や、高台状の底部にくの字口縁がつく261・263のように頸部内面に絞り痕跡が認められる小型の壺が認められ、石川氏のV期に相当するものと考えられる。

本遺跡で、主体となる1期・2期の中でも特徴的なのは、口縁下に突帯をもつ下城系の壺や半截竹管による沈線や重弧文をもつ下城系の壺・貼付け口縁系の土器が多く出土することである。丹塗りや暗文が施される須玖式土器など北部九州方面からの搬入品も認められる。下城系土器は、保木下遺跡・茶岡遺跡・天神河内第1遺跡・椎屋形第一遺跡など大淀川流域に分布がみられるが、近接する学園都市遺跡群内の前原北遺跡などでは出土がみられず、貼付口縁系の土器が主体となる。このことは、下城系土器と貼付口縁系土器の分布域を考える際に注意を要すると思われる。(橋本)

#### (参考文献)

- |          |   |
|----------|---|
| 石川悦雄     | 1984 「宮崎平野における土器の編年試案—素描(MK, II)」『宮崎考古』第9号宮崎考古学会        |
|          | 1985 「日向考古資料I」『研究紀要』第十輯 宮崎県総合博物館                        |
| 大分県教育委員会 | 1995 『大分古墳・浜遺跡第2地点』大分土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書                 |
| 大分市教育委員会 | 1992 『下郡遺跡群』大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う発掘調査概報(3)                 |
| 新宮町教育委員会 | 1986 『新田原遺跡・瀬戸口遺跡・蔵園地下式焼火窯』児湯郡新宮町文化財調査報告書第4集            |
| 田中 茂     | 1972 『宮崎県出土の丹彩袋状口縁壺形土器について』『研究紀要』第三輯宮崎県総合博物館            |
| 宮崎県教育委員会 | 1986 『保木下遺跡』新名爪小規模河川改修事業に伴う埋蔵文化財調査報告書                   |
|          | 1988 『前原北遺跡』『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第4集                        |
|          | 1991 『天神河内第1遺跡』大淀川右岸農業水利事業国営天神ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書       |
| 宮崎市教育委員会 | 1996 『椎屋形第一遺跡 椎屋形第二遺跡 上の原遺跡』県営農地保全整備事業時保地区に伴う埋蔵文化財調査報告書 |

## ・古代の市位遺跡

市位遺跡の古代の土器のほとんどは、明確な遺構に伴うものではなく、A区の谷地形への流入（投棄か）という形で出土している。資料毎の共存性は不明確で、時期幅を含むものであることは否めない。しかし、個別の土器には注目すべき資料が多く含まれており、今後の古代土器研究には貴重なものとなる。

市位遺跡からは、須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・緑釉陶器・布痕土器が出土した。それぞれの器種構成は以下の通りである。

- 須恵器：蓋、坏、壺、甕
- 土師器：坏、碗、鉢、甕、甌、壺
- 黒色土器：坏、碗、小皿
- 灰釉陶器：碗
- 緑釉陶器：碗、皿
- 布痕土器：鉢

須恵器は、蓋・坏といった供膳形態が存在する。その中で注目されるのは、円盤状高台を有する一群である。底部はヘラ切り後に粗くナデている。県内の類例は少なく、わずかに宮崎学園都市遺跡群・前原南遺跡、小山尻東遺跡SA1出土遺物に見られるのみである。小山尻東遺跡では篠須須恵器鉢と共存している。畿内・四国地方に出自を求められよう。

土師器坏は最も多く出土している。9世紀後半～10世紀後半とある程度の時期幅を含む資料であるが、9世紀末から10世紀前半の時期が主体となる。明確な碗形態となるものが少なく、須恵器に類する回転ナデ調整の多用が特徴的である。概して直線的な体部を持ち、回転ヘラ切りの底部外面を粗くナデ消している。円盤状高台を有するものも多く見られる。その中で、455の坏は糸切りの円盤状高台を持つ。県内に類例は見られず、他地域からの搬入品である可能性が高い。456・457の稜碗も注目される。体部に稜を持つ器形は須恵器や緑釉陶器に見られるものであり、本道跡出土のものも胎土・調整が須恵器的であるが、焼成は軟質である。

黒色土器は全て内黒である。371・374の坏は、外面の調整が回転ナデであり、器形・調整が須恵器に似る九州系Ⅱ類に分類されよう。底部は残存していないが、小さな高台を有するものと思われる。380は無高台の小皿である。口径9.0cm、底径5.2cm、器高2.2cmで、底部はヘラ切り後に粗いケズリ、体部外面もケズリ成形である。県内外の類例に乏しく、その位置付けは留保せざるを得ない。器形的には九州系Ⅰ類の坏に似るが、口径・器高ともに小さく皿の範疇に含まれよう。

灰釉陶器は県内で初めて確認された。体部のみの部分施釉であり、460は高台端部が内湾する三口月高台である。猿投窯における編年に照らせばK90窯式（9世紀後半）に該当する。

緑釉陶器は、県内の遺跡で散見されるものの、その数は10数遺跡と決して多いものではない。碗の口縁には、直口のものと同外反するものが見られる。463は口唇部にわずかな押圧が見られ、輪花となる可能性がある。466と468は、体部中位にやや甘いながらも稜を有する。皿は1点のみの出土である。大きく外反する口縁は輪花となる。469は軟陶で、削り出しによる有線縁の円盤状高台である。畿内産で、9世紀前半まで遡る可能性がある。他は、口縁端反りの碗と体部に稜を持つ碗の混在、輪花の存在などから9世紀末から10世紀初めに位置付けられよう。

市位遺跡から南へ約3kmには、宮崎学園都市遺跡群が所在する。そのうち平安時代の遺構・遺物が検出されたのは、前原南遺跡・小山尻東遺跡・平畑遺跡・陣ノ内遺跡・浦田遺跡・下田畑遺跡・赤坂遺跡である。これらの遺跡を概観することにより、市位遺跡の平安時代について検討する一助としたい。

前原南遺跡は、カマド付竪穴住居3軒と掘建柱建物群を検出し、土師器・須恵器・黒色土器・布痕土器が出土している。「麻呂」の刻書を持つ須恵器壺が出土している。土師器環に共存して須恵器蓋環が出土しており、9世紀中頃に位置付けられる。包含層から円盤状高台を有する土師器環が出土することから、集落は9世紀中頃を主体に、9世紀末～10世紀前半まで継続したものと思われる。

小山尻東遺跡では、竪穴住居1軒を検出している。多量の土師器環とともに、篠窯須恵器鉢・越州窯青磁・緑釉陶器が出土している。土師器環には、円盤状高台を有するものが多く含まれる。緑釉陶器には、市位遺跡469に類似する有圈線円盤状高台が見られる。硬陶で、体部に稜を有する皿である。出土遺物のセット関係から、10世紀前半に位置付けられる。

平畑遺跡では、カマド付竪穴住居2軒・掘建柱建物群24棟（中世のものも含まれる）が検出され、土師器・須恵器・黒色土器・布痕土器・緑釉陶器が出土している。土師器環は、器高が低下傾向にあり口縁がやや外反するものを主体とする。円盤状高台を有するものもわずかに見られる。黒色土器は、学園都市遺跡群中最も多く出土している。法量がやや大きいものの、市位遺跡380の小皿に似る形態の坏も出土している。緑釉陶器は、硬陶と軟陶のものが見られる。削り出しによる円盤状高台を有する碗・皿が出土している。古代の集落は、10世紀代を通して営まれたと思われるが、その主体は10世紀後半に位置付けられる。

陣ノ内遺跡では、竪穴住居12軒（うち11軒がカマド付）を検出し、土師器・須恵器・黒色土器・布痕土器が出土している。土師器環に「大」の刻書を持つものが見られた。器形は、外傾する体部が直線的に延びるもの、器高がやや低下傾向を示すものが見られ、後者が主体となる。平畑遺跡に並行する時期の集落と思われる。

浦田遺跡では、カマド付竪穴住居1軒と掘建柱建物1棟を検出している。両者は切り合っており、竪穴住居が先行する。土師器・須恵器・黒色土器・布痕土器が出土している。土師器には、外傾する体部が直線的に延びる環、円盤状高台を有する環、口径10cm前後の小皿が見られる。9世紀末～10世紀前半と11世紀前半の二時期に分けられよう。

下田畑遺跡・赤坂遺跡は、ともにカマド付竪穴住居（2軒・1軒）と掘建柱建物（7棟・2棟）が検出されている。土師器・須恵器・黒色土器・布痕土器が出土しており、赤坂遺跡には緑釉陶器も見られた。竪穴住居からは、墨書土器・刻書土器が出土している。包含層出土の土師器環には、器高が低下し口縁が外反気味のものを含まれ、小皿も存在している。両遺跡ともに、竪穴住居跡が10世紀後半、掘建柱建物が11世紀前半に位置付けられる。

市位遺跡では、古代に属する遺構としてはカマド付竪穴住居1軒が検出されたに過ぎないが、遺物の面からは数時期にわたる集落が付近に営まれた可能性が指摘される。まず、端部折り曲げの須恵器蓋が出土していることから、供膳形態の消失直前の前原南遺跡と並行する時期が想定される。また、主体となる土師器環の形態は小山尻東遺跡に近似する。円盤状高台の存在や緑釉陶器からも10世紀前半の時期に位置付けられよう。土師器環には、器高が低下傾向にあり口縁が外反気味のものも含まれるが、明確な小皿が出現していないことから、10世紀後半までに収束する遺物群であろうと思われる。（東）

<参考文献>

- 岡本武憲 1991 「日向における古代末の土器宮崎学園都市遺跡群を中心として」『中近世土器の基礎研究』Ⅷ  
1995 「各地の土器様相13.九州南部」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編  
斉藤孝正 1987 「施釉陶器年代論」『論争・学説 日本の考古学』道山閣  
高橋照彦 1993 「防長産緑釉陶器の基礎的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第50集  
1994 「近江産緑釉陶器をめぐる諸問題」『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集  
楳崎彰一 1958 「猿投山須恵器の編年」『世界陶磁全集』第1巻 小学館  
宮崎県教育委員会 1985 「浦田遺跡」「平畑遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集  
1985 「下田畑遺跡」「小山尻東遺跡」「赤坂遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第3集  
1988 「陣ノ内遺跡」「前原南遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第4集  
森 隆 1992 「西日本の黒色土器生産 上・中・下」『考古学研究』第37巻第2・第3・第4号

・総括

旧石器時代の遺物は三稜尖頭器が出土したが、テフラ分析の結果により霧島小林軽石(Kr-Kb、約1.6~1.05万年前)と入戸火砕流の二次堆積物(約2.2~2.5万年前)の間にあることが確認された。その面的な広がり是不明である。

縄文時代においては、早期の貝殻文円筒形土器を伴う集石遺構が検出された。遺構数・出土土器量の少なさと、周囲に散らばる礫がほとんど見られなかったことは、長期間にわたる使用の可能性を否定している。

弥生時代・古墳時代・平安時代においては、竪穴住居が検出された。平地や台地の少ない県北山間部での検出例はあるものの、県央・県南地域で急な丘陵斜面に住居が営まれるのは異例である。丘陵裾部谷地形から出土した弥生時代土器や平安時代土器の量の多さを思う時、丘陵上で検出された遺構の数が決して多いものではないことは、当時営まれた集落の本体であったとは考え難い。周辺地形の中で最高標高を有し、日向灘や大淀川以南の平野部、南の宮崎学園都市遺跡群(丘陵地から派生する台地)までを見渡せる立地を持つことは、営まれた集落から離れ、視界を活かした特定の役割を担うものであった可能性も否定できない。ことさら往時の社会的・政治的緊張を想定するものではないが、弥生時代の須玖式土器や平安時代の灰釉陶器・緑釉陶器・須恵器・土師器などの外来系土器が、市位遺跡や宮崎学園都市遺跡群に搬入されている状況を考慮すると、物や人の通交の要所にあつたものと思われる。

(東)



A区全景 垂直



谷 1



谷 2



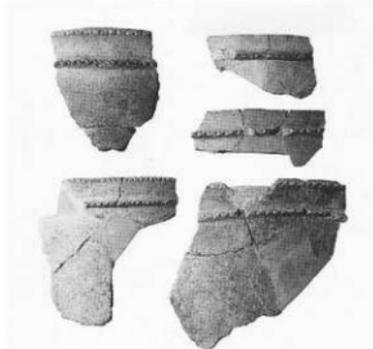
谷 3 埋土状況



谷 3



口縁1類



口縁1類



口縁1類



口縁1類-D



口縁1類

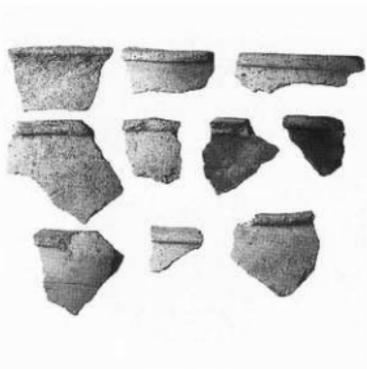


口縁1類-E・F

A区出土弥生土器壺(1)



口縁1類-B



口縁2類-B



口縁1類-F



口縁2類-B



口縁2類-A



口縁2類-B



口縁2類-B

A区出土弥生土器壺(2)



7類



口縁2類-B-4



7類



7類-A

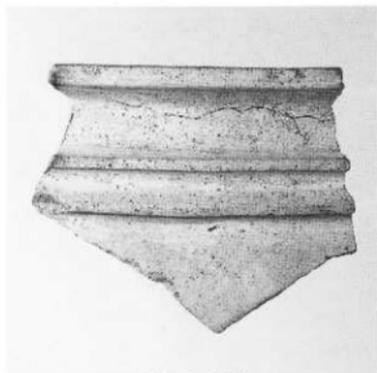


7類



7類-C

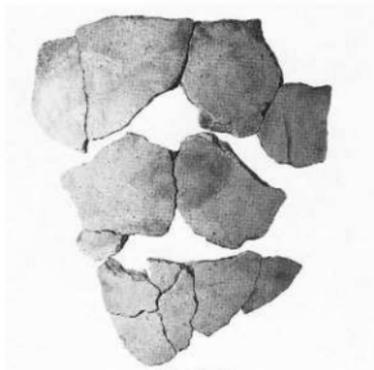
A区出土弥生土器壺(3)



7類-B (140)



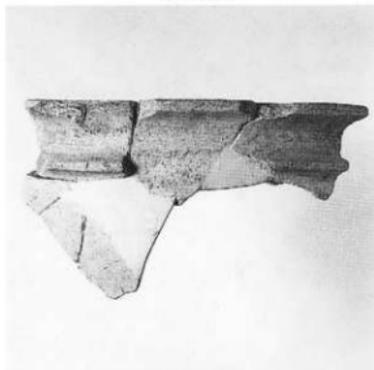
口縁3類



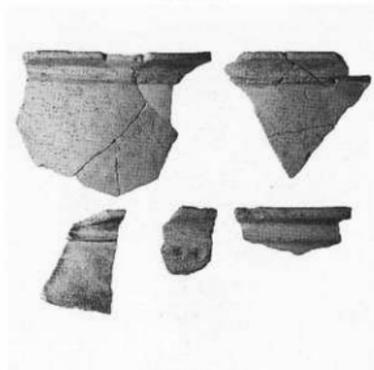
140の胴部



口縁4類



7類-C



口縁4類-C

A区出土弥生土器壺(4)



口縁4類-A-2



口縁4類-B



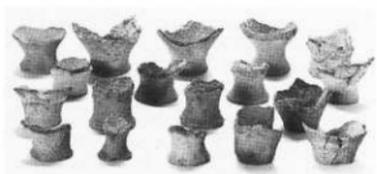
口縁4類-A



口縁4類-B・5類・6類



口縁4類-A-1



底部1類~3類



底部3類-B・4類

A区出土弥生土器(5)



1類



2類



4類-A



9類-A



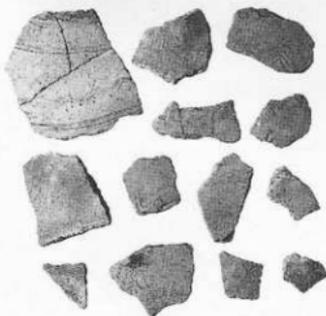
2類



2類



2類



8類

A区出土弥生土器壺(1)



8類-C・9類-B



2類



8類-D



8類-D-3



8類-D-1



8類-D-4

A区出土弥生土器壺(2)



3類



4類-A



4類-A-1



4類-A-1



198の胴部



4類-A-1

A区出土弥生土器壺(3)



4類-A-1



9類-C・D



4類-A-1



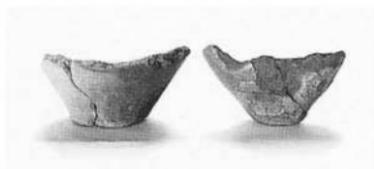
5類・6類



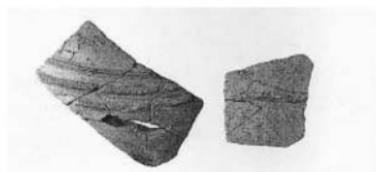
4類



7類



底部1類



9類-D



底部2類

A区出土弥生土器壺(4)



高坏 (1)



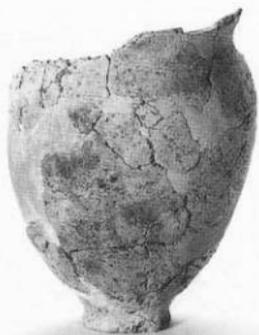
高坏 (2)



高坏 (3)



高坏 (4)



壺 (後期後半)



複合の縁壺



小型壺



土師器 (壺・碗形土器)



土師器 (碗形土器)

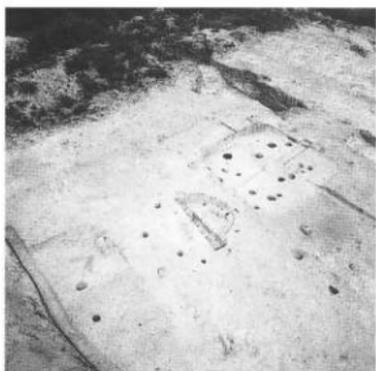
A区出土弥生土器・高坏・壺・壺・土師器



B区全景 垂直



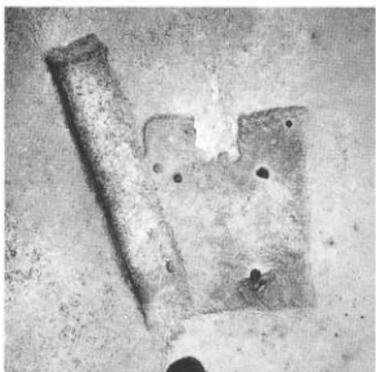
B区全景 斜め



B1区SA3・SA4



B2区SA5・SA6・SA7



B2区SA8



SA8カマド